

事項一七 「メキシコ」革命動乱關係一件

(「カランサ」政府承認問題ヲ含ム)

三四五 一月十六日 在墨國安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

仮大統領「グッチエレス」將軍閣僚ト共ニ首

都退去ノ件

第四号

過日來形勢不穩トノ風説アリシガ會議派ノ一部「カランサ」派ニ内通セルヲ探知シ大統領 Gutierrez ハ内閣員ト共ニ昨夜突然当市ヲ退去セリ諸官庁商店ハ閉鎖シ今朝ヨリ掠奪行ハル事情未タ明白ナラサルモ「カランサ」軍再ヒ來ルヘキ模様ナリ

~~~~~

三四六 一月二十日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

墨國會議派仮大統領「グッチエレス」將軍首

都退去ニ関シ報告ノ件

公第七号

(三月十九日接受)

大正四年一月二十日

在墨國

特命全權公使 法学博士 安達峯一郎(印)  
外務大臣男爵 加藤高明殿

一月十五日夜「アグワス、カリエンテス」武將會議ノ推挙セル墨國仮大統領「グッチエレス」將軍当府ヲ出奔逃亡シタル出来事ニ関シテハ不取敢一月十六日付拙電第四号ヲ以テ及具報置候処猶其前後ノ事情ニ関シ左ニ報告差進候間御査閱相成度候  
會議派政府ハ本年一月ニ入りテ以來既報ノ如ク「アグワス、カリエンテス」武將會議ニ於テ選舉シタル同會議常置委員會ヲ当府ニ召集シ同政府將來ノ政綱方針ニ関シ討議セシムルト共ニ他方ニハ旧臘未ダ任命セザリシ二三大臣ノ欠位ヲ補フテ行政府ノ組織ヲ整フル処アリ外務大臣ニハ適任者ヲ物色シタルモ其選任到底不可能ナルヲ察知シ大臣代理タル

次官「オルチス、ロッドリッゲス」ヲ以テ依然大臣ノ職ヲ行ハシムルニ決シ同大臣代理ハ一月五日始メテ公式ニ外交團一同ヲ接見シテ新任ノ辞ヲ述べ外交団長「グッテマラ」公使亦之ニ答フル処アリ而シテ同政府設立以來各般ノ施政漸ク其緒ニ就キ且ツ同政府ハ「カランサ」政府ト異ナリ少ナクモ内外私人ノ權利財産ヲ尊重スルコトヲ標榜シ当府内ニ於テモ裏面ニ於ケル同會議派軍人ノ暴行又ハ反對派ニ屬スル文武官ヘノ迫害伝ヘラレザルニアラザリシモ表面ハ努メテ平穩無事ヲ装フノ策ニ出デタルヲ以テ当府内諸般ノ秩序回復シテ民心其堵ニ安ズルノ態アリシガ一月十日ニ至リ「カランサ」派ノ一軍団ハ已ニ「ボエブラ」市ヲ回復占領シタリトノ風説確カメラレ之ト同時ニ当地ニ滞在セシ「ヴィーヤ」將軍ガ急遽軍事行動ノ必要ト称シテ北墨「サン、ルイス」方面ニ出動シタルコト衆人ノ疑惑ヲ高メ道聽途説漸ク巷間ニ宣伝セラルルニ至リシモ政府ハ依然諸般ノ巷説ヲ打消スニ努メ居リシカバ前記一月十六日早朝仮大統領「グッチエレス」ハ前夜内閣員及軍隊ヲ率キテ当府ヲ出奔シタリトノ報伝ハルニ及ビ多数市民ハ意外ノ政変ニ驚愕シ殊ニ「グッチエレス」將軍ニ從ヒテ続々当府ヲ逃亡シツツ

アリシ軍隊ハ市内各所ニ略奪ヲ行ヒシヲ以テ終日人心恟々トシテ底止スル所ナキノ状ヲ呈セリ同日夜ニ至リ武將會議ハ市民ニ布告シテ曰ク「仮大統領「グッチエレス」ハ「カランサ」派ニ内通シ其職ヲ棄テ二三腹心ノ内閣員及一部ノ軍隊ト共ニ当府ヲ出奔セリサレド當會議ハ依然トシテ墨國ノ主權者トシテ嚴存スルヲ以テ當會議々長「ゴンサレス、ガルザ」ハ仮大統領ノ職ヲ執ルベシ」トカクシテ會議ノ決議ニ依リ仮大統領ニ就任セル「ゴンサレス、ガルザ」ハ當府内ニ戒嚴令ヲ執行シテ秩序ノ維持ニ努ムルト共ニ各外交官ニモ各々特使ヲ派遣シテ猶會議派政府ノ存続ヲ告ゲ且ツ「ヴィーヤ」將軍ハ数日ニシテ首府ニ帰着スベシト報ゼシムル等當府内ノ恐慌ヲ防グノ手段ヲ執ル所アリカクシテ漸ク十六日早朝以來勃発セル恟々タル人心ヲ一時鎮靜スルヲ得タリシモ二三日後忽チ前記「ボエブラ」市ヲ回復占領セシ「カランサ」派軍隊ノ前驅ハ漸次當府ニ向ヒ進軍シ當府ヲ去ル汽車三時間ノ地ナル「ツーラ」村方面ニ出動シ來レリトノ情報頻々トシテ伝ハリシカバ「グッチエレス」逃亡後ノ仮政府モ到底、北墨「ヴィーヤ」將軍ノ援兵來着ノ暇ナクシテ再び逃亡ノ悲境ニ陥ルベシト疑フモノ多ク市内ノ

人心未だ全ク安キニ至ラズ

顧ミルニ今次ノ政変ノ如キ近時墨国政界ノ裏面ニ伏在セル各種ノ暗流ヲ遺憾ナク発表シタルモノニシテ節操ナキ各種ノ軍人政治家ガ常ニ暗闘ヲ是レ事トシ眼中国家ナク人民ナク単ニ個人的利害ニヨリ一朝ニシテ集会シ一タニシテ離散スルノ現状ヲ暴露シタル結果ナリト云フヲ得ベシ試ミニ「グッチエレス」將軍ヲ見ルニ同將軍ガ「アグワス、カリエンテス」武將會議ニ選バレ墨国政權ヲ執ルノ宣誓ヲナシタル昨年十一月六日ヨリ其職ヲ棄ツル本年一月十五日迄僅カニ二ヶ月余、更ニ同將軍ガ「ヴィーヤ」將軍「サパタ」將軍ト共ニ正々堂々タル入都ヲナシタル十二月二日ヨリ起算スレバ其職ヲ棄ツル迄僅カニ一ヶ月余ニ過ギズ此ノ短日月間ニ忽チ彼ハ「ヴィーヤ」將軍ト内訌ヲ生ジ又「サパタ」將軍ニ顧ミラズ彼ノ下ニ開ケル武將會議ハ逃亡セル彼ヲ目スルニ謀反者トスルニ至ル、更ニ本年一月彼ノ下ニ内務大臣ニ任ゼラレタリシ「ルーシオ、ブランコ」將軍ノ如キ彼ト共ニ出奔セル一人ナルガ同將軍ハ嘗テ「カランサ」ノ四天王ヲ以テ称セラレ昨年十一月当府衛戍総督トシテ「サパタ」軍ト郊外ニ戦ヒシモ彈藥ナキヲ名トシ急ニ当

府ヲ棄テ、出奔シテ「サパタ」軍ノ侵入ヲ便ニシ「ヴィーヤ」ト款ヲ通ジテ「グッチエレス」ノ下ニ内務大臣ノ要職ヲ得タルモノ而モ再ビ「ヴィーヤ」ニ反シテ「グッチエレス」ト行ヲ共ニス有為転変ハ乱世ノ常トハ云ヘ目下当国ノ軍人政治家社会ニ何等ノ誠意ヲ認ムベキモノナキヲ推スルニ足ルベシ今左ニ「グッチエレス」出奔ノ原因ニツキ探聞セル二三ヲ略記センニ

#### 一、「ヴィーヤ」將軍トノ不和

「グッチエレス」將軍ハ牛肉小売商ヨリ身ヲ起シ革命ノ風雲ニ乗ジテ「ヴィーヤ」將軍等ト事ヲ共ニシ累進今日ニ及ベルモ其ノ革命軍將トシテノ声望手腕遠ク「ヴィーヤ」將軍ニ及バズ「カランサ」「ヴィーヤ」兩派ノ衝突ニ際シ「ヴィーヤ」派ノ勢力優勢ナル「アグワス、カリエンテス」會議ニヨリ仮大統領ニ選バレタルハ畢竟「ヴィーヤ」派ガ同將軍ヲ以テ「ヴィーヤ」將軍ノ傀儡視シ單ニ表面ノ代表的人物トシテ推挙セシニ過ギザルコト既報ノ如シサレバ同將軍ガ当府ニ入り政權ヲ掌握セシ當時ヨリ事毎ニ「ヴィーヤ」將軍ニ制肘セラレテ同將軍ハ單ニ仮大統領ノ虚位ヲ守ルニ過ギズ諸般ノ軍勢ハ素ヨリ政務モ「ヴィーヤ」將軍ノ意ノ

似ニ左右セラル、状アリテ同將軍亦「ヴィーヤ」將軍ガ將來必ラズ已レヲ棄テテ自カラ大統領タルノ野心ヲ抱藏セルモノナルヲ疑フニ至レリ是レ兩將軍間ノ暗闘ヲ生ジタル所以ニシテ「ヴィーヤ」將軍ガ一月初旬急遽トシテ北墨ニ去レル如キ「ヴィーヤ」將軍ハ「カランサ」軍隊ノ進撃ニ鑑ミ嘗テ其擁立セル「グッチエレス」將軍ヲ当府ニ墨守スルノ不得策ナルヲ感ジタルニ依ル而シテ他方「ヴィーヤ」將軍ノ勢力ノ下ニアル會議派各軍人ハ一月一日以来同會議常置委員會ニ於テ現仮大統領ノ権力ヲ殺グベキ各種ノ議案ヲ提出シテ「グッチエレス」將軍ヲシテ永ク其職ニ止マルモ何等為ス所ヲ知ラザラシメントスルモノアリサレバ往日ノ堂々タル凱旋將軍モ一ヶ月後ハ内部ヨリノ圧迫ニ抵抗スル勇氣ヲ失ヒ已ニ「ヴィーヤ」將軍ニ棄テラレタル以上他ノ方面ニ其活路ヲ求メテ自己後日ノ計ヲナスノ念慮ヲ生ジタルモノ、如シ

#### 二、「カランサ」派軍隊ノ進撃

昨年十二月中旬「ボエブラ」「グッダラハラ」二大都市會議派軍隊ノ手ニ陥落シタル當時ハ會議派政府ノ勢力伸張シテ各地方ニテ會議派「カランサ」兩派對峙ノ形勢ヲ觀望セ

ル諸州中款ヲ會議派政府ニ通ズルモノ漸ク加ハリシモ本年ニ入り一方會議派ノ占拠セル「ボエブラ」市ハ「カランサ」派軍隊ニ回復セラレ他方嘗テ「グッダラハラ」市ヲ撤去セル「カランサ」派軍隊ハ旧「ハリスコ」州知事「デエゲス」ノ下ニ結束シテ同市ヲ包囲シ一挙ニシテ同市ヲ回復スルノ勢ヲ呈スルト共ニ北墨「サンルイス」方面亦頻々トシテ「カランサ」派軍隊ニ襲ハレ所謂三方面ニ於ケル「カランサ」派軍隊ノ進撃著々トシテ奏效セントスルノ形勢トナリ會議派政府ハ防禦の作戦ヲ以テ僅カニ敵ノ首府進撃ノ日ヲ遅クスルノ外途ナキニ至レリ此外「カランサ」派軍隊ノ進撃モ「グッチエレス」將軍ノ出奔ヲ速メタル大原動力ナルコト疑ヲ容レズ

之ヲ要スルニ「グッチエレス」將軍ハ以上内外ノ圧迫ニ堪ヘズ遂ニ其職ヲ抛チ出奔スルノ決意ヲナシタルモノニシテ其出奔ニ先ツ前夜急遽二三腹心ノ内閣員ヲ秘密召集シテ出奔ノ議ヲ決シタルモノ、如ク其一週間前ヨリ「カランサ」派ニ対シ款ヲ通ジタル形跡ナキニアラザルモ未ダ何等ノ確証ナク彼ヲ謀反者ナリト目スル武將會議ノ宣言書中ニ彼款ヲ「カランサ」ニ通ジタルト云フノミ其果シテ真ナリヤ否

ヤハ後日ノ事実ニ徴スルノ外ナキモ墨国政界近来ノ推移ヨリ察シ必ラズシモ之ヲ否定シ難キニ似タリ若シ夫レ「グッチエレス」將軍ハ其出奔ノ際墨国政府国庫金ノ大部分ヲ持チ去レリトテ彼ノ後継者タル「ゴンサレス、ガルサ」仮大統領ハ彼ヲ批難攻撃シツアルモ要スルニ政治道德全ク地ヲ弘ヘル現時ノ墨国ニ於テハ此ノ如キハ尋常茶飯事タルノミ

右及具報候 敬具

三四七 一月二十三日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

武將會議議長「ゴンサレス、ガルサ」仮大統領就任ノ件

第六号

Gutierrez 逃亡後武將會議々々長 Gonzales Garza 仮大統領トナリシモ同氏亦近ク当首府ヲ立去ルヤノ模様アリ「ヴィーヤ」ハ北方ニアリテ再ヒ当地ニ来ラサル趣形勢日々益々混沌タリ

三四八 一月二十八日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

反对軍ノ首都接近ノ為仮大統領及會議派官吏

武將會議々々長「ゴンサレス、ガルサ」ハ前仮大統領「グッチエレス」氏ノ後ヲ襲フテ仮大統領トナリシコト一月二十日附公第七号報告書ノ通ナルモ彼素久シク「ヴィーヤ」將軍ノ秘書役トシテ人ニ知ラレ本年一月武將會議當府ニ開カルルニ及ビ選バレテ議長タリ最近「トレオン」戦役ナル著書ヲ公表シテ昨年四月ノ同戦役ニ於ケル「ヴィーヤ」將軍ノ功績ヲ謳歌シツアル純粹ノ「ヴィーヤ」派ノ一將軍タリサレバ彼ノ政府ハ「ヴィーヤ」派ヲ中心トスル會議派軍人ヲ後援トシ「ヴィーヤ」將軍ヲ背後トセル純然タル過渡的政府ニシテ其運命ハ當時北墨ニアリテ大兵ヲ擁セル「ヴィーヤ」將軍ノ首府來援ノ有無ニ拘ハリシモノト云ハザルベカラズ殊ニ「カランサ」派軍隊ハ同派ノ勇將「オブレゴン」將軍「ポエブラ」ヲ陥レタル以來會議派タル「サパタ」軍ヲ破リテ漸次首府ニ迫ルノ形勢ナリシニ於テオヤ然ルニ「ゴンサレス、ガルサ」就任後直チニ来ルベシト公表セラレタル「ヴィーヤ」將軍遂ニ来ルノ模様ナカリシカバ世人ハ忽チ「ゴンサレス、ガルサ」氏ノ政府亦三日天下ノ政府ニ過ギズシテ其没落ハ旬日ヲ出デザルベシト信スルニ至レリ果セル哉一月二十五日「ゴンサレス、ガルサ」氏ハ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三四九

軍隊撤去ノ件

第七号

會議派反对ノ軍隊昨二十六日当首府郊外ニ進入シ来ル大統領初メ會議派官吏並軍隊今日払曉ヨリ首府ヲ退去シ始メタリ右軍隊ハ Oburegon ノ指揮ニ属スルモノラシク「オブレゴン」ハ「カランサ」ニ反キ Gutierrez 及 Bulanco 將軍ト合シ独立ノ行動ヲナスモノト想像セラル当府市參事會ハ進入軍ヨリ保障ヲ得ル為外交團ノ助力ヲ求メ来リシモ公使會議ハ事態頗ル機微ナルヲ以テ体ヨク断ハリタリ

三四九 一月三十一日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

仮大統領「ゴンサレス、ガルサ」ノ撤退ト「カランサ」派軍隊ノ首都占領ニ関シ報告ノ件

公第九号

大正四年一月三十一日

(三月十九日接受)

在墨国

特命全權公使 法学博士 安達峯一郎(印)  
外務大臣男爵 加藤高明殿

親シク武將會議ニ臨ミテ就任以來ノ努力遂ニ空シカラントスルヲ述ベテ會議ニ訴フル処アリ其演説中國内ニ於ケル「カランサ」派會議派對峙ノ形勢ヲ叙シタル一節ハ會議派仮大統領トシテ右ノ假ニ事実ノ真相ヲ自白セルモノニシテ當時ノ形勢ヲ判ズル好資料タリ今左ニ其大要ヲ訳記センニ左ノ如シ

北墨地方ニ於ケル戰鬭ノ現状ハ吾人ガ嘗テ「ウエルタ」軍ト戰ヘル當時ト毫モ異ナル所ナシ「コワウイラ」「ヌエボレオン」「サンルイス、ポトシ」「ソノラ」「シナロア」諸州及ビ「タンピコ」ヨリ「アグワス、カリエンテス」ニ至ル沿道及「サンブラス」港以北皆戰乱ノ巷トナリツツアリ「ヴィーヤ」將軍ハ二万ノ敵兵集中セル「サンルイス、ポトシ」ニ向ヒ進軍中也而シテ余ハ會議議員諸君ニ對シ我會議派軍隊ガ各所ニ苦闘シツツアルノ事實ヲ隱蔽スルノ要ナシ現ニ「グッダラハラ」市ハ「デエゲス」及「マルギア」兩將ノ進撃ニ對シ會議派軍隊其守ヲ失ヒ同市ヲ占領セル「カランサ」派軍隊ハ更ニ兵力ヲ増シテ當府ニ進軍シ来リツツアリ余ノ政府ハ此ノ失敗セル我軍ガ速カニ同市ヲ回復センコトヲ切望ス

前仮大統領「グッチエレス」將軍ニ伴ハレ出奔セル兵士ノ大部分ハ同將軍ノ手ヲ脱シテ帰復シタルモ「ポエブラ」附近ノ山間ニ現ハレタル敵兵ハ「ネカクサ」(墨市發電所所在地)ヲ占領セント企テ守將「マルトス」防戦シツツアリ更ニ余ノ悲シム所ハ「ポエブラ」方面今後ノ成行也同地方ノ戦鬪万事良好ニ進行中ナリトハ我指揮官「パラフオックス」大將ノ報告スル処ナレドモ余ガ他ノ確カナル方面ヨリ得タル情報ニ依レバ同大將ノ下ニアル「サパタ」軍ハ原野ニ於ケル戦鬪ニ慣レザルヲ感ゼシムルモノアリカクシテ敵ハ一日ト進撃シ来リツツアリ故ニ余ハ「ヴィーヤ」將軍ニ乞フテ其手兵三千ヲ当府ニ残シ以テ「ポエブラ」方面ヨリノ敵ノ進撃ヲ阻止セント努メシモ北墨ノ情況ハ之ヲ許サザリキ云々

此レ實ニ彼ガ悲觀シタル四囲ノ形勢ニシテ彼ノ演説ハ前後ヲ通ジテ哀調ヲ帯ビ其政府ノ運命迫レルヲ暗示スルモノアリキ、カクシテ翌二十六日ニハ「カランサ」派軍隊ハ「オブレゴン」將軍ニ率キラレ首府ノ西郊一里半ノ地点マデ進撃シ来リシカバ二十六日夜武將會議ハ其會議ヲ「モレロス」州首府「クエルナバカ」ニ遷スヲ決議シ仮大統領「ゴンサ

ニ首府ハ市街戦ノ慘禍ヲ見ルベシトテ市民ノ恐慌一方ナラザリシモ侵入軍ハ忽チ全市ニ戒嚴令ヲ布キ警戒ヲ嚴行スル所アリ為メニ大事ニ至ラズシテ歇メリ但シ首府ノ近郊ハ中央鉄道ノ沿線ヲ除ク外三方面皆會議派軍隊ニ包囲セラレ前記「オブレゴン」將軍ノ占領後モ連日戦鬪継続シ首府ノ中心ヲ去ル僅カニ一里ナル「タクバヤ」「ミスコワク」「ソチミルコ」「トラルパン」「チュルブスコ」等諸村落ハ猶憲政軍々隊ト會議派軍隊トノ爭奪戦争区域トナリ首府ハ昼夜連続シテ銃声砲声ヲ聞クノ有様ニテ物情依然騒然タリ右及具報候 敬具

三五〇 二月三日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

カランサ軍ノ優勢及ヴィーヤ紙幣ノ通用禁止ノ件

第八号

「オブレゴン」ハ依然「カランサ」ノ配下ニ属シ目下当首府郊外ニ於テ「サパタ」軍ト戦争中ナリ「カランサ」軍ハ頗ル優勢ニシテ「ヴィーヤ」軍各地ニ悩サレ「ヴィーヤ」

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三五〇 三五二

レス、ガルサ」急遽文武諸官ニ撤退ヲ命ジテ其軍隊ヲ率キ「モレロス」州方面ニ向ヒ出發スルアリ(「ゴンサレス、ガルサ」就任以來僅カニ十日)茲ニ当首府ハ再び混乱ノ巷ト化シ二十七日朝以來人心恟々トシテ商店ハ閉鎖シ交通機關ハ撤兵ノ用トシテ微発ニ遇ヒ物情騒然恰然トシテ無政府ノ状態ヲ呈セリサレバ当首府市参事会ハ此間ニアリテ首府ヲ戦乱ノ禍中ニ投ゼシムルノ危険ヲ慮リ撤退中ノ政府ト侵入セントスル「カランサ」軍トノ間ニ斡旋スルノ要ヲ認メ斡旋方ヲ外交団ニ申込依頼シ来リシモ外交団會議ハ事機微ニ属ストテ体能ク之ヲ断ハリシカバ市参事会員等ハ自ラ各所ニ奔走斡旋スル所アリ遂ニ仮大統領始メ諸軍隊ガ当府郊外ニ撤退シ終リタル一月二十七日午後ニ至リ「カランサ」派軍隊ハ徐々ニ首府ニ侵入シ来リテ市中央ナル政庁ヲ始メ市内各所ニ駐屯シ「オブレゴン」將軍ハ手兵ヲ從ヘテ入都シ憲政軍総指揮官「カランサ」ノ名ヲ以テ首府ヲ占領スト宣言シ直チニ当府ヲ其軍政ノ下ニ置ケリ

前記「オブレゴン」將軍入都ノ際「サパタ」「ヴィーヤ」兩將軍ノ殘党ニシテ猶市内処々ニ隠匿セルモノアリ之等ト侵入ノ憲政軍兵トノ間ニ市街ノ一部ニ於テ小衝突アリ為メ

ハ Aguas Calientes ニ包囲セラレ居ル由「カランサ」ハ当分当地ニ来ラス各官庁及学校等ヲ「ヴェラクルス」港ニ移ス計畫アリ「カランサ」軍侵入ノ為當地ニ通用シタル巨額ノ「ヴィーヤ」紙幣ハ其通用ヲ禁止セラレ金融界ハ混乱ヲ極メ銀行ハ数日前ヨリ引続キ休業輸入品及食料品全ク欠乏シ市民ノ困難甚シ

三五二 二月九日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

墨国ノ首都争奪戦ニ付公使會議ノ結論報告及請訓ノ件

第一一号

前電ノ通当国ノ形勢四分五裂「カランサ」ハ総テノ官庁ヲ「ベラクルス」ニ移シ当地ニハ外交機關ナク而シテ代ル代ル当首府ヲ争奪占領スル軍人ハ何レモ外交ノ何タルヲ解セス往々外国代表者ノ特權ヲ侵害スルニ躊躇セサルモノナルニ付其ノ正当ナル要求ニ対シテモ格別注意ヲ払ハズ何時如何ナル incident ヲ惹起スルヤモ計リ難キカ故ニ先頃ヨリ屢々公使會議ヲ開催シ外交団ノ執ルヘキ態度ニ関シ内幕

五八五

ニ研究中ノ処此ノ事態引続キ已マサルニ於テハ外交団ハ其ノ面目ト責任トニ対シ到底首府ニ止マル能ハス去リトテ一派ノ招請ニ応シ其ノ所謂首府ニ移転スルコトハ反対派ノ反感ヲ挑発スルコト明白ニシテ是又行フベカラサルニ由リ各國一同其ノ外交機關ヲ撤廃シ単ニ領事官ヲ残シテ当国ヲ立退クコト全体ニ良策トシ而シテ其ノ時機或ハ急速ニ来ルアルヘキヲ以テ予メ本国政府ノ注意ヲ喚起シ置クノ必要アルコトニ付テハ各公使何レモ異議ナク夫々本国政府ニ上申スルコトセルニ付本使ハ慎重熟慮旁々其ノ形勢ヲ視ヒ居リシカ昨七日ニ至リ「サルバドル」辨理公使及玖馬臨時代理公使ハ電訓ヲ得テ帰朝ノ途ニ就キ又伯刺西爾國公使モ米國政府ヨリ外交団ノ一致若クハ多数ノ議決ニ依ルトキハ米國大使館ノ書類ヲ携帯シ各 Confidential agent ヲ率ヒテ適宜ニ立退ヲ承諾ストノ電訓ニ接シ又伯刺西爾國政府ヨリハ既ニ何時ニテモ立退キ得ヘキ旨ノ電訓ヲ得居レリ英國代理公使モ今朝多数ノ議決ニ基キ撤廃自由ナル旨電訓ヲ受ケタリ

帝國臣民ノ位置ハ幸ヒニ今尚各派ノ齊シク尊重スル所トナリ又本使ノ各派ニ対スル關係モ良好ニシテ職務執行上格別

食糧品日用品欠乏、「オブレゴン」ノ寄附強  
制等ニ付報告ノ件

第一五号

食糧品其他日用品益々欠乏シ物価暴騰日々ニ甚シ貧民ハ飢餓ニ瀕シ然ラサル者ハ買入ニ窮ス「オブレゴン」之ヲ機トシ貧民救助ノ名ヲ以テ寺院ニ五拾万弗ノ寄附ヲ命シ内外商人ニ重税ヲ課セシモ皆之ニ応セサルヨリ僧侶百七十名並ニ税金廃止同盟会ニ出席セル重ナル商人三百四名ヲ拘禁ス外人ノ課税ハ外交団ヨリノ交渉ニ依リ之ヲ廢止セリ其他暴虐至ラサルナク機關新聞紙ヲ以テ臣民ハ内外人ニ対シ掠奪ヲ行フモ之ヲ制セストテ暗ニ之ヲ煽動ス市中一般堅ク戸ヲ閉チ危險ヲ予防シ居レリ Uila-Sagata 軍漸次ニ窮迫シ来リ砲声絶エス「オブレゴン」軍近ク退却ノ模様ナリ英仏独墮伊國公使ハ此危險ナル時局ニ関シ各本國政府ノ注意ヲ喚起シ其未タ公館ヲ撤廃セサルハ重ニ米國政府ノ熱望ニ依ル次第ナルニ付此際米國政府ヲシテ明確ナル責任ノ觀念ヲ起シ適切ノ措置ヲ執ラシムル様斡旋アリ度旨夫々電請セリ

拙電第九号御再考ヲ仰ク

ノ支障ヲ見サルモ痛心スベキ目下ノ事態遂ニ極マルニ於テハ到底日本國公使トシテ当国ニ止マル能ハサルニ至ルコトアルベキヲ以テ予メ右ノ場合ニ応スル措置御詮議ノ上御回訓アリタシ

卑見ニ依レハ公使館廢止ノ場合ニハ当首府ニ總領事館ヲ創設シ岩崎ヲ總領事ニ任シ荒井ヲ附シテ在留日本人ノ保護ニ当ラシメ三浦ハ西班牙國ヘ武富ハ帰朝若クハ転勤セシメ然ルベク尤モ他國ハ現ニ領事館ヲ有シ帝國政府ハ新タニ創設スルノ差アリテ主權者ノ定マリナキ当國政府ヨリ認可狀ノ承認ヲ受クル能ハス職務執行上多大ノ困難アルヘシト思考スレドモ之ヲ唯一ノ応急方法ナリト信ス

当地ヘ外務當局者ヲ派遣セシムルコトニ付伯刺西爾國公使ノ内報ニ依レハ米國政府ヨリ「カランサ」ニ勧誘セシムルコトニ取計シモ其ノ成否ハ予見シ難シ

本使尚病体旅行ニ耐ヘス引揚ケノ場合ニハ玖馬辺ニ三四ヶ月間療養ノ後帰朝ノ途ニ就クベシトノ医師ノ診察ニ付予メ御含置キ相成タシ

三五二 三月六日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

註 安達公使來電第九号ハ館員戰時加俸給与ノ件ナリ

三五三 三月六日 在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

墨國首都ニ於ケル外国人保護ニ関シ米國國務  
長官ト談話ノ件

第七九号

在墨公使發貴大臣宛第一五号電信ニ関シ三月六日面会ノ上本使ハ國務長官ニ向ヒ本國政府ヨリ何等ノ訓令ヲ受ケ居ラサルモ在墨公使ヨリ電報アリタルニ付自限ニテ為念御尋スル次第ナリト断ハリタル後米國政府ハ昨今頗ル不穩ト思ハルル墨都ノ外国人保護ノ為何等カ処置ヲ執ラルル所存ナリヤト問ヒタルニ長官ハ答ヘテ既ニ諸外國政府代表者ヨリモ同様ノ儀ヲ國務省ニ申出タリ在墨都外国人課税ノ件ハ米國政府ヨリ「オブレゴン」ニ警告ノ結果中止トナリタル次第ナル所「オブレゴン」ハ一般人民カ非常ナル困難ニ瀕シ居ル際在留外國人ト雖應分ノ負担ヲナスハ当然ノコトナリト思料シ居リテ米國政府ノ警告ニ心服セサルモノノ如ク一転シテ窮民ノ暴行掠奪ニ対シ責任ヲ取ル能ハストノ態度ヲ示シタルニ付米國政府ハ更ニ「カランサ」ニ向ヒ種々ノ方

一七 「メキシコ」革命動乱関係一件 三五四 三五五

面ヨリ外国人保護ニ留意スヘキ様最モ強硬ノ戒告ヲ与ヘ置キタリト述ヘ又長官ハ「サパタ」及「ヴィーヤ」カ墨西哥市ニ乗込ムトモ「オブレゴン」ノ同市ヲ占領シ居ル(脱)一層不良ナル状態ヲ呈スルコトナカルヘシト却テ「サパタ」「ヴィーヤ」ヲ擁護スル語氣ヲ洩シタリ本使ハ又一月八日ノ「インディアナポリス」ノ演説中大統領ノ述ヘラレタル對墨態度ハ依然變更セラレサルヘキヤト問ヒタルニ長官ハ然リト答ヘ米國政府ハ墨西哥ニ干渉スルヲ欲セサルモ絶ヘス警告ヲ与ヘル等ノ方法ニヨリ外国人保護及秩序恢復ノ為百方努力シ居レリト附言シタリ

墨濟

三五四 三月七日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

カランサ軍ノ首都撤退近キニ伴ヒ公使會議開  
催ノ件

第一六号

「カランサ」ハ再ヒ外交団ニ電報シ憲政軍ノ当府撤退近キニアルヲ告ケ「ヴェラクルス」港ニ一同引揚ケラレタキ旨及右引揚ヲ以テ憲政政府ノ承認ト認メサルヘキ旨ヲ申来リ

五八八

タルニ付公使會議ヲ開キ当府在留外国人三万ノ保護上右招請ニ応スル能ハサル旨ヲ返電セリ伯國公使ハ米國大統領ノ名ヲ以テ時局追テ變調スル迄米國人ハ墨國ヲ立退クヘキ旨告示セリ又同公使ハ諸國公使館當府ヲ撤退セサルハ米國政府ノ切望ニ基キ而シテ諸外國人尚多數當府ニ在留スルハ諸公使館ノ存在スルニ依ルニ因リ此危險ナル境遇ニ多數外國人ヲ陥レタル責ノ大半ハ米國政府ノ負フヘキモノナルニ付同政府ニ於テ適切ナル具體的措置ヲ執ルヲ要スルトノ外交団並同公使ノ意見ナル旨米國政府ヘ電報シタリ

三五五 三月九日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

伯國公使米國政府ノ名ニ於テ「オブレゴン」  
ノ各種措置ニ對シ警告シ且米國人ノ保護ヲ要  
請ノ件

第一七号

「オブレゴン」ハ職工一万四千電車運轉手四千名ヲ軍隊ニ編入シ郵便局ヲ閉鎖シ電車「コントロール」(英白國立銀行資本)病院ノ寢台器具機械藥品等一切ヲ「ヴェラクルス」ニ移シ又既ニ監禁シタル僧侶及租稅滯納者寺院所有物並ニ

大正四年三月二十九日

在墨國

特命全權公使 法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

食料品燃料ヲモ運搬シ去リツ、アリ市内騷擾益甚タシ伯刺西爾國公使ハ三月七日米國政府ノ名ヲ以テ「オブレゴン」ニ對シ頃日米ノ暴狀ヲ責メ米國人ニ對シ何等事故ヲ生シタル場合ニハ「カランサ」及ヒ「オブレゴン」ヲ以テ個人的責任者ト認メ同政府ノ相當ト思料セル措置ヲ取ルコトニ決定シタル旨ヲ通告シタルニ「オブレゴン」ハ事態一般政治ニ亘リタルハ之ヲ「カランサ」ニ移牒セラルヘシト簡單ニ回答シタリ

三五六 三月十一日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

「オブレゴン」首都ヨリ撤退ノ件

第一八号

三月十一日早朝「オブレゴン」当地ヲ撤退ス内外交通全ク杜絶ス「サパタ」軍既ニ入込ミタリ

三五七 三月二十九日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

「カランサ」「ヴィーヤ」兩派ト米國政府トノ

關係ニ関シ報告ノ件

機密第三号 (七月十三日接受)

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三五六 三五七

シ居リ候又同大統領ノ言ニ依レハ會議派ノ実權ヲ掌握セル

五八八

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三五八 三五九

同派軍隊総指揮官「ヴィーヤ」モ米國政府ノ態度ニ快カラザル趣ニテ本使ハ往日五人ノ仲間ヨリ身ヲ起シタル「ヴィーヤ」ガ果進シテ今日革命ノ大立物トナレルモ要スルニ米國ガ彼ヲ援助セル賜物ニアラズヤト察セラルル旨反問シタルニ同大統領ハ「ヴィーヤ」ガ去一月当地ヲ撤去スルニ臨ミ政庁ニ於テナセル演說中米國政府及其對墨政策ノ不信ヲ攻撃シ米國ヲ罵倒セル言辞ヲ引用シテ「ヴィーヤ」亦最早米國ノ驅使ニ甘ンズルモノニアラザルヲ説明致居候要之墨國革命家ハ其成功ニ近ヅクト共ニ米國ヨリ援助ヲ撤回セラレ米國ニ對シ怨声不平ヲ放ツコト從來墨國革命ノ歴史比々皆然ラザルナク前記「ヴィーヤ」モ亦此事例ニ洩レズト云フヲ得ベシト被存候サレバ米國政府ハ今後猶依然觀望ノ態度ヲ脱セズ墨國ハ革命各派ノ争鬭ニ任セ漸次墨國一般民衆ガ革命ノ弊ニ堪ヘズ遂ニ米國ノ力ニ依リ墨國ノ平和ヲ期スルノ外途ナキヲ確信スルノ機會到来ヲ俟ツモノナリトノ説ヲシテ先見ノ明ヲナサシムルニアラズヤトモ推察セラレ候右御參考迄及具報候 敬具

送先 在米大使

府ニ對シ墨國各派殊ニ從來交通遮斷ノ傾アル「カランサ」ニ對シ適切ナル措置ヲ取ル様勸告アランコトヲ上申スルコトニ決議セリ

三六〇 五月十八日

加藤外務大臣ヨリ  
在米國珍田大使宛(電報)

在墨國國際救助委員ノ要請ニ関シ在米國英仏露三国各代表者ニ各本國政府ノ意向問合方訓令ノ件

第九九号

安達ヨリ貴官ニ転電スヘキ同公使來電第二四号ニ関シ貴官ハ在貴地英仏露各代表者ニ對シ貴官限リノ思付ノ態ニテ右當該政府ノ意嚮御問合ノ上電報アリタシ

三六一 五月二十日

在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

在墨國國際救助委員ノ要請ニ関シ在米國英仏露各国大使ニ問合ノ件

第一六五号

貴電第九九号ニ関シ五月十九日駐米仏國大使ヲ往訪シタルニ同大使ハ五月十八日本件ニ付國務省ニ申入ルル所ナリ特

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三六〇 三六一 三六二

五九〇

三五八 四月二十六日

在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

「オブレゴン」北方「セラキ」地方ニ於テ激戰展開ノ件

第二二二号

過般來「オブレゴン」北方「セラキ」地方ニテ「ヴィーヤ」ト大激戰中ナリシカ「ヴィーヤ」軍敗北ノ模様ナリ

三五九 五月十六日

在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

在墨國國際救助委員ヨリ各公使館ニ墨國市府救済方各本國政府ニ伝達依頼ニ付公使會議開催ノ件

第二四号

本邦及ヒ他十六國代表者ヨリ組織セル在墨國國際救助委員ハ墨國內交通機關ノ杜絶食料品ノ欠乏騰貴同盟罷工等ヨリ蒙ムル当市府ノ困難ナル狀況並ニ今後益々悲況ニ陥ルヘキ予想ヲ述ヘ人道ノ名ニ於テ右可然救済方各本國政府ニ伝達方ヲ各公使館ニ申出テタリ依テ公使會議ヲ開キシニ各本國政府ニ右重大ナル事態ヲ電報シ各本國政府ヨリ重ネテ米國政

ニ墨都「ヴェラクルス」間ノ交通ノ自由ハ是非之ヲ維持セシムル様申入タル所國務省ニ於テハ是迄十分注意ヲナシ居リシカ今後尚最上ノ努力ヲ用キルヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナリ同日駐米露國大使ヲ訪問シタルニ同大使ハ未タ在墨西哥國外交團ノ決議ヲ承知シ居ラス又目下露國公使ハ旅行中ナル上ニ居留民モ極メテ少ナキ旨ヲ語り本件ニ付テハ矢張り米國政府ニ依頼スル外途ナカルヘシト述ヘタリ駐米英國大使ハ旅行不在ナルモ此上更ニ同大使ノ意見ヲ問フ必要ナカルヘシト思考ス

三六二 六月三日

在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

米國大統領ノ墨國各派首領宛平和勸告ノ件

第一七九号

六月二日大統領ハ墨國內乱ヲ連止スル為米國ノ執ルヘキ政策ヲ公表シ右公表書ハ同日國務省ヨリ「カランサ」「ヴィーヤ」「サパタ」「ガーサ」等各派首領ニ電報セラレタリ公表書要領左ノ如シ

墨國革命乱ハ既ニ二ケ年余ニ亘リ土地ハ荒廢ニ歸シ生民ハ塗炭ニ苦シミ内外人共ニ保護ヲ受クル能ハス無政府ノ墨國

五九一

ハ今ヤ飢餓ニ瀕セリ米國ハ墨國ニ於テ何等自ラ求ムル所ナク又毫モ墨國ノ事件ニ干渉スルノ意ナシト雖友人且隣人トシテ墨國ノ零落スルヲ坐視スルニ忍ヒス況ヤ心アル墨國人ハ切ニ平和ヲ冀ヒ人民ハ職ヲ得ンコトヲ叫ヒ居ルニ於テヤヤ状況ノ窮迫セルスノ如シ米國政府カ其義務トシテ執ラサルヘカラサル政策ヲ淡白ニ公表スルノ時機ハ到来シタリ困厄セル墨國民ノ援助ノ下ニ各派ヲ糾合シ若シ糾合スル能ハスンハ之ヲ無視シテ以テ憲法政治ヲ復活シ併セテ各國ノ承認ヲ得ルニ足ルヘキ政府ヲ墨都ニ建設セントスル一人又ハ數人ノ団体ニ対シ米國政府ハ其有力ナル德義上ノ援助ヲ与ヘントス之ヲ以テ大統領ハ墨國各派首領ニ対シ協同合体以テ速ニ墨國救済ノ業ニ從ヘンコトヲ最モ嚴格ニ勧告ス若シ今後短日月ノ間ニ協同一致スルヲ得スンハ米國政府ハ墨國及墨國人救済ノ為ニ其自ラ執ルヘキ手段ヲ決定スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ

安達済ミ

三六三 六月十八日

在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

米國大統領ノ墨國各派首領ニ対スル平和勧告

將 Pablo Gonzales 將軍ハ兩日日前当地ニ進軍ノ中途ニ於テ會議派政府ヨリ一ヶ月ノ休戦ヲナシ其内ニ假大統領ヲ選ミ各派ヨリ公平ニ内閣員ヲ出ス条件ニテ妥協ヲ申込マレタルモ「カランサ」ヲ主權者ト認メ絶對的降服ノ外断然交渉ヲ拒絶シ既ニ其軍隊ハ当首府ヲ去ル僅ニ三十キロ米ノ所ニ迫リ一兩日中ニ侵入セントノ勢ナリ會議派政府ハ數日前「ヴィーヤ」「サパタ」派ノ調和ヲ計ル為大統領及内閣員ヲ交迭セシカ日夜防禦策ヲ講シ昨夜ニ至リ首府ノ郊外ニ塹壕ヲ築キ飽迄防戦シ市街戦ヲモ敢テスル決議ヲナセリ前假大統領 Gonzales Galusa ハ若シ力尽キ退却スルトキハ更ニ兵ヲ整ヘ首府ヲ包囲シ水道及電燈ノ本源ヲ絶テ「カランサ」軍ノ退却ヲ余儀ナクセシムヘシト高言シテ市民ニ大恐慌ヲ与ヘタリ昨十七日公使會議ニ於テ各本國政府ニ電報シ市街戦ヲ避ケ水道ヲ絶チテ市民ヲ苦シムルコトナキ様米國政府ヨリ強硬ナル勧告ヲナサシムルコトヲ電請スルコトニ決議セリ市民ハ既ニ「オブレゴン」ノ暴逆ニ懲リ「カランサ」軍侵入ノ報ニ接シ大ニ警戒中ナリ 珍田濟 十八日

註 本電ノ到着ハ六月二十三日午前一〇、一五ナリ

ニ対シ各派ノ態度報告ノ件

第三二号

米國大統領ノ墨國各派首領ニ宛テタル平和勧告狀ニ対シ「ヴィーヤ」及「コンヴェンション」政府ノ長文ノ回答文六月十七日發表セラレタリ要スルニ兩者トモ内乱ノ責ヲ「カランサ」ニ歸シ會議派政府ハ国内各派ノ統一ヲ図リ財政ヲ整理シ革命ノ精神ニ基キ政治的及社会的方面ニ改良ヲ施シ強固ナル立憲の政府ヲ樹立セントスルハ常ニ其本志トスル所ナルヲ以テ米國大統領ノ友誼の勧告ヲ容ルルニ吝ナラスト雖トモ苟モ武力的干渉ヲ受クルニ於テハ假令如何ナル犠牲ヲ払フモ墨國市民ノ体面ヲ保持スルニ努ムヘシト宣言セリ「カランサ」ハ如何ナル回答ヲ与ヘタルヤ不明ナルモ會議派大統領ヨリ二度ノ妥協的勧誘ニ対シ何等回答ヲナス而シテ六月十五日迄ニ墨西哥市ニ政府ヲ移シ内外市民ノ生命財産ニ付確實ナル保障ヲ与フヘキ旨ヲ宣言シタリトノ確報アリ察スルニ之レ飽迄自己ノ最高權力者タルヲ主張シ先ツ当地ニ政府ヲ移シ然ル後各派ニ通牒シ自己ノ主權者タルヲ認ムル条件ニ於テ平和ヲ結ハントノ意向ヲシク目下ノ所到底各派ノ妥協ハ覺束ナシ去レハ「カランサ」派ノ主

三六四 六月二十二日

在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

會議派首都撤退ニ際シ不都合ノ行動ナキ様外  
務大臣ニ説示ノ件

第三三号

拙電第三二号ニ関シ六月十八日朝外務大臣來訪シタルニ付市街戦ヲ避ケ且水道電氣等ノ設備ヲ破壊シ若ハ食料運搬ニ妨害ヲ加フヘカラサル旨人道上茲會議派自身ノ利益上反復説明シ置キタル処午後首席公使仏國公使ハ大統領ニ會見シタルニ大統領ハ市街戦ヲ為サスシテ首府ヲ引揚クヘク又水道電氣及食料運搬ニ妨害ヲ加ヘサルヘキ旨内約セリ但シ軍人激昂ノ際ナレハ實際如何ニナルヘキヤ明ナラス

三六五 六月二十二日

在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

米國大統領ノ墨國革命各派ニ対スル平和勧告  
及右ニ対スル各派ノ態度報告ノ件

政公第五二号

(九月二十二日接受)

大正四年六月二十二日

在墨國

特命全權公使 法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本月二日米国大統領「ウイilson」氏ハ墨国革命各派ニ対シ平和ノ為メ和合協同スベキヲ勸告セル宣言書ヲ公表シ内外世人ノ墨国問題ニ関スル注意ヲ喚起シタルニ関シ左ニ報告差進候間御査閱相成度候

米国ノ対墨政策ニ関シテハ内外ノ世論紛々トシテ帰一スル所ナク米国政府亦久シク傍觀ノ態度ヲ持シテ革命各派ノ争奪ニ任セタルノ觀アリ為メニ米国政府ガ時ト共ニ益々陰惡トナレル墨国問題ヲ閉却セリトノ非難ハ特ニ米国内ニ高マリ「ウイilson」大統領ノ人氣モ墨国問題ノ為メ減殺セラレントスル傾向アリ之ニ乗ゼル共和党政客ノ暗中飛躍アリ「ローズヴェルト」前大統領ノ如キ本年二月以来屢々其機關雜誌上米国ノ対墨政策ヲ論ジテ米国ハ「モンロー」主義ヲ抛ツカ然ラズンバ嘗テ玫瑰ニ対シタルト同シク墨国ニ対シ武力干涉ノ舉ニ出デ米大陸ニ於ケル覇者タルノ權威ヲ世界ニ示サザルベカラズト公言シ居リ米国現政府タルモノ此際墨国ニ対シ何等カノ手段ニ出デテ世人ノ視聽ヲ喚起スルコト其对内政策上ヨリスルモ極メテ緊要ナルノ位置ニ到達

数次会谈シタル処又同人ト会见セル同僚ノ意見ヲ綜合スルニ米国ノ対墨国政策ノ今後ニ就テハ同人素ヨリ何等明言セスト雖モ久シク歐洲問題ニ忙殺セラレタル米国大統領ガ漸ク墨国問題ヲ研究スルノ時機至ラントスルヲ認メ同人ヲ派遣シテ其端緒トスルノ意ハ同人ノ口吻ヨリ之ヲ察スルニ難カラズサリトテ此際米国ガ断々乎トシテ墨国問題ヲ解決スルノ準備アリヤ否ヤハ甚ダ疑ハシキモノアリサレバ同人ノ使命ナルモノハ米国ノ對外關係上對墨政策ニ百尺竿頭一步ヲ進ムルヲ目的トスルヨリモ寧ロ前記「ウイilson」大統領力国内ノ不人氣ヲ回復セン為メノ对内政策ニアリトハ當時同僚等ノ意見一致セル処ナリキ而シテコノ对内政策ノ目的ヨリスルモ前記「デュバル、ウエスト」ノ報告ヲ得タル後米国政府タルモノ何等カノ行動ヲ墨国ニ加ヘ米国ノ對墨政策トシテ内外ノ賞讃ヲ博スルノ舉ニ出ヅベシトハ予テ期待セラレタル処ナルガ果セル哉五月下旬ニ至リ米国赤十字社ハ在墨窮民救助資金ノ募集ヲナシ大統領亦之ヲ奨励スルノ宣言ヲ公ケヤケニシ更ニ六月二日ニ至リ大統領ハ墨国各派ニ檄シテ其和合協調ヲ勸告スルノ宣言書ヲ先ヅ米国ニ於テ公表スルト共ニ之ヲ墨国革命各派首領ニ送致セリ該宣言書

シタリサレバニヤ「ウイilson」大統領ノ友人ト称シ他ニ何等米国政府ノ官職ヲ帶ビザルモ隱ニ同大統領ノ密使トモ目スベキ「デュバル、ウエスト」(Duval West)ナルモノ本年三月先ヅ北墨「ヴィーヤ」將軍ノ下ニ派遣セラレ同將軍ト会商セルコトアリ當時当府北墨間ノ交通ハ素ヨリ米国トノ交通杜絶ノ際ナリシヲ以テ同人ノ消息モ当地一般ニ知ラレズ從テ何等ノ物議ヲモ聞クコトナカリシガ同人カ四月上旬ニ至リ「ヴェラクルズ」港ニ来リテ「カランサ」將軍ト会见シ更ニ当府ニ来リテ會議派諸官憲ト会商スルニ及ビテ一般ノ世評ハ同人今次ノ墨国視察ハ米国ノ對墨武力干涉ノ前提ナリト言フニ一致シ同人カ嘗テ米西戦争前玫瑰島視察ヨリ歸來報告ノ後米国ノ對玫瑰武力干涉ノ端緒開カレタル履歷等ヲ摘示セルモノアリ当国会議派政府ノ將士中ニハ例ニ依リ私カニ社稷ノ危機近ケルヲ慷慨セルモノ鮮カラザリキ同人ハ世評ノ如何ニ頓着セズ墨国内乱ノ形勢ヲ視察スルニ寧日ナキモノノ如ク当府ヨリ更ニ「モレロス」州ニ赴キテ「サパタ」將軍ト会商シ且ツ当府滞在中ニハ勉メテ外交団トモ接触シテ意見ヲ交換シタルガ四月下旬再ビ「ヴェラクルズ」ヲ経テ米国ニ歸リ去レリ本使ガ同人ト当府ニ於テ

ハ当府會議派政府ニ對シテモ當府伯国公使ヲ經由シ六月三日會議派政府外務大臣ニ手交セラレ翌四日各新聞紙ニ公表セラレシヲ以テ盛ンニ内外諸人ノ批判ヲ惹起シ世論百出ノ態アリ該宣言書ノ要領ハ先ヅ筆ヲ極メテ二年余ニ亘レル革命ノ慘狀ヲ述ベ之ヲ默視スルハ隣邦國タルモノノ最早忍ブ能ハザル処ナリト傲語シ次ニ此際革命各派ハ小異ヲ棄テテ当初ノ大目的ニ合シ將ニ衰亡セントスル国家国民ノ安固ヲ計ルベシト勸告シ最後ニ若シ各派ニシテ短日月間ニ此勸告ヲ容ルルノ実ヲ舉ゲズンバ米国政府ハ自ラ進ムデ墨国問題解決ノ手段ヲ定ムルノ已ムヲ得ザルニ至ラントテ干涉ヲ暗示シタルニ在リ思フニ墨国内各派妥協ノ困難ハ内乱ノ日ト共ニ陰惡ナル今日其困難ハ益甚ダシカルベキコト識者ヲ俟テ初メテ知ルベキニアラズ「デュバル、ウエスト」ノ各派視察ハ其困難ナルベキ現状ヲ明ニセルモノト察セラルルニ拘ハラズ米国大統領ハ特ニ声ヲ大ニシテ難中ノ難事ヲ墨国各派ニ勸告スルモ得ル処ハ単ニ各派中ノ對米反感ヲ増大スルニ過ギザルベク結局米国ノ干涉ヲ俟テ始メテ墨国ノ平和克復ヲ見ルニ至ルベシトハ一般ノ想像スル所ナリサレバ当地ニ於テハ該宣言書ノ末段タル干涉ノ暗示ニ重キヲ置キ墨

國人ハ米國干渉来ヲ唱ヘ米國人初メ一般外國人ハ米國ノ對墨政策ノ確立ニ近ケルヲ言ヒテ歡迎セル傾アリ之ヲ要スルニ米國ガ墨國問題ヲ閑却セズ常ニ注視ヲ怠ラズシテ墨國ノ平和確立ヲ熱望セル趣旨ハ該宣言書ノ公表ニヨリ米國內ハ素ヨリ世界各國ニ確認セラレタルモノト言フベク「ウイilson」大統領ノ内國政争ニ於ケル立場ニ利益アリシハ無論ノコト又外國ニ對シテモ在墨各外人ノ窮狀ニ對スル米國ノ責任上ノ遁辭タル效アルベシト推察セラル若シ夫レ該宣言書末段ノ干渉ノ暗示ガ果シテ近キ將來ニ於テ事實ニ現ハルベキヤ否ヤ若クハ一片ノ傲語強辭ニ過ギザルベキヤ否ヤハ今少シク米國今後ノ行動ニ徴スルノ外ナキモ大山鳴動シテ鼠一匹ヲモ出サザル米國從來ノ對墨政策ノ慣用手段ヲ熟知セルモノハ右暗示ノ近キ將來ニ於ケル實現ヲ予期セザルモノノ如シ

猶當國革命各派首領ガ該宣言書ニ對シナセル回答書ニ就キ一言センニ「ヴィーヤ」將軍及當地會議派政府ノ回答書ハ當地新聞ニモ公表セラレ其全文ヲ知ルヲ得タルモ獨リ「カランサ」將軍ガ如何ナル回答ヲナセシヤ當地「ヴェラクルズ」間全ク交通遮斷ノ今日トテ其一斑ヲモ之ヲ窺知スルヲ

政府ノ回答書中力説セル所ハ革命ノ慘禍ハ社会的大改革ノ犠牲ナリト言フノ点ニアリ以テ兩派ノ帰趨ヲ察スルニ足ルベシ要スルニ各派ノ回答書ナルモノハ米國大統領ノ勸告ニ對スル回答トシテハ何レモ不得要領ニ過ギタルノ觀アリト雖モ少ナクモ米國大統領今次ノ勸告ガ墨國革命各派ニ及ボセル反響トシテ將來何等カノ參考資料タルベシト思惟セララルヲ以テ左ニ其全文ヲ翻譯シテ「ウイilson」大統領ノ勸告書訳文ト對照列記スベシ

#### (一) 米國大統領ノ平和勸告書訳文

墨國革命騒亂ハ已ニ二年余ニ亘リツツアリ該革命ノ目的タルヤ共和国憲法ヲ無視シ人民ノ權利ヲ顧ミザル專横ノ徒輩ヲ除クニ在リキ之ヲ以テ我合衆國人民ハ不知不識寛大ニ該革命ニ對シ同情ヲ表シタリキ而モ該革命ノ各首領ハ其成效ノ日ニ達スルヤ忽チ互ヒニ相争鬭ヲ事トシテ和合協同ヲ破ルヲ常トス思フニ彼等ハ当初共同ノ目的ヲ宣明シツツモ猶互ヒニ其行動ヲ一ニセズ又一ニスルヲ欲セザルナリサレバ墨西哥市ニ於ケル中央政府ノ如キ其成立スルヤ忽チ転覆セラレ当初之ヲ擁護セントセシ者モ翻テ之ヲ否認スルノ狀態ナリ

得ズサレド僅カニ牒知セル情報ニヨリ察スレバ「カランサ」ハ墨國ノ大部分已ニ自己ノ勢力圈内ニアリト前提シ革命各派ノ和合協調ハ少数党ナル他派ノ降伏ニ基カザルベカラズトノ意味ヲ答ヘタルモノノ如シ真偽素ヨリ確カメ難キモ飽迄憲政軍ノ正統政府ヲ以テ自任スル「カランサ」派平生ノ行動ヨリ察シ或ハ其真ニ近キヲ推セラルルモノアリ「ヴィーヤ」將軍及當府會議派政府ノ回答書ニ至リテハ叙説何レモ大同小異ニシテ米國カ墨國ノ平和回復ヲ希望スル趣旨ヲ容ルルト共ニ現下内乱ノ責ヲ「カランサ」派ニ歸シ且ツ何レモ外國ノ干渉ハ飽迄之ヲ排セントスル意嚮ヲ一ニセリ而シテ當地會議派政府ナルモノハ同シク「ヴィーヤ」派ノ政府ナレドモ當地ニ残留セル會議派ナルモノノ主力ハ「サパタ」革命軍ニシテ同革命軍ノ主張ハ激烈ナル現社会制度破壊主義ニシテ昔日ノ仏國革命ヲ理想トセル分子多ク此点ハ比較的妥協的寛容の態度ヲ持シ是迄已ニ各種ノ異分子ヲ集メタル「ヴィーヤ」派トハ成立ノ由来稍異ナレルモノアリ此兩派ノ差異ハ自カラ兩派ノ回答書中ニモ暗示セラレ居リ「ヴィーヤ」將軍ノ回答書ハ米國大統領ノ宣言書各項ニ對シ反説スルニ文辭婉曲縷々数千言ヲ費セルニ反シ會議派

墨國ハ其革命計画當時ヨリ毫モ悲劇的紛擾ノ解決ノ日ニ近ケルヲ認ムル能ハズシテ寧ロ内乱ノ慘禍ハ燎原ノ火ノ如ク全國ヲ掃蕩シツツアリ其收穫ハ蹂躪セラレ農地ハ荒廃ニ歸シ家畜ハ革命武人ノ用ニ没収セラレ人民ハ無用ナル流血ノ禍中ニ投ズルヲ避ケテ山中ニ逃レ平和及秩序ノ回復ヲ計ラントスル者一人モナク墨國市民ハ素ヨリ同國內ニ居住シテ業ヲナセル各外國人ニ對シテモ何等適當ノ保護機關ナシサレバ今ヤ墨國ハ一面飢餓ニ瀕スルト共ニ他方無政府ノ狀態ニ在リ

此ノ時ニ當リ我合衆國人民及其政府タルモノ其隣邦隣人ニ對シ冷然トシテ拱手傍觀スル能ハザルナリ素ヨリ合衆國人民及其政府ハ墨國ニ於テ何等自カラ求ムル所ナク又毫モ墨國ノ事件ニ関与シ又ハ関与スル權利ヲ主張スルノ意ナシト雖モ墨國ノ滅亡ハ之ヲ坐視スルニ忍ビス且ツ革命本来ノ目的、憲法的政府及人民ノ權利ヲ形作ルベキ解決ヲ来スニ有效ナルベキ方法ニ對シ適當ナル助力ヲ与フルハ墨國ノ友人且ツ隣人トシテノ義務ナリト思考スルモノ也

加之墨國ノ愛國者ハ衷心ノ苦痛ニ堪ヘズシテ平和ヲ呼号シ之ヲ得ルニ必要ナル凡テノ犠牲ヲ絶叫シ生民ハ食ヲ求メテ

泣キ同胞互ヒニ相恐レ相惡ミツツアリ此ノ如キ特種ノ時局ニ際シ合衆国政府ハ其採用スヘキ政策ヲ忌憚ナク宣明スルハ其義務ナリト信ズ

今日迄為サレザリシコト又ハ之ヲ為スベキコトヲ感ゼザリシコトハ今直チニ之ヲ為サザルベカラズサレバ若シ一個人又ハ団体ニシテ騒乱ニ困難セル墨西哥人民ヲ提ゲテ革命各派ヲ糾合シ得ザルマデモ之ヲ度外視シテ永ク中止セル共和国憲法ヲ復活シ政府ヲ墨西哥市ニ建設シ世界列強ノ承認ヲ受ケ若シ其革命計畫ヲ実行シ得ルニ足ルモノアラバ合衆国政府ハ其有力ナル德義上ノ援助ヲ之ニ与ヘントスルモノ也余ハ茲ニ墨国革命各派ガ速カニ相和同シテ其衰亡セントスル国家ノ救済ト再建トニ努力センコトヲ公々然且ツ嚴格ニ勸告ス若シ彼等ニシテ短日月中ニ其小異ヲ棄テテ相和シ大同ニ合スルコトヲ得ザル曉ニハ我政府ハ墨国及其人民ノ救済ニ関シ我政府ノ自カラ採ルベキ手段ヲ決定スルノ余儀ナキニ至ルベシ余ハ明カニ革命各派首領ニ對シ此言ヲナスヲ我義務ナリト感ズルモノナリ

#### (二) 會議派政府ノ回答書訳文

暗殺ト篡奪トヨリ生ゼル政府ヲ覆シ「ウイルソン」大統領

戦乱ト同様ナル程度ノ惨禍ヲ再ビ国内ニ繰返スニ至レリ

「カランサ」派ノ反乱ハ前記ノ如ク極メテ不道理ナルノミナラズ其代表者ハ該會議ノ当初ニ於テハ凡テ會議ノ決議ニ對シ名譽ヲ以テ服従スベキヲ宣誓セルニ照セバ更ニ不信不義タルヲ免レズ加フルニ当時我會議派政府ハ常ニ公明正大ノ態度ヲ表セルニ反シ同派ノ諸新聞紙ハ盛ニ侮辱的言辭ヲ公ケニシタルモ我會議派ハ終始一貫革命各派ノ糾合一致ナル高尚ナル目的ヲ達スルニ努メ最近殊ニ米國大統領ノ勸告以前ニ當リ已ニ主ナル「カランサ」派各首領ニ對シ平和ノ解決ヲナスニ必要ナル前提条件トシテ休戦ヲ申込ミ置ケリ思フニ国内ノ慘憺タル現状ニ鑑ミレバ「カランサ」派ガ前記休戦ノ申込ニ對シ飽迄回答ヲ為サスト固執スルコトハ信ズベカラザルコトニ屬ス而モ若シ彼等ニシテ猶固執ストセバ歴史上ノ恐ルベキ大責任ハ明カニ彼等ノ負フベキ所ナリト言ハザルベカラズ

前記已ニ開始セル統一事業ノ經過如何ニ拘ハラズ其目的達セラルル迄ハ我會議派政府ハ協議會 (Convention)ノ議決研究ニ基キ予ジメ革命運動ノ目的トセル諸般ノ改革ヲ行ヒ以テ法律的政治ト憲法の秩序ノ回復トニ備フル所アラント

及其人民ノ同情ヲ博セル墨国革命運動ハ其勝利ヲ告ゲ又予テ改革ト理想ノ實現トノ障害物タリシ個人の傾向 (Personalist tendency)ヲ根絶セントスルニ當リ計ラズモ三大派ニ分立スルニ至レリ之レ蓋シ各派皆其目的ヲ共ニスルモ其理想ニ達スルノ手段方法ニ至リテハ各々深ク異ルモノ存スレバ也此三大派ノ分立ハ一般多数ノ予期セザリシ処ナリシナランモ所謂憲政軍ノ中心幹部ニハ個人の傾向アリ残余各派ニハ純粹ナル民主的傾向アルヲ熟知セルモノニトリテハ到底避ケ難キ大勢タリシコト見易カリシナリ之ヲ以テ各派ノ分立ト並ビニ之ニ伴フ流血ノ慘劇トヲ避ケンガ為メ調和的解決ノ途ヲ計ル計畫起リ各派中最モ有力ノ分子タル軍人武將ヲ代表者トシテ相会合シ茲ニ「アグワス、カリエンテス」ニ於ケル主權革命會議トナレリサレバ同會議ハ専ラ革命各団体ノ利益ト目的トヲ民主的形式ヲ以テ統一スルニ力ヲ注ギシモ不幸各団体ノ融和ハ完全ニ行ハレズ即チ「カランサ」派ナル一団体ハ同會議ガ共和國假大統領ノ位置ヲ「エウラリオ、グツチエレス」大將ニ与フルノ決議ヲナスニ及ビ他団体ノ皆之ニ服従スルニ拘ハラズ同派ノミ独リ不道理ニモ之ニ服従スルヲ拒ミ遂ニ「ウエルタ」政府転覆ノ

スルモノ也

国内慘憺タル窮困ノ事實モ社会的大改革ハ常ニ何レノ国ニ於テモ激烈ナル改革ト偉大ナル犠牲トニヨリ行ハレタルヲ思ヘバ何等驚クニ足ラズ奮闘ハ生活ノ規則ニシテ進歩ハ常ニ理想ト利益トノ衝突ノ結果ナリ

殖民地時代ヨリノ遺物ニシテ爾來數世紀間殘虐且ツ貧慾ナル政府ニ助長セラレタル欠点ト腐敗トニ満テル組織機關ハ激甚ナル騒乱ト深大ナル激動ト慘酷ナル戦闘トニ依ルニアラザレバ到底之ヲ匡正スル能ハズ故ニ過去五年間全国ヲ騒ガシ今尚各種ノ障害ヲ破壊シテ進行シツツアル革命運動ナカリセバ自由ト正義ト公共利益ノ正当公平ナル分配トノ基礎ニ立ツ社会的秩序ヲ見出シ難キヲ以テ吾人ハ革命運動ノ必要ヲ認ム而シテ多年ノ戦乱ヨリ生ゼル損害犠牲ノ如キモ吾人ノ予期スル如キ革命ノ目的達セラレズシテ単ニ一部少数特權者流ノ利益ヲ事トシ真ニ社会一般各階級ノ利益ヲ標準トスル政府建設セラルルニアラザレバ全ク何等ノ意味ナキニ終ルベシ會議派政府ハ「ウイルソン」大統領閣下ノ宣言書ヲ以テ単ニ我反對派ヲシテ其分立敵對ノ行為ヲ中止シ革命ノ目的ノ實現ニ協力セシムルヲ誘説セル友誼的勸告又

ハ暗示ナリト観ルモノニシテ他ニ何等カノ意アルモノト観ルヲ欲セザルナリ故ヲ以テ吾人ガ短日月間ニ騷乱内訌ヲ解決シ能ハザル場合ニハ米國政府自カラ其解決手段ヲ決スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベシトノ宣言ニ對シテハ我會議派政府ハ「ウイルソン」大統領ガ其宣言書前段ニ合衆國ハ墨國ノ事件ニ関与シ又ハ関与スル權利アリト主張セズト宣明シ居レルコト並ビニ同大統領ガ本年一月「インデアナポリス」ニ於ケル演説中左記ノ言ヲ為セルコトハ何ノ意タルヤヲ疑ハザルヲ得ズ曰ク

余ハ強國ニ属スルヲ誇リトス墨國人ハ其内政ニ関シテハ吾人ト同様ノ自由ヲ有ス吾人ハ強シ墨國ノ征服ハ吾人ノ意ノ俛ナリサレド弱ヲ挫クハ恥辱ナリト感ゼザルベカラズ吾人ノ利益大ナルニ從ヒ吾人ハ益々其力ヲ自由ニシ他國民ヲ压迫セザルコトヲ以テ誇リトセザルベカラズ云々而シテ若シ「ウイルソン」大統領ノ宣言ハ吾人ノ解釈スル如キ友誼の意味ニアラズ換言セバ前記該宣言書末段ハ嘗テ墨國革命ニ對シ表明セラレタル同情ヲ否認シ压迫又ハ強迫ヲ意味ストセバ我會議派政府タルモノ其私フベキ代価ノ高キヲ自覺シツモ猶飽迄如何ニシテ墨國人民ノ權威ヲ支持

ヲナスヲ其義務ナリト思考ス而シテ余ハ其政治上ノ意見ハ我會議派政府ニヨリ代表セラレ且ツ余ノ指揮スル軍隊ニヨリ支持セラルル党派ノ名ニ於テ左ノ一言ヲナスモ適當ナリト信ズ則チ米國市民ハ我々墨國市民ト同一ノ程度ニ於テ大統領「マデロ」副大統領「ピノ、ソアレス」ノ殺害ヲ惡ミ又之カ為ニ纂奪者ノ權力ヲ顛覆シ我國憲法ノ復活ヲ謀リ且ツ千九百十年米國市民ノ精神の援助ヲ受ケテ起リシ革命ノ目的タル墨國市民ノ社会的地位ヲ改良セントスル立憲の革命運動ニ對シ多大ノ同情ヲ与ヘラレタルコトヲ確信ス

纂奪者ハ米國政府ハ吾人ニ實質の援助ヲ与ヘ吾人ハ其力ニヨリテ革命ヲ促進セリトノ攻撃ヲナセシモ之レ固ヨリ無根ノ事實ナリ墨國市民ハ當時米國市民ノ同情並ニ精神の援助ニツイテハ令尚深ク感謝ノ意ヲ表ス而シテ今回大統領「ウイルソン」氏ガ米國政府及市民ハ墨國內政改革ニ関シ何等干渉スル權利ナキコトヲ認メラレタルハ余ノ甚ダ満足ヲ表スル所ナリ

吾人ノ革命の運動成效シタル後内訌ノ為メ遂ニ再ビ内乱ノ慘禍ヲ見ルニ至リシハ吾人ノ甚ダ悲シム所ナルモ吾人ハ飽クマデ戦捷ノ效果ヲ収メント努力スル者ニシテ畢竟スルニ

スヘキカノ手段方法ヲ熟知スルモノ也  
之ヲ要スルニ吾人ハ合衆國政府ノ理想ハ國家最大ノ幸福ヲ目的トシテ起レル内争ノ解決ニ對シ友誼のニ吾人ヲ援助セントスルニ在リト思考ス

我政府ハ其權威ニ抵触セザル凡テノ方法ニヨリテ革命各派ヲ糾合シ經濟的政治的社会的改革ノ基礎ヲ建立シ正当ナル凡テノ利益皆其処ヲ得ルト共ニ根本法規ノ規定スル保障ヲ得ベキ確定不動ノ政府ヲ建ツルニ努メントスルモノナリ而シテコハ実ニ我會議派政府ノ凡テノ行動ノ模型ニシテ吾人ハ友邦諸政府ガ吾人ノ意ノ存スル処ヲ諒トセラレンコトヲ希望ス

(三) 「ヴィーヤ」將軍ノ回答書訳文

米國大統領ハ其不偏不倚ト高潔ナル精神ニヨリ其國ノ内外ノ市民殊ニ墨國ノ中流以下ノ階級ヨリ至大ノ尊敬ヲ受ケ而シテ余モ此等ノ者ト共ニ彼ニ向テ敬意ヲ表スルヲ以テ彼ガ我國現下ノ内乱ニ對シ其政府ノ將來執ルベキ政策ニ関シ發表セル公ケノ莊嚴ナル宣言並ニ現今分裂セル墨國各党派ガ互ヒニ妥協シ平和ヲ克復スベシトノ勧誘ニ對スル回答トシテ余モ亦茲ニ余ノ名ニ於テ均シク公ケノ莊嚴ナル左ノ宣言

主義ノ争ニ過ギズ假令一部ノ人士間ニ多少ノ野心アリトスルモ吾人等ヲ目シテ有害ナル野心家ト速断スベカラズ或ル少数ノ首領ガ懷抱セル革命的主義ニシテ我國憲法ノ規定ニ基ヅキ其實行ヲ見ル能ハザル誤謬ノ思想若クハ或ル野心家ガ法律ナク司法ナク規律ナクシテ永遠ニ其權力ヲ保持セントノ希望ヲ有シ乍ラ仮面ヲ被リテ宣言シタル誤レル主義ノ為ニ一ヶ月ヲ出デズシテ「メキシコ」首府ヲ始メ憲政軍總指揮官ヲ承認スル軍隊ノ占有スル各都市ハ最モ紊亂セル無政府ノ状態ニ陥レリ加之ナラズ友邦國トノ關係ハ「カランサ」ノ統御其宣シキヲ得ザリシ為メ未曾有ノ緊迫セル狀況ヲ呈セリ蓋シ何人モ「カランサ」部下ノ將校兵士ガ外國市民並ニ外國代表者ノ身体財産ニ對シ加ヘタル不法ノ行為ヲ忘レサルベク之レ全ク「カランサ」ニ實權ナク其命令一モ行ハレザルニヨルハ明ナル事實ナリ吾人ハ革命ノ本旨ハ之ガ為ニ没却シ内政ノ改革財政ノ整理ハ永久ニ遲滯シ且ツ立憲の政府ノ確立換言スレバ其革命主義ヲ我根本的法律ニ注入スルコトハ將來容易ニ行ハレザルベキヲ憂ヒ吾人墨國北部師團長聯隊長等ハ多數ノ文官ト協議ノ上昨年九月總指揮官タル「カランサ」ニ向テ臨時共和国大統領ノ職ニ就

キ適當ナル内閣ヲ組織シ司法裁判所ヲ開キ短期日内ニ総選舉ヲ行ヒ立憲の政府ヲ樹立スベキコトヲ提議セシモ「カランサ」ハ毫モ之ニ付キ考慮シタルコトナカリキ「カランサ」及其配下ノ意見ニ依レバ革命ノ実效ヲ挙ゲントスルニハ長日月ノ予備立憲の期間ヲ要ス此期間内ニ於テハ総選舉ヲ施行セズ專ラ実質ニ於テハ軍隊の性質ヲ帶ブル會議ヲ開催シ依テ以テ一千八百五十七年ノ憲法ニ修正ヲ加フルヲ得ベシト云フニ在ルモ吾人ハ此方法ハ国家ノ壊廢ヲ意味スルモノト解ス吾人ハ其革命的宣言ニ基ヅキ人民ノ選舉スル代議員會議ヲ開催シ立憲の改良ヲ圖ルヲ至当ナリト確信セリ而シテ「カランサ」ハ其後「ヴェラクルズ」港ニ於テ発表セル宣言ニ於テ戰捷ノ曉ニハ総選舉ヲ行ヒ代議員會ヲ召集スベシト約セルニヨリ彼ハ吾人ノ見解ニ一致シタルヲ知ルベク由是觀之今日ニ於テハ二党派ノ主義綱領ニ重大ナル懸隔アルヲ見ズ何人ガ内乱ノ責任者ナルニ付テハ吾人ハ此破裂前総選舉ヲ施行スベキコトヲ適當ノ時期ニ於テ提議セシニヨリ其責ヲ負ハザルコトヲ断言ス

余ハ會議派首領ノ一人トシテ米國大統領「ウイルソン」氏が概括のニ其宣言書中ニ記載セル非難ニ對シ吾人ノ措置ヲ

護ヲ享有スルヲ視察シ多大ノ好感ヲ惹起シタルコトヲ貴下ニ報ズルハ余ノ喜ブ所ナリ」ト認メタリ又三月十七日在米英國大使「サア、セシル、スプリングライス」ハ在「エル、パソ」英國領事ニシテ北部墨西哥ニ於ケル同大使館代表者タル「ホームマン、シー、マイルス」氏ニ對シ我官憲ガ英國人ノ利益保護ニ付キ為シタル迅速ナル措置ニ對シ同大使ハ甚ダ満足ナル意ヲ表スル旨ヲ我政府ニ通告スベシト命令セラレタリ

其他英米政府ハ我管内ニ於ケル内外人ノ保護ヲ認メラレ尙幾多ノ個人ヨリノ電報ハ之ヲ例証スルニ足ルベシ  
当國政府ノ行政常軌ヲ逸シ居ルハ深ク怪シムベキモノナシ如何ナル場合ニ於テモ再建ノ事業ハ遅々タルモノニシテ特ニ況ンヤ一方ニ干戈ヲ受クルニ於テオヤ然シ乍ラ此戦乱ノ最中ニ於テモ勞働者間ニ教育ノ普及ヲ計リ殆ンド各州ニ司法裁判所ヲ再設シ鉱山法ヲ修正シ貨幣自由鑄造ノ制ヲ布キ農業漁業其他天産物採掘ニ関スル法律ヲ改革シ鐵道郵便電信ノ制度ヲ改良セリ

内乱ハ慘怛タル惡結果ヲ来シ國富ハ枯渴シ生活費ハ昂進シ国内裕ナラザルハ吾人之ヲ認ム然レドモ人民ハ貧窮ニ陥リ

弁護シ其責任ヲ明カニスルハ其義務ナリト信ズ  
其宣言書中ニハ墨國ニ中央政府ノ成立ヲ見ルヤ之ヲ擁護スベキ者忽チ之ヲ破壞シ否認ストアルモ此ノ如キ非難ハ吾人ノ受クル能ハザル所ナリ何トナレバ「カランサ」ハ革命ノ規約並我國憲法ノ復活ヲ目的トスル根本的主義ヲ無視セルニヨリ吾人ハ彼ノ權力ヲ否認シ且ツ「アグワス、カリエンテス」會議ハ其決議ニヨリテ主權ヲ宣言シ吾人之ヲ承認シ爾來該會議ノ主權ヲ尊重ス然ルニ「カランサ」ハ其主權ヲ認メズ之ニ反抗シタルモノナレバナリ

他ノ非難ハ墨國ニ於テハ内外國人ニ對シ生命財産ノ保障ナク墨國ハ政府ナクシテ漂流ストノ事ナリ然リ方今全國ヲ通シ列強諸國ヨリ承認セラルル政府ナキハ事實ナルモ此レ何レノ國內乱ニ於テモ当然ノコトナリ然レドモ内外人ニ對スル保護ナシト云フニ在リテハ少ナクトモ余ノ軍隊ノ占領スル領域内ニ在リテハ強ユルノ甚ダシキモノニシテ之ヲ弁駁セザルヲ得ザルナリ

米國大統領ノ個人的代表者タル「デュバル、ウエスト」氏ハ本年三月十日余ニ宛テタル告別文中ニ「余ハ今回ノ旅行中至ル所ニ安寧秩序ヲ認メ亦内外人ガ其職業ニ對シ便宜保

農地ハ荒廢ニ歸シ收穫ハ毀害セラレ國民飢餓ニ瀕スト云フニ至リテハ之ヲ誇大ノ言ト云ハザルベカラズ

「メキシコ」首府「モントレー」州及其他ノ都市ニ於テ現今生活ノ困難ヲ感ズルハ事實ナルモ之レ國內糧食欠乏ノ為メト云ハンヨリ寧ロ軍事的行動ノ結果ニ依ルモノ多シト云フベシ吾人ハ未ダ外國ヨリ扶助ヲ仰グ程絶體絶命ノ域ニ達セズ又我國民ハ如何ナル党派モ獨立建国以來百有餘年間「マデロ」政府ノ短期ノ施政ヲ除キ未ダ曾テ享有セザル充分ノ保障ヲ与フルヲ確信スルニヨリ一人モ山中ニ遁走スル者ナシ吾人ハ已ニ幾千ノ孤兒ヲ泣カシムル徵兵制度ヲ廃止シ又現ニ國民ヲ欺瞞シテ軍隊ニ編入セシムルコトヲ為サズ此顯著ナル自由ノ勝利ハ吾人ノ心裡ニ銘シ從テ革命反對派ノ政府建設ニ對シ大ナル恐怖ノ念ヲ懷クモノナリ吾人ハ高潔ナル愛國心ヲ有シ常ニ憲政軍ノ間ニ調和ヲ計ルヲ念トシ思想ノ柔弱若クハ無分別等野心若クハ惡意以外ノ原因ヨリ犯罪ヲ構成セシ者ヲ寬恕セントス吾人ノ希望ハ内乱ノ為メ國民ニ播マレル憎惡ノ觀念ヲ拭ヒ外國ノ干涉ヲ防ギ國際關係ノ錯綜ヲ避ケントスルニアリ此誠意ヲ表彰センガ為メ北部師团长及ビ其他國旗ニ署名シテ盟約セシ者ハ其敵人ニシテ来リ

降スル者ハ之ヲ宥恕シ「アグワス、カリエンテス」會議ノ趣旨ヲ貫徹センコトニ一致セリ此ヲ以テ余ハサキニ北部ノ權利ヲ掌握スルニ当リ布告ヲ發シテ誤レル思想ニ誘惑セラレ吾人ト方向ヲ異ニセシ者一旦悔悟スレバ之ヲ赦免スル旨ヲ通達セシガ更ニ本年四月ニ至リ「フエリス、ヂヤス」ノ暴動ノ巨魁並千九百十三年二月犯罪ノ巨魁ヲ除キ外国ニ亡命セル墨國人ハ何等ノ危険ナク余ノ勢力範圍地内ニ來住スル旨ヲ宣セリ

斯ノ如ク吾人ハ夙ニ平和ノ意思ヲ有スルヲ以テ今回米國大統領「ウイilson」氏ノ平和勸告ハ吾人ノ耳朶ニ新ナルモノニアラズ又吾人ガ妥協ノ決心ヲナセルハ決シテ有力ナル同盟國ノ同情ヲ得ントスルモノニモアラザルナリ

吾人ハ權力ヲ弄センガ為メニ戰フモノニアラズ又國民ノ自由ナル投票以外ノ方法ニヨリテ之ヲ得ントスル者ニアラズ然レドモ目下外國ガ我國内政ニ干渉スル危險ノ惧レアリ且ツ又「カランサ」派ハ我憲法政治ヲ有效ニ恢復センコトニ同意シタルニヨリ吾人ハ玆ニ新タニ各派ヲ糾合シ革命主義ヲ実行シ就中農政問題ヲ解決シ勞働者ニ教育ノ普及ヲ計リ以テ其實ヲ挙ゲントス然レドモ我共和國ノ憲法ヲ無視シ人

ブレゴン」將軍當府占領當時ノ狀況ニ関シテハ本年一月三十一日付公第九号並三月五日付公第三二号拙信ヲ以テ詳細及報告置候通ニ有之其後當府ニ起レル諸般ノ出來事ハ其都度電信ヲ以テ大要貴聞ニ達シ置候得共猶詳細ノ事情ニ就キ左ニ報告差進候間御査閱相成度候

本年一月二十七日當府ヲ占領セル「カランサ」派「オブレゴン」將軍ハ當府ニ在ルコト僅カニ四十余日近郊ヲ包圍セル會議派軍隊ノ攻撃ニ堪ヘズ遂ニ三月十日當府ヲ退却シ之ト同時ニ會議派軍隊ハ再び當府ニ侵入シ先キニ「オブレゴン」將軍入府ト共ニ「モレロス」州「クエルナバカ」ニ遷シタル會議派政府ヲ當府ニ迎フルコトナリ三月十一日大統領「ゴンサレス、ガルサ」以下閣員全部歸來シテ再び當府ニ行政ヲ開始スルニ至レリ由來會議派政府ハ「カランサ」派ニ比スレバ比較的善政ヲ布クヲ常トスルノミナラズ一般市民ハ一月下旬以來「オブレゴン」將軍ノ暴政ニ苦シメラレシ際トテ會議派政府ノ再來ハ甚ダ歡迎セラレ且ツ同政府亦市内ノ秩序安寧ヲ保ツニ努ムル所アリ而シテ同政府ノ再來ト共ニ此迄切斷セラレタル水道通近郊ヨリノ食料燃料品等ノ輸入自由トナリ通用紙幣ノ制限モ亦寛セラレ

民ノ利益ヲ毀損シテ權力ヲ濫用セント欲スル者ヲ除外スルコトヲ声明ス

右及具報候 敬具

三六六 七月十三日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

カランサ軍首府占領ノ件

第三六号

本月十日「カランサ」軍首府ヲ占領ス市民ニ生命財産ノ保障ヲ与ヘ大赦令ヲ發シ人民稍安堵ノ色アリ、電信ハ三週間余不通ナリシカ漸ク開通ス

三六七 七月二十八日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛

墨國最近ノ政況報告ノ件

政第五七号

(九月二十二日接受)

大正四年七月二十八日

在墨國

特命全權公使 法学博士 安達 峯 一郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本年一月下旬ヨリ三月上旬ニ亘リ「カランサ」派主將「オ

一般社会稍々堵ニ安シタルノ觀ヲ呈セリ然レドモ會議派政府内外ノ形勢ハ其本年一月當府撤退當時ニ比シ毫モ改善セラレタル所ナク寧ロ險惡ヲ加フルノ有様ナリキ蓋シ會議派政府ノ存立ニ最モ重大ナル關係ヲ有スル北墨「ヴィーヤ」將軍トノ連絡ハ「オブレゴン」將軍ガ當府ヲ退却シテ漸次北墨ニ進軍セルヨリ北墨地方ト連絡ヲ得ントノ希望絶エ加フルニ會議派政府内部ノ紛擾ハ日ト共ニ甚ダシク遂ニ大統領ノ更迭ヲ見ルニ至リ内憂外患常ニ絶ユルコトナカリシ也今其次第ヲ略叙センニ

一、「ヴィーヤ」將軍トノ連絡ノ希望

初メ「オブレゴン」將軍當府ヲ退却シ會議派政府當府ニ再來セシ當時ハ「ヴィーヤ」將軍北墨ヨリ大挙精銳ヲ率キテ當府ニ來リ以テ會議派政府ノ確立ヲ計ルベシトハ會議派政府ハ素ヨリ一般社会ノ期待セル処ナリキ然ルニ北墨地方ニ於ケル「カランサ」派其他各派ノ鎮圧ハ「ヴィーヤ」將軍ノ力ヲ以テスルモ而ク急ニ之ガ成功ヲ見ルニ至ラズ空シク時日ヲ遷延スル間ニ一旦當府ヲ退却セル「オブレゴン」將軍ハ進ンデ北墨地方ヨリ當府ヘノ援軍來着ノ途ヲ絶チ以テ會議派政府ヲシテ死地ニ陥ラシムルノ作戰ニ出デタルモノノ

如ク当府ヨリ北墨ニ通ズル中央鉄道ノ沿線ヲ経テ北方ニ向ヒ其軍ヲ進ムルニ至レリ蓋シ會議派政府軍隊ノ主力ハ「サバタ」革命軍ニシテ由来同革命軍ハ兵器彈藥供給ノ途ニ乏シク且ツ士卒ノ訓練完カラズ当府ノ如キ平野平原ノ地点ヲ守備スルニ慣レズ若シ「カランサ」派ニシテ一方北墨「ヴィーヤ」派ノ来援ヲ阻害スルニ成效スルト共ニ他方大挙シテ当府ニ来攻センカ會議派軍隊ハ忽チ潰走スルノ外ナラントハ何人モ常ニ危惧セル処ナリシナリサレバ會議派政府ハ専ラ「ヴィーヤ」將軍ノ来援ヲ希望シツモ「オブレゴン」將軍ノ為メ連絡ノ途ヲ絶タレ僅カニ当府ノ軍情ヲ察シ漸次南下ノ途ニ就ケル「ヴィーヤ」將軍ガ速カニ「オブレゴン」將軍ヲ撃破センコトヲ俟チツツアリシナリ而シテ南下セル「ヴィーヤ」將軍ト北上セル「オブレゴン」將軍トハ四月中旬以來中央鉄道ノ沿線「セラヤ」附近ニ於テ数次ノ会戦ヲ見ルニ至リシガ精確ナル戦報ハ当府ニ達セズ當時會議派政府ハ切リニ「ヴィーヤ」將軍ノ大勝ヲ伝ヘシモ察スル処事実ハ「オブレゴン」將軍ノ大勝ニ帰セシモノノ如ク「オブレゴン」將軍ハ依然中央鉄道ノ沿線ニ駐屯シテ「ヴィーヤ」將軍ノ南下ヲ阻害シ會議派政府ハ援軍ヲ得ルノ望益々乏シ

キ窮境ニ陥リタリシナリ

## 二、會議派政府ノ内訌

内訌ハ由来墨国革命軍ノ特徴ニシテ會議派政府ハ前記ノ如キ外患ノ裡ニ立テルニ拘ハラズ内部ノ紛争ハ絶ユル時ナク同政府ノ立法部タル武將協議会ハ常ニ議論百出紛擾相次グノ態ナリキ而シテ主ナル内訌ハ同協議会ニ於ケル多数党タル「サバタ」革命軍將代表者ト少数党タル「ヴィーヤ」派トノ衝突ニシテ「ヴィーヤ」派タル大統領「ゴンサレス、ガルサ」ノ執政ハ事毎ニ同協議会ニ反対セラレ遂ニ同協議会ニ於テハ大統領ノ更迭ヲ決議セントスルニ至リカクテ五月上旬以來「カランサ」派来襲ノ嚙漸ク高カラントスルニ拘ハラズ武將協議会ハ甲論乙駁兩派ノ衝突益々甚ダシク六月十日ニ至リ「ゴンサレス、ガルサ」辭職シ嘗テ同人ノ秘書役タリシ「ラゴス、チャサロ」ナル者假大統領ニ就任シ内閣ヲ改造スルニ及ビ漸ク一小康ヲ見タリ

前述ノ如ク會議派政府ガ内憂外患ニ苦シミツツアルニ際シ已ニ一方「オブレゴン」將軍ガ「ヴィーヤ」將軍ノ南下ヲ防グニ成效セル「カランサ」派ハ五月下旬以來当府攻略ノ策ヲ立テ憲政軍東部軍団長「パブロ、ゴンサレス」將軍

ヲ首府進撃ノ総指揮官ニ任ジ同將軍ハ「イダルゴ」州「パチュカ」市ヲ本拠トシ六月上旬以來当府攻撃ノ準備ヲ開始スルニ至レリ會議派政府亦之ニ応ゼンガ為メ盛ンニ士氣ヲ鼓舞シテ首府防禦ノ兵備ヲ整ヘ市街戦ヲモ辞セザル旨ヲ宣言シ玆ニ「パチュカ」ヲ本拠トセル「カランサ」派軍隊ト当府ヲ守備セル會議派軍隊トノ対陣トナレリサレバ六月上旬以來当府ハ再び恐慌時代ヲ出現シ近郊ニ於ケル兩軍ノ戦報盛ンニ喧伝セラレ人心堵ニ安ンゼズ外交官會議ハ會議派軍隊万一退却ヲ余儀ナクスルニ当リ水道電氣等ヲ切断シテ無辜ノ市民ヲ苦シムルコトナキ様外交団長ヨリ會議派大統領ニ交渉セシムルヲ決議シ外交団長仏国公使ハ大統領ヨリ仮令退却スルモ人道ノ為メ水道電氣等切断ノ舉ニ出デズトノ約言ヲ得タルコトアリ又會議派政府ハ「パブロ、ゴンサレス」將軍ニ対シ兩軍ノ間ニ一ヶ月ノ休戦ヲナシ以テ會議派「カランサ」派ノ聯合内閣ヲ建テ以テ墨国ノ平和回復ヲ計ラントノ提議ヲナセシモ素ヨリコレ平和と掲乱ノ責ヲ「カランサ」派ニ負ハセン為メノ窮策ニ過ギズ「パブロ、ゴンサレス」將軍ハ答フルニ會議派ノ絶對的降伏ヲ請求シカクテ兩派ノ血戦漸ク酣ナラントス之ヨリ先キ米国大統領ノ墨国各

派ノ和合勸告書ノ公表アリ(六月二十二日附第五二号参照)

米国政府ガ漸ク其對墨政策ニ着眼シ来レルヲ察セル會議派政府ハ今空シク首府ヲ「カランサ」派ニ引渡スニ於テハ「カランサ」派ヲシテ天下ニ名ヲ為サシムル所以ナリト解セルモノ、如ク連日善戦極力防禦ニ勉メタリシヲ以テ七月上旬ニ至ル迄約一ヶ月間「パブロ、ゴンサレス」將軍モ其一指ヲ当首府ニ染ムル能ハザリキサレド奈何セン已ニ北墨ヨリノ援軍来着ノ望ナキ孤軍タル會議派軍隊ハ連日ノ戦闘ニ彈藥モ欠乏ヲ加ヘ志氣漸ク振ハズ遂ニ七月十日当府ヲ撤退シ會議派政府ハ「メキシコ」州首府「トルカ」市ニ避難スルニ至レリカクシテ当府ハ自然「カランサ」派ノ占領ニ歸シ知事其他ノ行政機關モ同派ニヨリテ任命セラレ市民ハ「カランサ」派ノ政治ニ浴スルニ至リシモ今次ハ會議派軍隊市外遠ク退却シタルヲ以テ往日「オブレゴン」將軍入府當時ト異ナリ当府ハ會議派軍隊ニヨリ包囲セラル、ノ厄ヲ免レタリ殊ニ「パブロ、ゴンサレス」將軍ハ近郊「グワダルツペ」ヲ本營トシ同所ヨリ市民ニ檄シテ曰ク

吾憲政軍今次ノ首府占領ハ永久的占領ニシテ已ニ會議派軍隊ハ遠ク「モレロス」「メキシコ」兩州ニ潰走セリ内外

市民ノ生命財産ハ規律アル吾憲政軍官憲及軍隊ニヨリ完全ニ保障セラルベシ

トサレド一般市民ハ形勢漸ク定マリ「ヴェラクルズ」港ヲ通ズル海外トノ交通モ開カレントスルヲ慶賀セシガ「カラソンサ」派ノ当府占領後数日忽チ「ヴィーヤ」將軍ハ「オブレゴン」將軍ヲ撃破シテ中央鉄道沿線「ケレタロ」ニ出動セリトノ噂ヲ生ジサナキダニ一部人士ハ「パブロ、ゴンサレス」將軍ガ当府ニ入ラズシテ依然近郊ニ本營ヲ設クルニツキ疑惑セル際ナリシカバ茲ニ益々疑惑ヲ増スニ至リシガ七月十八日当府ノ「カラソンサ」派官憲ハ匆惶トシテ全部撤退シ「パブロ、ゴンサレス」將軍亦何レニカ撤兵シ去リ之ニ乗ジタル會議派軍隊ノ一部ハ又モヤ当府ニ侵入シ形勢ノ急變ニ驚愕セル市民環視ノ裡ニ当府ハ再び會議派軍隊ノ占領ニ歸セリ思フニ「カラソンサ」派軍隊ノ当府占領ノ當時ハ已ニ中央鉄道沿線ニ於テ「ヴィーヤ」派軍隊ハ問道ヨリ「オブレゴン」將軍ノ背後ヲ衝キ以テ「ケレタロ」附近ニ出動シ始メタルモノ、如ク今ヤ各派ノ戰事行動モ相互ニ何等ノ連絡ナク当府ヲ占領セシ「パブロ、ゴンサレス」將軍モ「オブレゴン」將軍ヨリノ戰報ニ接セズ「ヴィーヤ」派ノ出動ヲ

知ラズシテ当府ヲ占領セシガ最後ニ形勢ヲ危惧シテ特ニ首府ニ入ラズ又当府ヲ死守セシ會議派軍隊モ「ヴィーヤ」派ノ出動ヲ知ラズシテ急遽撤兵シ去リタルモノト見ルノ外ナク以テ各派ノ亂戰ヲ察知シ得ベシ而シテ「パブロ、ゴンサレス」將軍ノ当府撤兵ハ全ク前記「ヴィーヤ」派出動ノ事實確カメラレタルノミナラズ「パチュカ」市モ「ヴィーヤ」派ノ占領ニ歸シタリトノ情報ニ接シタル結果ナリトハ一般ニ認メラレル、処ナリサレバ当府ハ今ヤ會議派軍隊ニ占領セラレ居レリトハ云ヘ「カラソンサ」派及ビ之ニ對抗セル會議派並ビニ「ヴィーヤ」派ノ戰鬪ハ当府ヲ中心トセル数十里ノ区域内各所箇々ニ行ハレ形勢混沌トシテ一定セズ当府會議派官憲ハ切リニ「ヴィーヤ」派ノ來援ニヨリ当府近郊ハ素ヨリ「パチュカ」「ポエブラ」等皆會議派ノ占領ニ歸シ「ヴィーヤ」將軍近ク当府ニ入ルベキヲ言スルモ素ヨリ何等信ヲ措クニ足ラズ加フルニ會議派政府ナルモノモ大統領初メ主力ハ依然「トルカ」市ニ在リテ敢テ当府ニ歸來セズコレ実ニ形勢未ダ定マラザル事實ヲ示スモノトシ一般社会ノ推察スル所ナリ

今少シク当府ニ於ケル社会問題ニツキ觀察ヲ叙センニ物資

ノ欠乏ト物価ノ騰貴トハ益々低止スル処ナキ狀態ニシテ本年三月會議派政府ノ再來ニヨリ一般細民ノ生活難ハ幾分ノ寛和ヲ來サント予期スルモノアリシモ奈何セン積年ノ内亂狀態ニ基因セル物資ノ欠乏ト物価ノ騰貴トハ到底之ヲ救フニ途ナク僅カニ前述ノ如ク近郊トノ交通ニヨリ一部ノ食料品燃料品ノ買入ニ困難ヲ感ゼザルニ過ギズ一般ノ食料品ノ如キ寧ロ益々騰貴ノ一方ニ傾クニ至リ一般社会ノ困難一方ナラズ會議派政府ハ下層民ノ救済トシテ食料品ヲ安価ニ払下グルノ策ニ出デタルガ食ニ餓エタル細民ハ群ヲ為シテ連日市内数ヶ所ノ各払下所ニ集会シ雜沓云ハン方ナク連日各所ニ於テ多数ノ死傷者ヲ出ス有様ニシテ光景真ニ人ノ同情ヲ惹起スルモノアリ而シテ商店ハ物資欠乏ト墨貨外國為替相場ノ下落トヲ理由トシテ益々其売値ヲ高メ生活難ノ叫ビハ社会各階級ヲ通ジテ之ヲ聞クニ至レリカクシテ會議派政府ノ本年七月十日退却前ノ如キ貧民ハ群ヲナシテ青物市場及各所ノ食料品店ヲ襲フニ至リ政府ハ軍隊ヲ以テ之ヲ阻止セントセシモ兵士亦自己給料ノ不足ヲ訴ヘ寧ロ細民ニ同情シテ其暴行ヲ傍觀スルノ態ナリキカクシテ「カラソンサ」派ノ当府占領トナリ會議派軍隊ハ前記外交團長トノ約ヲ忘レテ

水道ヲ絶チ加フルニ「カラソンサ」派ハ從來通用ノ會議派紙幣ノ流通ヲ認メズ一般社会ノ困難ヲ加ヘ貧民ハ僅カニ貯ヘタル紙幣ヲ懷イテ路頭ニ泣クノ慘狀ヲ呈セシガ「カラソンサ」派ノ占領期間短ク当府ハ再び會議派ノ占領スル所トナリシヲ以テ水道再ビ通ズルト共ニ通用紙幣ノ問題ハ自然解決セラレタルモ当府ヲ中心トスル各派ノ對峙戰行ハレツツアル結果トシテ商店ハ多ク閉戸シ取引ヲナスモ安固ナル紙幣ノ通用セザルヲ危ブムト共ニ墨貨外國為替相場ノ最近暴落ヲ理由トシテ売価ハ會議派政府退却ノ當時ヨリ三倍又ハ四倍トナシ茲ニ一般社会ノ生活難ハ更ニ甚ダシキヲ加ヘ形勢前述ノ如ク混沌トシテ定マラザルコト久シキニ及ブニ從ヒ益此傾向高マリ底止スル所ナカラントスカノ米國赤十字社ノ救済事業モ「ヴェラクルス」港當府間交通開ケザル限り多ク物資ヲ移入シ來ル能ハズ當府在留各外國人ヨリ成ル細民救助事業モ要スルニ日ト共ニ高マレル生活難ヲ防グコト素ヨリ不可能ノ事ニ屬ス而シテ今ヤ各外國公使館領事館ハ自國在留民ノ救済ヲモ事トセザルベカラザルニ至レリ

依之觀是當府ハ全ク革命各派爭奪ノ中心点ト化シ當府ヲ中心トスル各派ノ戰鬪ハ今後俄カニ決セザルベク時ニ「カラ

ンサ」派占領シ時々「ヴィーヤ」之ヲ回復シテ相互ヒニ相争フベク今日ノ如ク「カランサ」派「ヴィーヤ」派相對峙シテ相下ラズ且ツ両者共ニ当府ヲ永ク守備スルノ実力ナシトセバ何レノ日カ当府ハ一定ノ政府治下ニ安ンジ得ベキヤ甚ダ疑ナシトセズ而シテ当府ニ於ケル社会問題ハ益々危機ニ近ヅキ而モ今ヤ根本的救済ノ途ナシコレ識者ノ深憂ヲ要スル所以也

右及具報候 敬具

三六八 八月四日 在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

墨國ノ動乱ニ関シ米國國務長官南米大公使ト

秘密会合ノ件

第一九四号

此程来大統領ハ特ニ墨國問題ニ付考量中ニシテ近ク何等カノ措置ニ出ツベシト伝ヘラレタル処八月二日國務長官ハ八月五日國務省ニ於テ伯刺西爾亞爾然丁智利「ボリビア」Uruguay Guatemala 大公使參加墨國時局ニ関シ秘密且ツ非公式ノ会合ヲ催スベキ旨公表セリ右ニ関シ種々ノ報道伝ヘラルル処之ヲ総合スルニ第一緊急議題タルベキモノハ

本日ヨリ開始セリ(八月四日)

三七〇 八月六日 在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

米國政府ト南米大公使トノ秘密会合ニ付報告

ノ件

第一九六号

住電第一九四号ニ関シ八月五日ノ会合ニテハ主トシテ米國政府ヨリ派遣セラレ墨斯哥各派ノ間ニ住復シタル Paul Fullerノ実況説明ニ時間ヲ費ヤシ何等纏マリタル議事ナカリシトノコトナリ明日モ会合ヲ続行ノ答諸新聞紙中 Carranza 派承認運動ヲ努メ居レルニ付或ハ今回ノ會議ニ於テ一案トシテ上サルベシト報スルモノアレトモ多クハ Madero 時代ノ司法大臣 Manuel Vasquez Tagle 若クハ Eduardo Iturbide 仮大統領説ヲ伝ヘ居リ

三七一 八月七日 在米國珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

米國政府ト南米大公使トノ秘密会合ニ関シ続

報ノ件

第一九七号

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三六八 三六九 三六九

Veracruz 墨都間ノ鉄道交通保障墨都飢餓救済問題ナルベク併カモ之ニ関シ積極行動ニ出ツルヤ否ヤハ先週来ノ國務長官ノ交渉ニ対スル Carranza Villa Zapata 各派ノ態度如何ニ係レリトセリ八月三日迄ノ諸新聞報道中ニハ場合ニ依リテハ合衆國ハ右鉄道ノ武力占領ヲモ辞セザルノ決心ニテ之ニ関シ重立チタル南米諸國ノ少クトモ道義的協力ヲ希望スベク尚仮大統領(成ルベクハ Madero 大統領時代ノ内閣員中ヨリ)ヲ選定シ各派ノ妥協延テ墨國ノ鎮定ヲ計ラントノ調停案ヲモ右会合ニ於テ議スベシト報ズルモノアリ安達済ミ

三六九 八月四日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

カランサ軍首都ヲ再占領ノ件

第三八号

七月十一日当府ヲ占領セル「カランサ」軍ハ北方「ヴィーヤ」軍ノ圧迫ヲ受ケ同十八日一旦当地ヲ退去セシカ再近郊ニ来リ兩三日前ヨリ烈シキ市街戦アリタル後八月二日当府ヲ占領セリ「カランサ」政府ノ為ニ遮断セラレタル電信ハ

八月六日會議ノ内容蔽ニ秘密ニ附セラレ居リ探知シ難キモ「カランサ」政府承認問題ニ関シ激論アリタルモノノ如ク兎モ角參列ノ南中米諸國代表者等各自本國政府ニ稟電シ其回訓ヲ待チ追テ紐育ニ於テ會議続行期日ヲ國務長官ニ於テ定ムヘキ了解ノ下ニ散会セリトノコトナリ大体ニ於テ「カランサ」ニ対シABC各大使ハ反對「グアテマラ」外公使連ハ贊成ノ態度ニ出テ居ル由ナリ尚八月六日參謀總長 General Scott 突然当地出發米墨境界方面ニ向ヘリ同將軍ハ元ト自ラ墨西哥各派間ニ斡旋時局平定ノ任ニ當リタシト志望ヲ懷抱セルモノナル処此ノ意見ハ一先斥ケラレ単ニ境界附近ニ在リテ形勢注視ノ内命ヲ帶ヒ出發セルナリト云

ベリ

安達済ミ

三七二 八月七日 在墨國安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

「ヴェラクルス」ト汽車開通並カランサ入京

ノ件

第三九号

「ヴェラクルス」トノ汽車開通ス「カランサ」来ル二十日

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三七三 三七四  
入京ノ答

三七三 八月九日 在墨国安達公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

米國ノ對墨政策ニ関シ情報報告ノ件

第四〇号

伯刺西爾國公使ハ昨年四月以來米國ノ利益ヲ代表セシカ米  
國政府ハ從來墨國ニ関シ何等方針ナク今回米國國務省ノ催  
サレシ米大陸大使會議ノ如キモ全ク世人ヲ欺瞞セントス  
ル滑稽劇ニ過キサル旨在米國伯刺西爾國大使ヨリ密電アリ  
當國內乱ノ停止全ク見込ナク米國政府ノ同公使ニ對スル仕  
打ニモ甚タ面目カラサル処アリ憤懣ノ際其墨國側殊ニ「カ  
ランサ」派ニ對スル位地追々困難ヲ極メ來タルニ付予テ伯  
刺西爾國政府ヨリ受ケ居ル賜暇帰朝許可ヲ利用シ米國政府  
ノ同意ヲ求ムル手續ヲナサズシテ速ニ出發歸國ニ決定シ養  
病出發ノ旨ヲ公表シタリ「グアテマラ」公使ハ Persona  
non grata トシテ二十四時間以内ニ當地ヲ引揚ケ「ヴェ  
ラクルズ」ヨリ速ニ立退ク命令ヲ「カランサ」ヨリ八月七  
日通知アリタリ

三七四 八月十五日 在米國珍田大使ヨリ  
大隈兼任外務大臣宛(電報)

三七五 八月二十日 在墨国安達公使ヨリ  
大隈兼任外務大臣宛

カランサ派政府ト外交団トノ關係ニ関シ報告

ノ件

政公第六〇号

(十月四日接受)

大正四年八月二十日

在墨國

特命全權公使 法学博士 安達 峯 一郎 (印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

由來「カランサ」派政府ハ會議派政府ト異ナリ是迄當國駐  
割ノ外交官ニ對スル待遇ニ就キ特種ノ意見ヲ抱持シ同派ノ  
當府占領毎ニ同派政府ト外交団トノ間ニ紛擾爭議ヲ生ズル  
ヲ常トシ現ニ昨年八月憲政軍當府ニ入ルト共ニ英國公使ノ  
放逐トナリ次テ白國公使同政府ト事ヲ構ヘテ放逐セラレ本  
年一月下旬以來三月上旬ニ至ル迄同派政府占領中ハ外交団  
中外交官全部撤退ノ議スラモ唱道セラレ且ツ西國公使放逐  
セラレタル事實有之候此等ノ顛末ニ関シテハ既ニ逐次拙信  
又ハ拙電ヲ以テ及具報置候処今次八月上旬同派ガ再び會議  
派政府ニ代リテ當府ヲ占領セル以來又モヤ八月八日付往電

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三七五

六二二

米國政府ハ墨國各派首領ニ對スル時局收拾ノ勸  
告書ヲ公表ノ件

第二〇四号

米國政府ハ國務長官米國駐在伯亞智各大使 Bolivia Uru-  
guay Guatemala 各公使連署ニテ墨國各派首領等ニ宛  
テ發送シタル勸告書ヲ墨國民ニ對スル布告ノ形式ニテ八月  
十四日公表シタリ右署名者ハ各個獨立而カモ相一致シテ勸  
告ヲナス旨ヲ述ヘタル後墨國ニ於ケル戰鬪行為ヲ指揮シ居  
ル所ノ政治上又ハ軍事上ノ首領殊カ自身參列スルカ又ハ代  
表者ヲ派遣シテ會合ヲ催シ仮政府建設方ニ関シ協議ヲ遂ケ  
以テ憲法政治再興ニ必要ナル手段ヲ講シ特ニ其第一着手ト  
シテ総選舉ヲ行フヘキ事ヲ勸告シ會合ノ場所ハ交戰地域ヨ  
リ遠サカリタル墨國內ノ然ルヘキ場所ヲ選ヒテ之ヲ中立地  
トナス可ク又右會合ノ場所時日及其他ノ点ニ関シ墨國側ニ  
テ希望スルナラハ署名者ハ仲介ノ勞ヲ執ル事ヲ辞セサル旨  
ヲ伝ヘ最後ニ延期ヲ要スル事情無キ限りハ勸告書交付後十  
日以内ニ之ニ對スル回答ヲ期待スト述ヘ居レリ  
安達 濟

第四〇号ノ通りノ出來事ヲ生ジ候右最近ノ出來事ニ関シ詳  
細ノ事情左ニ報告差進候間御査閱相成度候

一、「グワテマラ」國公使放逐

「グワテマラ」國公使ハ昨年八月憲政軍入府當時英國公使  
ニ次デ放逐セラレベシト專ラ囑セラレタル人ニシテ當時  
「カランサ」派革命軍トノ折合面白カラザリシハ同公使自  
身モ認メ居レル処ナリシモ爾來右ノ噂ハ遂ニ實現ニ至ラズ  
本年三月「オブレゴン」將軍當府占領時代ハ外交団長トシ  
テ同將軍等ト諸般ノ交渉ヲナシタルコトアリ同公使ト「カ  
ランサ」派政府トノ關係ハ親善ニ近ケルモノト自ラモ任ジ  
人モ許シ居リタルニ今次同派ノ當府占領後數日忽チ「カラ  
ンサ」將軍ヨリ何等ノ理由ヲモ示サズ二十四時間内ニ當府  
ヲ立退キ「ヴェラクルズ」港ヨリ最近便船ニテ當國ヲ出ヅ  
ベシトノ電命ニ接シタルハ同公使ハ素ヨリ一般同僚等ノ意  
外トスル所ナリキ然ルニ同公使當府出發後探聞シタル処ニ  
依レバ「カランサ」將軍ガ急遽同公使ニ立退ヲ強請セシ理  
由ハ數月來「グエテマラ」國ニアル旧「ウエルタ」党ノ軍  
人等同國々境ヨリ墨國「チャパス」州ニ侵入シ「テワンテ  
ペック」鐵道占領ノ目的ヲ以テ猶國境附近ニ乱ヲ企テツツ

六二三

アル事実ヲ同公使ハ熟知シツツアル証拠アルニ拘ハラズ何等「グワテマラ」国ノ中立ヲ維持スベキ措置ヲ執ラザリシヲ怨ムニ基クト云フサレバニヤ同公使当府出發ノ際ノ如キ待遇甚ダ残酷ヲ極メ出發ノ日定刻前即午前五時武装セル軍人数名自動車ニテ同公使館ニ至リ是非定刻前停車場ニ同行シテ赴クベキヲ強要シ普通列車特ニ當時旅客輻輳セル一等車ニ乗車セシメ同公使ハ混雜ノ為メ夫人令嬢ヲ同伴スルノ座席ナク夫人令嬢ヲ残シテ出發スルノ已ムナキニ至レリト云フ

## 二、伯国公使ノ急遽出發

伯国公使ハ予テ本国政府ヨリ賜暇帰朝ノ許可ヲ受ケ居リタルモ昨年四月来米米政府ノ依囑ヲ受ケテ在墨米国人ノ利益保護ノ任ニ当リ米米政府对墨国革命各派トノ交渉モ専ラ同公使ヲ經由シテ行ハレ居リシヲ以テ同公使ノ帰朝ハ米米政府トノ關係上急ニ取計難カルベシトハ同公使モ之ヲ同僚ニ告ゲ居リ人亦之ヲ信ジ居リシ次第ナリ然ルニ同公使ハ八月七日ニ至リ突如トシテ新聞紙上其養痾出發ノ旨公表シ急遽旅装ヲ整ヘ八月十日「カランサ」派政府ヨリ供セル特別列車ニテ家族並ビニ伯国公使館書記官ヲ同伴シ同公使館殘務

ヲ同国副領事ニ依托シ当府ヲ出發シ去レリ同公使カ而ク急遽出發ニ決定セル理由ニ関シテハ八月八日付往電第四〇号記載ノ通り米米政府ノ對墨政策並ビニ同公使ニ對スル仕打ニ不滿ナルノミナラズ最近「カランサ」派ハ素ヨリ會議派ニ對シテモ甚ダ困難ナル位置ニ立ツニ至レルヨリ何等米米政府トノ打合ヲ了セズ新聞紙上ニ出發ノ旨ヲ先ツ公表シ米政府ヨリノ引留運動ヲ予防シタルハ同公使ガ親シク本使等ニ内話セル処ナリ然レドモ同公使出發後各方面ヲ探聞シタルニ同公使急遽出發ノ事情ニ関シテハ前記ノ外猶墨府在留米国人ヨリ同公使ノ措置ニ関シ種々ノ怨声不平ヲ聞キ折合宜シカラザリシコト並ビニ数日前米米赤十字社ノ在墨窮民救助事業ニ當ラントテ来墨セル駐墨米米國總領事「シャソクリン」ト事務分掌ニ関シ意見衝突シ同總領事ハ当地ニ在ル僅カニ数旬ニシテ帰国シタルコト等ヲ挙グルモノアリサレド此等ハ同公使ノ帰思ヲ増セルモノト見ルノ外急遽出發ノ真相ヲ尽セルモノニアラザルモノノ如ク猶確聞スル所ニ依レバ「カランサ」將軍ハ同派軍隊當府占領後在「ヴェエラクルズ」米米國領事ニ對シ同公使放逐ノ意嚮ヲ洩シ右米米國領事ハ同公使ニ秘密ニ急電シテ之ヲ牒知セルヨリ同公使ハ前

記ノ如ク急遽出發ニ決セル次第ナリト云フ「カランサ」將軍ハ八月十日付ヲ以テ伯国外務大臣ニ對シ米米國國務卿主權ノ今次ノ米米國南米諸國代表者ノ墨國問題會議ニ抗議スルニ當リ特ニ駐墨伯国公使ヲ指摘シテ墨國ニ最モ害ヲ与ヘタル一人ナリトシ更ニ今日墨國ノ紛糾セル時局ヲ招致セルハ伯国公使与テ責任アリト攻撃セルヲ見ルモ「カランサ」派政府ガ伯国公使ニ對シ惡感情ヲ懷ケルハ蔽フベカラザル事実ナリサレバ伯国公使ノ急遽出發ノ真相モ「カランサ」將軍ヨリノ放逐ヲ受クルノ不態裁ヲ防グ為メニアリシコト明白ナルモノノ如シ

## 三、外交事務担任者任命通知ニ関スル「カランサ」派ノ主張

八月十三日ニ至リ当府軍政ノ実権者タル憲政軍東部軍団長「パブロ、ゴンサレス」將軍ハ八月十一日付ヲ以テ本使ニ書ヲ寄セテ曰ク「カランサ」將軍ノ命ニヨリ憲政軍政府外務省ノ墨府ニ於ケル代表者トシテ「クツトベルト、イダルゴ」ヲ任命シタルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有ス今後外務省事務ハ凡テ同人ト交渉アリタシ云々依テ本使ハ八月十四日付ヲ以テ同將軍ニ對シ来書ヲ領謝スル旨回答シオキ

タリ然ルニ前記當府ニ於ケル外交代表者任命ノ通知ヲ受ケシモノハ本使ノ外單ニ白耳義國代理公使智利國代理公使ノ三者ニ過ギズシテ他諸国外交官ハ全ク「カランサ」派政府ニ度外視セラレタル觀アリ茲ニ於テ通知ヲ受ケザル諸外交官ノ憤慨トナリ白耳義國代理公使ハ他外交官ノ依頼ニ依リ前記外交代理者ヲ訪問シ其理由ヲ質シタルニ同代表者ノ答弁ハ大要左ノ如シ

憲政軍政府ハ當府ニ從來ヨリ駐劄セル諸外国外交官ト實際スル必要ヲ認メズ何トナレバ諸外国ハ未ダ憲政軍政府ヲ承認セザルヲ以テナリ但シ白耳義國ハ歐洲大強國ノ侵略ヲ受ケツツモ猶獨立ノ為メ勇敢ニ抗戦シツツアル同情ト尊敬トヲ値スル國ナリ嘗テ同國公使ヲ放逐シタルハ全ク同公使個人ノ事件ニシテ何等同國及同國民ト關係ナシ次ニ智利國ハ嘗テ當國ニ駐劄セル同國公使ガ「ウエルタ」ノ篡奪行為ヲ視テ決然當國ノ任ヲ棄テ歐洲ニ去レル歴史アリ加之同國ハ「カランサ」派嘗テ當府ニ在リシ時代ニ代理公使ヲ任命シ「カランサ」政府承認ノ準備行為ニ等シキコトヲナセル國ナリ而シテ日本國ハ墨國民上下ノ信賴同情スル東亞ノ大國ニシテ同國公使ハ是迄「ウエルタ」

政府トノ關係上種々ノ誤解伝ハレル人ナルモ今日ニ至リ  
同公使ノ當時ノ行動ニ何等右誤解ヲ惹起スルニ足ル根拠  
ナキコトヲ了解セルカ故一層信頼同情ヲ傾倒スル次第ナ  
リ故ニ前三国代表者ニノミハ特ニ之ヲ通告シ今後ノ交際  
ヲ依頼セシノミ云々

茲ニ於テ通知洩レノ諸外交官ハ最寄協議シテ善後策ヲ協議  
シ硬軟両説起リシガ如キモ今日ノ処伊国公使埃国公使等ハ  
病氣引籠勝チニシテ外交団長仏国公使亦其ノ一身上ノ事情  
硬論ヲ提ゲテ「カランサ」政府ト挑戦スルヲ許サズ遂ニ各  
々本国政府ニ書信ニテ請訓ヲ乞ヒ然ル後再ビ善後策ヲ計ル  
ベシト決シタリト云フサレバ本件モ結局泣寝入ト見ルノ外  
ナク「カランサ」派ノ当府占領モ何日迄継続スルヤ判明セ  
ザル今日ナレバ同問題モ時ト共ニ解決セラルベシトノ軟論  
勝ヲ占メタリト思惟セラル

#### 四、「カランサ」派政府ト承認問題

「カランサ」政府ノ予テ焦慮セル所ハ米國ヲ初メ諸外国ヨ  
リノ承認ヲ受クルニ在リ当府ニアル「バプロ、ゴンサレス」  
將軍ノ如キ米國ニシテ「カランサ」政府ヲ承認セバ墨國ノ  
平和ニケ月ニシテ成ルベシト公言シ新聞紙上ニ発表シツツ

agentヲ受クルヲ承諾シタリト云フ又茲ニ注目スベキハ独  
逸國政府ガ数月前ヨリ Von Eckhalt ナル者ヲ Agent  
officiel du Gouvernement d'Allemagne auprès du Gou-  
vernement Carranciste ナル名義ヲ以テ「カランサ」政  
府ノ下ニ駐劄セシメ居ル一事也

右 Von Eckhalt ナル者ハ昨年「ウエルタ」没落後当國駐  
劄獨逸公使「ヒンチエ」少將ノ後任者トシテ任命セラレタ  
ル墨國駐劄ノ獨逸國特命全權公使ナルガ当國ノ国情ニ鑑ミ  
赴任ヲ見合セ久シク紐育ニ止マリ本年一月下旬ニ至リ「ヴ  
エラクルズ」港ニ來着シ「カランサ」ニ虐待セラレ爾來其位  
置甚ダ曖昧ニシテ遂ニ当地獨逸國公使館ニモ來ラズ「ヴエ  
ラクルズ」ヨリ「オリサバ」市ニ來リテ同市ニ居住セル旨  
ヲ聞キシノミナリシガ今次「カランサ」派ノ当府占領ト共  
ニ交通回復シタルヨリ同方面ノ事情判明シ同氏ハ今ヤ公然  
前記ノ如キ性質ノ任務ヲ以テ「オリサバ」ニ駐マリ交渉事  
件アル毎ニ「ヴエラクルズ」ニ往來シツツアリト云フコレ  
獨逸國ガ特命全權公使ノ地位ヲ犠牲トシ「カランサ」派政  
府ノ承認慾ノ幾分ヲ満サシメツツアル一例トシテ觀ルヲ得

アル如キ以テ其一斑ヲ知ルニ足ルベク現ニ本日本使同將軍  
ト会見ノ際モ同様ノ事ヲ繰返シ帝國政府ニ対シ可然執成ヲ  
依頼スル旨ヲ陳述セリ其他前記ノ如ク「カランサ」派政府ノ  
外交団ニ対スル態度モ要スルニ同政府ヲ承認セザル外交官  
ヲ認ムル必要ナシトノ思想ニ基クモノト云フヲ得ベシ前記  
外交代表者「イダルゴ」ガ本使ニ語レル処ニ依レバ憲政軍  
政府ガ米國ヨリノ承認ヲ希望スルハ素ヨリナルモ米國以外  
ノ國トシテハ先ヅ西班牙國ノ承認ヲ得ルコトニ着眼シ其承  
認ヲ得ル手段トシテハ西國民ヲ虐待シ西國政府トシテハ已  
ムナク「カランサ」派政府ノ下ニ代表者ヲ送ラシメント計画  
シ同政府ハ事アル毎ニ西國居留民ヲ迫害シツツアリ而シテ  
當府ニアリシ西國公使ヲ事ニ托シテ放逐シタル如キモ此政  
策ノ發現ナリトノ口吻ヲ洩ラシ居レリ現ニ西班牙國政府モ  
亦多數同國居留民ノ利益保護ノ必要上數月前ニ至リ Con-  
fidential agentヲ「カランサ」派政府ノ下ニ送リタルニ同  
政府ハ西國政府カ「ヴィーヤ」派ノ下ニモ同一性質ノ代表  
者ヲ送ルノ意アリトセバ該 Confidential agentヲ受クル  
能ハズト脅シタルニ西國政府ハ「ヴィーヤ」派ニハ同様ノ  
官吏ヲ送ラザル旨ヲ聲明セルヨリ遂ニ該 Confidential

ベキカ

右及具報候 敬具

三七六 八月二十六日 在米國珍田大使ヨリ  
大隈兼任外務大臣宛

在墨國「チワワ」市及「ファレス」市日本人代  
表者ヨリ在留邦人ノ生命財産保護方陳情ノ件  
公第二三九号 (九月二十一日接受)

大正四年八月二十六日

在米特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

墨國「チワワ」市附近ニ於ケル在留本邦人生命財産保護方  
ニ関シ日本人代表者ヨリ別紙寫ノ通り當館ヘ陳情致來リ候  
間依例右寫茲ニ及御送候 敬具

本信送付先

外務大臣 在墨國安達公使

(別紙)

謹ンデ當墨國北部「チワワ」市ヲ中心トシ其附近ノ混亂地  
域ニ於ケル在留同胞ニ対スル官憲ノ迫害ノ慘状ヲ左ニ陳シ  
吾人カ生命財産ヲ保護スルニ今後如何ナル行動ヲ執ルヘキ

敷ニ付御訓示ヲ仰ギ度奉願候

(一) 去ル七月下旬当地方革命軍首領「フランシスコ、ビーヤ」將軍「チワワ」市ニ帰來セラレ同市大小商店主一同ヲ召集シ敵命シテ曰ク曩ニ細民救助法トシテ商品ヲ出来得ル限り廉価ニ販売セシコトヲ訓示セリ然ルニ何ソヤ物価ハ暴騰シテ従前ノ数倍ニ達ス一般貧民ノ苦痛ハ不知顔シテ暴利ヲ貪ルコト言語ニ絶ス必ス嚴刑ニ処スベシ汝等商人ハ金銀貨ヲ攫集シテ現政府發行ノ軍票ノ価ヲ低下セシム金銀貨ヲ以テ商取引ヲ望ムナレバ速ニ国境外ニ退去スベシ何時ナリトモ鐵路国境外ニ送り出サン途中時日ヲ費スモ食物ヲ給セズ貧民ガ食料ヲ得ルノ苦痛ト飢餓ニ迫ルノ窮狀ヲ實驗セシムベシト憤然トシテ退席セラル滿堂愴然トシテ一咳ヲ発スルナシ憂懼ニ沈ミツツアリシトキ秘書官「シルベストルテラサス」出席諸外国人商人ヲ別室ニ集合セシメ汝等ハ今ヨリ二十四時間以内ニ各自商品目錄ヲ作製シテ提出セヨ分秒時ノ遅延ヲ許サズ又隱匿品ヲ発見スルトキハ嚴刑ニ処ストテ解放セラル墨国商人ハ全部投獄シテ其財産ハ没収セラル此内墨国人六名支那人二名ハ銃殺ノ嚴刑ヲ受ク

「チワワ」市在留邦人三十有余ノ商業經營者ハ即時商品目

商店日之出ニテ豆若干ヲ米貨ニテ販売セシトノ故ヲ以テ拘禁セラレ翌日一ツノ取調モ裁判モナク九十日間ノ禁錮カ墨金貨二百「ペソス」墨金貨ナクハ米貨一百弗ノ罰金ヲ科ス八日午前木村某ハ豚脂ノ粗悪品ヲ販売セシトテ日之出ト同罪ニ処ス伊東某ハ軍票ヲ顧客ヨリ受取りテ破壊シタリトノ理由ニヨリ軍票一百「ペソス」罰金ヲ科セラル以上ノ如ク圧抑政治下ニテ不服ヲ訴フル途モナク事實ヲ弁護セントセバ一言ヲ受理セズ抗告ガマシキ事申上銃殺ノ極刑ニ処セラルルハ常ニ見ル処ニ候

因ニ誌ス憲政軍政府發行ノ軍票ハ米貨トノ交換率日ニ日ニ暴落シ軍票一「ペソス」ハ米貨ノ僅カニ一仙ヨリ一仙 $\frac{1}{2}$ ノ間ニアリ從來ノ墨金銀貨ハ流通ヲ禁止セラレ市場ニ見ルコトナシ軍票ヲ米貨トセンカ米貨一百弗ハ軍票一万「ペソス」ニ当ル

右ハ「チワワ」及「フアレス」市ノ現況ノ概要ニ有之候

以上兩市ニ於ル商業經營者約五十戸ノ同胞ハ創業以來數年間拮据經營ニ勉メ漸ク萌芽ヲ見ントセシニ根底ハ覆サレ殆ト水泡ニ属セシ境遇ニ立至リ候

何卒至急貴館員ノ御特派ヲ煩ハシ現況御熟察ノ上応急ノ保

録ヲ製シテ提出シタルモ其内木山某ナルモノ折柄他出中ニテ急使ニヨリ帰店シテ商品目錄ヲ作り別ニ遅延理由書ヲ添ヘ届出テ受理セラレシモ翌朝ニ至リ財産全部ヲ押収セラル又林某ハ其妻女カ一小函ヲ携ヘテ家ヲ出テントセシヲ見出サレ函中ノ在金六百余ペソスヲ押収セラル基其ノ商店ハ目錄ト現品ト敵酷ナル引合セ検査ヲナシ些々タル相違モ隱匿罪ニ問ハレ其後ニ到底元価ニモ及バザル最低度ノ物価表ヲ制定シテ発売ヲ命セラル開店同時ニ群聚蠅集シテ一二日乃至三五日ニシテ商品ヲ売尽シ自個ノ糧食ヲ得ルノ途ナキニ至レリ茲數日内ニ全市ノ食糧ハ皆無トナルハ火ヲ觀ルヨリモ明ナリ左スレバ「チワワ」市ノ邦人ハ勢ヒ当「フアレス」市ニ避難シ來ルコトハ必然ノコトト存候

(二) 「フアレス」市現況

「フランシスコ、ビーヤ」將軍ハ八月四日「チワワ」市ヨリ当市ニ來ラル折柄合衆国国境守備司令官「スコット」將軍ト会见ノ約アリ滯市中ナルモ凡テニ権力万能ヲ發揮セラルルト「チワワ」市ノ慘狀ハ既ニ当市ニ伝ハリ居ルコトトテ人心戰々惴々トシテ何時如何ナル災禍ノ吾人頭上ニ墜落スルヤ不計ト只時日ノ經過ニ委シツツアリシニ七日夕邦人

護ヲ仰ギ度首府公使館ヘ具申致度モ目下交通不備徒ニ時日ヲ空過スルノミニ候間貴館ニ哀願スル次第ニ候 頓首  
千九百十五年八月八日

墨国チワワ市日本人代表者

川北八十喜

同フアレス市日本人代表者

土屋秀吉

合衆国ワシントン駐劄

珍田大使閣下

三七七 九月二十日 在米国珍田大使ヨリ  
大隈兼任外務大臣宛(電報)

米国國務長官及中南米六箇国大公使ハ事實上ノ政府承認ノ外ナキ旨本国政府ヘ上申ニ決定

ノ件

第二一九号

往電第二〇四号ニ関シ九月十八日國務長官及南中米六国大公使等会合ノ結果トシテ仮政府樹立ノ議不可能トナリタルニ付テハ最早事實上ノ政府ヲ承認スルノ外ナキ時期到來セリトノ意見ニ一致シ其旨各本国政府ニ上申スルコトニ決セ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三七八 三七九 三八〇 三八一

六二〇

リ但シ承認自体及其時期等ハ各国政府独立シテ決定スヘシトノコトヲ發表セリ尚十月九日会合続行ノ答

~~~~~

三七八 十月十日 在米田珍田大使ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

カランサ政府ノ事実上ノ承認ニ関シ七箇国代

表者會議決議ノ件

第二三二号

國務長官及拉典亞米利加六ヶ国ノ代表者ハ十月九日墨西哥ニ関スル第四回會議ヲ國務省ニ於テ開催シ「カランサ」ヨリ内外人ノ生命財産宗教的避難民大赦及憲法上并法律上ノ秩序回復ニ関スル将来ノ保障ヲ取り付ケタル上「カランサ」政府ヲ以テ承認ノ要素ヲ具備スル所ノ唯一ノ事実上ノ政府タルヲ認メ其旨各々本国政府ニ報告スル事ニ決議セリ承認ハ不日各国個別ニ之ヲ与フルニ至ルヘク其他ノ拉典亞米利加諸国モ右決議ニ対シ既ニ同意ヲ洩ラシタリト云フ

~~~~~

三七九 十月十二日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ  
大隈兼任外務大臣宛(電報)

米国大統領不日墨国事実上ノ政府ヲ承認スル

旨紐育來電ノ件

米国及中南米諸国カランサ政府ヲ事実上承認

ノ件

第二三五号

往電第二三三三号ニ関シ米国及同電記載ノ六国并「コロンビヤ」及「ニカラグア」ハ十月十九日「カランサ」政府ヲ承認シタリ國務長官ヨリ Arredondo ニ送リタル同日附公文内容左ノ如シ

本官ハ米国大統領カ General Venustiano Carranza ノ行政首長タル墨国ノ事実的政府ヲ此機ニ於テ承認セラレタル旨ヲ貴官ニ通告スルヲ欣快トス

米国政府ハ General Carranza ノ都合次第任命セララルヘキ其外交代表者ヲ正式ニ華盛頓ニ於テ接受セン事ヲ欲シ米國ハ相互的ニ大統領カ其代表者ヲ任命次第墨国ノ事實的政府ノ下ニ之ヲ駐劄セシム可シ本官ハ貴官カ可成速ニ本件ヲ General Carranza ニ通報セラレン事ヲ希望ス

岩崎濟ミ

~~~~~  
三八二 十月二十一日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ將軍ノ北部巡回及代議員大統領ノ選

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三八二 三八三

第四五号

紐育來電ニ依レハ米国大統領ハ十月九日ノ決議ヲ是認シ南米諸国ノ回答ヲ俟テ不日 de facto 政府承認ヲ為ス答ニテ歐洲諸国ト同様承認ヲ為スヘシトアリ

~~~~~

三八〇 十月十九日 在米田珍田大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

米国及中南米六個国ハカランサ政府ノ事実上

ノ承認決定及通告ノ件

第二三三号

十八日ノ會議ニ於テ米国國務長官及亞爾然丁伯刺西爾智利「ポリビア」「ウルゲー」「グアテマラ」各代表者ハ各其ノ本国政府ノ訓令ニ基キ今十九日ヲ以テ「カランサ」ノ事實的政府ヲ承認スルコトニ決定シタリ承認方法ハ前記各国政府ヨリ別々ニ在華府「カランサ」代表者 Arredondo ニ宛タル公文ヲ以テ承認ノ旨ヲ今日通告スル趣ナリ

岩崎ヘ濟ミ

~~~~~

三八一 十月二十日 在米田珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

挙ニ関スル意見報告ノ件

第四八号

General Carranza ハ北部巡回中ニテ到ル所大歡迎ヲ受ケ居レリ其ノ意見ニ依レハ彼ハ引続キ行政府首長タルヘク国内平和全ク克復スルヲ俟チ市會議員代議員ノ選挙ヲ行ヒ然ル後大統領ノ選挙ヲ行フ積リナルカ秩序ノ回復スル迄ニハ今後尚一ケ年ヲ要スヘシトノ由

~~~~~

三八三 十月二十一日 在米田珍田大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

米国大統領同国ヨリ墨国ニ軍器彈藥輸出禁止

ノ旨布告ノ件

第二三七号

大統領ハ米国ヨリ軍器彈藥ヲ墨国ニ輸出スルコトヲ禁止スル旨十月十九日附ヲ以テ布告シ同時ニ右布告ハ「カランサ」政府ノ支配ノ及ハサル Chihuahua, Sanara 及 Lower California ノ国境及諸港ニ限り之ヲ適用スヘキ旨ヲ大蔵長官ニ訓令シタリ

岩崎濟ミ

~~~~~

六二一

三八四 十月二十二日 在墨國岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

墨国革命動乱終結並力ランサ政府事実上承認

二閱スル件

政公第八六号

(十一月二十六日接受)

大正四年十月二十二日

在墨

臨時代理公使 岩 崎 三 雄 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本年六月四日米国大統領ハ墨国革命各派首領ニ書ヲ寄セテ
平和勸告ヲ為シ米国ハ友邦トシテ其革命ノ慘禍ヲ默視スル
能ハサルニヨリ若シ短時日内ニ之ヲ容レサルニ於テハ米国
政府ハ已ムヲ得ス其適當ト認ムル措置ヲ執ルニ至ルヘント
告ケタリ此警告ハ大ニ世人ノ注意ヲ惹起シ結局米国ノ武力
干涉ヲ見ルニ至ルヘント期待セル者多カリシガ遂ニ米国大
統領ノ宣言何等ノ効果ヲ見スシテ終リ「カランサ」派及会
議派ノ争鬭ハ益々激シク当首府ハ争奪ノ中心トナリ最後ニ
市街戦ヲ見ルニ至リシカハ世人ハ米国大統領ノ宣言ニ痛ク
失望シ到底米国政府ハ墨国ノ救済ニ関シ何等ノ誠意ナシト

絶叫スルニ至レリ然ルニ八月五日ニ至リ米国々務長官ハ南
中米諸共和国ノ大公使ト非公式ニ会合シ墨国時局救済問題
ヲ議シ同月十四日連署ヲ以テ再ヒ各派首領ニ向テ此等ノ者
主權ノ下ニ墨国中立地点ニ会合シ妥協ヲ遂クヘキ旨ノ勸告
ヲナシ其回答ヲ十日間ト限リシモ当地人ハ米国政府ノ真意
ヲ疑ヒ或ハ之レ米国市民ノ非難攻撃ヲ避ケントスル資ニ供
スルニアラスヤト推察シ深ク此會議ニ重キヲ置ク者ナカリ
キ而シテ會議派ノ首領タル「ヴキーア」「サパタ」兩將軍ハ
此勸告ニ応シ其代表ヲ派シテ協商ヲ為サントノ意ナリシモ
「カランサ」將軍ハ自己ヲ以テ正統ナル革命首領ト看做シ
且ツ墨国ノ大部分ハ已ニ憲政軍ノ配下ニ在リ遠カラス全国
ヲ平定スルニ至ルヘキヲ以テ外國政府ノ主唱ニ依リ他ノ革
命派ト協商スルノ必要ナキヲ認メ該會議ニ参加セル拉丁亞
米利加共和国ノ大統領ニ向テ米国政府ト協同シテ墨国ノ内
事ニ容喙スルカ如キハ他日干涉ノ先例ヲ開キ各自共和国相
互ノ關係ニモ累ヲ貽スモノナルニヨリ絶對ニ忌避スヘキモ
ノナル旨ヲ警告シ八月廿五日ニ至リ在華府拉丁米大陸諸國
ノ代表者ニ右平和勸告書ハ各署名者所屬政府ノ訓令ニ基ケ
ルモノナリヤ或ハ又署名者一己人ノ資格ニ依ルモノナリヤ

ヲ質問セリ超エテ九月十日ニ至リ彼ハ外務大臣代理ヲシテ
長文ノ回答書ヲ米国國務長官并ニ各代表者ニ發送セシメタ
リ其大要ニ曰ク外國政府ノ干涉又ハ主動ニ依リ国内ノ事務
ヲ処理スルハ國家主權ヲ尊重スル主義ニ悖ル墨国共和国内
ノ各派相会合シテ平和ヲ克復スヘントノ閣下等ノ提議ハ大
ニ國家ノ獨立ヲ侵害シ他日ノ惡先例ヲ作ルモノナルヲ以テ
我政府ハ墨国及ヒ他ノ拉丁亞米利加諸國ノ主權ノ正当防衛
上此提議ヲ容ルル能ハス今ヤ「カランサ」將軍ハ憲政軍ヲ
率ヒテ国内統一ノ任ニ當リ已ニ其大半ヲ鎮定シ唯僅ニ「チ
ワワ」州「ソノラ」州ノ小部分及ヒ「モレロス」州ノ中央
部ヲ殘スノミニテ久シカラスシテ全国ノ平定ヲ見ルヤ必セ
リ然ルニ「カランサ」ニ取リテハ此等敗余ノ者ト会合シ和
ヲ講スルハ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ取メ得タル戦捷ノ効果ト彼
ガ行政府首長官タル位地ヲ抛擲スルモノニシテ衆望ニ背ク
ノ罪大ナリト云フヘシ故ヲ以テ「カランサ」ハ閣下等ノ政
府ガ墨国ノ平和克服ヲ冀フ誠実ト高潔ナル念慮トヲ認識ス
ルモ其勸告書中記載ノ条件ニ同意スル能ハサルヲ遺憾トス
乍併我墨国ト他亞米利加諸共和国トノ間ニ存在スル親睦ナ
ル友情ヲ表彰センガ為メ彼ノ軍隊ノ支配スル国境ノ都府ニ

於テ閣下若クハ其代表者ト会合スルハ彼ノ最モ希望スル所
ナリ其結果若シ閣下等ニ於テ我憲政軍政府ヲ以テ墨国ニ於
ケル実力アル政府トシ承認ヲ与フルニ適當ナルモノト認メ
ラル、トキハ速ニ本國政府ヲシテ承認アラシムル様尽力セ
ラレタシ之レ彼我政府及人民ノ親密ナル關係ヲ鞏固ニスル
唯一ノ道ナリト云ヘリ

此ノ如ク彼ハ傲然墨国主權ヲ楯ニシ該提議ヲ斥クルト同時
ニ自ラ進ンテ該代表者ニ会見ヲ申込ミ其政府ノ承認ヲ求メ
タリ之ヲ「ヴキーア」派ノ唯々諾々タルニ比スレハ墨国ノ
民心ヲ博スル上ニ於テ雲泥ノ差違ナリト雖モ亦一方ヨリ考
フレハ如何ニモ權勢ニ恋々トシテ已レヲ棄テテ國民ヲ塗炭
ノ厄ヨリ救フノ念ナキヲ表示スルモノニ似タリ但シ「ヴキ
ーア」ト雖モ決シテ愛國心アルニアラス所謂刀折レ力竭キ
窘迫ノ折柄該提議ヲ渡リニ舟トテ直チニ応シタルマデニテ
「カランサ」ト地ヲ代ユレハ或ハ同様ノ回答ヲナシタルナ
ラント思ハル拉丁亞米利加會議ハ其提議ヲ容ルル者ヲ援助
シ武器彈藥ノ供給ヲ与フル決議ヲナシタル由且ツ「ヴキー
ア」派ハ「アンヘレス」將軍「ゲエス、ロンバルド」等ヲ
華府ニ派遣シ盛シニ運動セシメタル趣ニテ米國政府ハ「ヴ

キーア」派ノ者ヲ推シテ仮大統領トナシ之ニ承認ヲ与フルナルヘシトハ一般ノ想像セシ所ナリキ當時「ヴキーア」派ハ勢力ヲ失墜シ到底「カランサ」ノ敵ニアラスト雖モ米政府ニシテ「カランサ」軍ヘ武器彈藥ノ供給ヲ嚴禁シ「ヴキーア」軍ニ之ヲ許スニ於テハ其地位ヲ顛倒スル掌ヲ反スガ如キヲ以テ「カランサ」同情者ハ窃ニ同氏ノ為ニ危ミシモ該會議ハ干涉ガマシキ行為ヲ敢テセサル事ニ決定セシモノト見ヘ九月十八日ニ至リ墨国ニ於テ内外人ノ生命財産ヲ保障スルニ足ル実力アル政府ヲ承認スル事ヲ決議シ更ニ十月九日ヲ期シテ再ヒ會議ヲ開キ其承認スヘキ政府ヲ決定スル旨ヲ宣言シ而シテ今後政変ナキ限リハ「カランサ」政府ヲ承認スルニ至ルヘシトノ紐育特電アリテ「カランサ」軍ハ意氣昇天ノ如ク其驍將「オブレゴン」ハ敵軍ヲ漸次北方ニ撃退シ九月二十九日ニハ「ヴキーア」ノ根拠地タル「トレオン」市ハ「カランサ」軍ノ手ニ陥リ「ヴキーア」ハ「チワワ」ニ退キタリトノ確報アリテ最早彼ハ再び当地ニ來襲スル能ハサル事明白トナレリ本年三四月ノ交ニ於テハ會議派ノ勢力強大ニシテ「カランサ」派カ当首府ニ永久的ニ居ヲ定ムル事ハ何人モ夢想セサリシ所ナリシガ四月中旬

「ヴキーア」對「オブレゴン」ノ「セラヤ」ニ於ケル戦争ハ実ニ兩派ノ運命ヲ決セシモノニシテ爾來「オブレゴン」ハ勝ニ乘シテ北方ヲ侵略セシナリ此敗因ハ「ヴキーア」其勇ヲ恃ミ其股肱ノ謀將「アンヘレス」將軍等ノ言ヲ容レス野猪的ニ突戦シタルモノニヨルトハ一般ノロニスル所ナリ「トレオン」陥落ノ報ト共ニ世人ハ尚ホ米政府ノ真意ヲ疑ヒ乍ラモ徒ラニ承認ノ日ノ近ケルヲ待受ケシガ十月九日紐育ニ開催セル拉丁米會議ハ「カランサ」政府ヲ事実上ノ政府ト認メ其承認方ヲ各本國政府ニ電報スル事ニ決議シタル旨ノ電報アリ次イテ十月十二日ニハ大統領「ウイルソン」氏ハ此決議ヲ是認シ他諸國ノ回答ヲ待テ正式ニ承認ノ手續ヲナスヘシトノ電報アリ而シテ十月十八日夜ニ至リ同會議ハ愈々「カランサ」政府ヲ承認スル決議ヲナシ翌十九日各國別々ニ在華府「カランサ」代表者ニ承認ノ公文ヲ送スヘシトノ公電到達シ午後九時半ヨリ寺鐘ノ響キト同時ニ大小砲拳銃等アラユル砲ヲ放チテ祝意ヲ表シ軍樂隊ハ国歌ヲ奏シテ市中ヲ徊行シ其騒キ翌午前一時ニ至リ翌十九日ハ引続キ樂隊學校生徒官吏職工及市民ノ団体隊ヲ組ミテ「パキシオ」前ニ至リ万歳ヲ唱ヘ又官吏及將校等ハ軍司令

官タル「パブロ、ゴンサレス」將軍ノ許ニ馳セテ祝辭ヲ述

右及報告候 敬具

三八五 十月二十四日

在本邦墨國公使館ヨリ
外務省宛

米國及中南米諸國カランサ政府ノ事實上承認

通知ノ件

(十月二十九日接受)

(訳文)

「カランサ」ハ已ニ其政府ヲ悉ク當首府ニ移シ彼ハ「タンピコ」「モントレイ」「サルチーヨ」「トレオン」諸市ヲ巡回シ至ル所熱誠ナル歡迎ヲ受ケ近ク当地ニ來ル由ナルガ去ル二十日發表セル意見ナリト云フヲ聞クニ已ニ電報セル如ク彼ハ引続キ行政府首長官トシテ其職ニ在ルヘク全國ノ平定ヲ待テ先ツ市會議員代議員ノ選舉ヲ行ヒ次テ大統領ノ選舉ヲナス意見ニシテ平和秩序ノ回復等再建設の事業ニ一ケ年ヲ要スヘク余ノ大統領候補者タルヤ否ヤハ余ノ知ル所ニアラズト云ヒシモ彼ハ墨國憲法ノ仮大統領ハ大統領候補者タルヲ得ストノ明文ニ拠リ始ヨリ仮大統領ノ名ヲ避ケ行政府首長官タル名義ヲ使用スルニ照シ考フレハ其野心満々タルハ推知スルニ難カラサルナリ

以書簡啓上致候陳者今回並米利加合衆國政府及ビ「アルゼンチン」「ウルグワイ」「ブラジル」智利「ボリビア」「コロンビア」「ニカラグワ」、「ガテマラ」各政府ハ墨西哥主權ヲ代表セル「ドン、ヴェタステイアーノ、カランサ」氏ノ統ル政府ヲ事実上ノ政府トシテ正式ニ承認セシ旨本國政府ヨリ通知有之候
承認ニ關シテハ墨西哥ニ深キ利益關係ヲ有スル北亞米利加合衆國及ビ其ノ他諸國ノ主唱ニ基ク可キ趣ヲ以テ前記諸國ノ承認無之間ハ大日本帝國政府ハ「カランサ」政府ヲ承認シ能ハサル旨口頭及貴省高官及墨西哥公使館書記官タル資格ヲ有セシ者ヲ介シテ本年五月当公使館ニ通知有之候ヘシモ既ニ「カランサ」政府ハ其ノ經濟上、政治上及近隣ノ関

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三八六 三八七 三八八

六二六

係ニヨツテ墨国々運及其ノ發展上至大ノ利害ヲ有スル北亜米利加合衆国及ビ他ノ八ヶ国ノ政府ニヨツテ承認相成リ候ニ付キテハ大日本帝國国民及墨西哥国民相互利福ノ為メ且ツハ兩國国民ヲ相結ブ不易ノ友情ノ為近ク大日本帝國トノ公ナル關係ヲ更ニ新ニスルコトヲ得ルヲ信スルモノニ候

敬具

大正四年十月廿四日

墨西哥公使館

大日本帝國外務省御中

註 各訳文ハ墨国公使館ニ於テ作成ノ上西班牙語ノ原文ニ添付
送付越シタルモノナリ但シ該原文ハ省略セリ

三八六 十月二十五日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府北中南米六国ノ承認ヲ得タル旨
通牒越ノ件

第五〇号

「カランサ」政府ハ米国、亜爾然丁、「ブラジル」、「コロ
ンビア」、「ウルグワイ」、「グアテマラ」ノ六ヶ国ヨリ承認
ヲ受ケタル旨公文ヲ以テ当館ニ通牒シ来レリ

三八七 十月二十六日

石井外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛(電報)

英國ハカランサ政府承認ノ意向有リヤ問合方
ノ件

第二八三号

米國政府及中南米五ヶ国政府ハ墨西哥「カランサ」政府ヲ
承認シタル趣ノ処責任國政府ニ於テハ同様此際「カランサ」
政府ヲ承認スル意嚮ヲ有スルヤ参考ノ為メ承知致度ニ付当
局ニ就キ御問合ノ上返電アリタシ

右訓令トシテ在露在仏在伊大使ニ転電アレ

三八八 十月二十七日

在英國井上大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英國ハカランサ政府ヲ事実上承認ノ意向ナル
旨外務当局内談ノ件

第四九〇号

貴電第二八三号ニ関シ外務省米國部長ノ内話ニ依レハ英國
政府ハ考量ノ末「カランサ」政府ヲ承認スルヲ以テ同國ニ
利アリト認メ米國政府ノ為シタルト同一ノ形式ニテ即チ
de facto トシテ之ヲ承認スルニ決シ時偶々在墨英國公使華

シ

盛頓ニアリシニ付数日前訓令ヲ同地ニ発シ同公使ヲシテ必
要ノ措置ヲ執ラシムルコトセルカ他方ニ於テ仏國政府ハ
本件ニ付同政府ヲ諸國ニ於テ共同措置ヲ欲セル為同公使ハ
未タ右ノ処置ニ出テサルヘシ目下ノ成行ハ右ノ通ナルカ本
件ハ英國政府ニ於テ未タ何等公表セサルニ付帝國政府ニ於
テモ秘密ニ附セラレタシトノコトナリ

三八九 十月二十七日

在伊國林大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

伊國ハカランサ政府承認ノ意向ナル件

第二一七号

(十月二十八日接受)

在英大使宛貴電第二八三号ニ関シ伊國政府ハ「カランサ」
政府承認ノ意向ヲ有シ在米大使ニ電報シ米國政府ト共ニ措
置スヘキ旨訓令シアル趣ナリ

三九〇 十月二十七日

在仏國田付臨時代理大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府承認ノ意向ニ付仏國外務次官談
話ノ件

第一〇九号

(十月二十九日接受)

在英大使宛貴電第二八三号外務次官ノ本官ニ語ル処左ノ如

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三八九 三九〇 三九一

三九一 十月二十八日

在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

列國カランサ政府承認ノ場合露國亦承認ノ旨
外務大臣談話ノ件

第一〇〇八号

(十月三十日接受)

在英大使宛貴電第二八三号ニ関シ外務大臣ハ墨西哥ニ対シ
差シタル利害ヲ有セサルヲ以テ列國ガ「カランサ」政府ヲ
承認スルニ於テハ露國モ亦之ヲ承認スヘント云ヘリ

六二七

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三九二 三九三 三九四

六二八

三九二 十一月三日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

外国ノ在墨國利益ニ付テハ該外國ノ正式代表
者ト直接交渉希望ノ旨墨國政府ヨリ米國ニ申
入ノ件

第二四六号 別電

十月二十八日附ヲ以テ國務長官ヨリ左ノ通照会アリ
墨國ニ於ケル日本ノ利益保護方は迄御申入ノ次第アリタル
処 de facto 墨國政府ハ今般在「トレオン」米國代表者ニ
對シ外國政府ノ利益ニ關スル事項ニ付テハ各其外國政府ノ
accredited 代表者ト交渉センコトヲ欲スル旨通牒シ越セ
ル趣同米國代表者ヨリ電報アリタリ
岩崎濟

三九三 十一月三日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本ノ在墨國利益保護ニ付テハ依然米國政府
ノ好意ニ待ツ必要アル旨珍田大使ヨリ米國
務長官ニ申入ノ件

第二四七号

別電第二四六号ニ關シ為念十一月三日國務長官ヲ往訪シ

其後今日迄當國政府ヲ承認セル國ハ智利瑞典獨逸玖馬ナリ

三九五 十一月二十五日 石井外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛(電報)

カラんサ政府承認問題ノ成行電報方訓令ノ件

第三二七号

住電第二八三号ニ關シ其ノ後ノ成行電報アリ度シ
右訓令トシテ在仏在伊大使ニ転電アレ

三九六 十一月二十六日 在仏國田付臨時代理大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

仏國ハ「カラんサ」ト保障問題ニ關シ協議中

ナル件

第二二一号 (十一月二十八日接受)

在英大使宛電第三二七号ニ關シ仏國政府ハ目下米國國境
附近ニ在ル「カラんサ」氏ノ許ニ人ヲ遣リ拙電第一〇九号
ニテ申進シタル保障ニ關シ數日來協議セシメツツアリテ未
タ同政府承認ノ運ニ至ラサル趣ナリ

三九七 十二月一日 在仏國田付臨時代理大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

仏國政府カラんサ政府承認ノ件

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 三九五 三九六 三九七 三九八

六二九

「メキシコ」ノ現状ニ顧ミルニ墨都及其ノ附近ヲ除キテハ
何等カノ事件發生シタル場合ニハ矢張是迄通り出来得ル限
リ各地駐在米國官憲ノ好意ニ待ツ様殊ニ Villa 軍配下地方
ニ於テ一層然ラサルヲ得サル所以ヲ話シタル処國務長官ハ
無論別電ノ通牒ハ從來ノ如キ取計ヲ謝絶スル趣旨ニハアラ
ス尤 Villa 軍配下地方ヨリハ既ニ米國領事ヲ撤退セシメタ
ルモ此ノ方面トテモ何等事件發生ノ場合ニハ出来得ル丈ノ
保護手段ハ講スヘシト答ヘタリ尚米國駐劄英仏兩國大使ハ
米國政府ノ例ニ倣ヒ「カラんサ」政府ト篤ト協議ノ上トナ
シ之レカ応諾ハ同政府ニ於テ從來ノ損害ニ對スル責任保証
ヲ与ヘタル時ニ於テスヘシトノ意見ヲ各本國政府ニ上申ス
ルト同時ニ一面「カラんサ」筋ノモノヲ經テ承認ノ意志ヲ
仄メカシツツ右保証取付ヲ試ミ居レル旨内話セリ御參考迄
申添ユ
岩崎濟

三九四 十一月二十三日 在墨國岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨國政府ヲ承認セシ國名報告ノ件

第五四号

第一二六号

住電第一二二一号ニ關シ仏國政府ハ十一月三十日在墨國仏國
公使ニ「カラんサ」政府承認方ヲ電訓セリ右承認通告文中
ニハ「カラんサ」政府ハ正義人道ヲ尊ヒ仏國民ノ權利資産
ヲ重シシ國際法ノ本義ニ遵ヒ從來ノ諸約束ヲ嚴守スヘキコ
トニ信賴シ云々ノ文句アル由ナリ

三九八 十二月二日 在伊國林大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

伊國ノ對墨國要求ニ關スル件

第二三九号 (十二月四日接受)

露都經由貴電第七三号ニ關シ伊國外務事務長官ノ語ル所ニ
依レハ墨西哥國カ米國ニ与ヘシト同一ノ待遇トハ墨西哥ニ
在留セル米國人カ墨西哥國政府ヨリ得ントスル賠償ト同一
情況ノ下ニアル伊國人ハ米國人ト同様之レヲ要求セント欲
スト云フニ在ル趣ナリ尚伊國カ米國政府ヲ經由セスシテ直
接承認ヲ与フルコトトセルハ「カラんサ」將軍カ米國經由
ノ形式ニ反對ヲ唱ヘタルニ依ルトノコトナリ

(露都經由十二月三日後四、一八第一一四四号)

三九九 十二月三日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府ノ聯合各国同時承認並条件二関
シ請訓ノ件

第五九号 大至急

今朝仏国公使承認ノ件ニ付米訪シタルニ付本官ハ一昨夜帰任シタル英國代理公使ヲ訪問セシニ同官ハ今夕承認ノ公文ヲ当国政府ニ送ラン為起草シ居リシニ付承認ノ訓令ハ何時受取りタリヤト尋ネタル処華盛頓出發前ト答ヘタリ然ルニ右ハ在米大使住電第二六八号中駐米英國大使ノ談ニ同代理公使帰任後ノ報告ニ基キ近キ将来ニ於テ承認スルナラントノコト且聯合國同時ニ承認スヘキ申合アリタル趣旨ニ反スルヲ以テ本官ハ之ニ対シ抗議ヲ申込ミ本官ガ帝國政府ヨリ訓令ヲ受クル迄即チ本月四日迄右公文發送方見合ハスコトヲ承諾セシメタリ又仏白伊モ昨夜承認ノ訓令ニ接セル由英國承認ノ形式ハ当国政府ガ「パン、アメリカン」諸国ニ与ヘタル保証ヲ以テ満足ストノ条件ナリ就テハ帝國政府ニ於テモ右諸国ト同時ニ承認セラルル様致度ニ付大至急御訓令アリタシ尚其形式ハ英仏諸国ト同様ニテ差支ナキヤ併セテ御訓令アリタシ

米代表者等間ノ會議其後ノ經過並終ニ十月十九日ヲ以テ憲政黨政府ヲ事実上ノ墨国政府トシテ承認スルニ至レル事情等ハ大略迭次ノ電報ニテ御承知ノ通ニ有之候処八月二十八日附機密第六七号報告後ノ經過ニ重要ナル關係ヲ有スル公表文書等一括送付旁諸電報内容ト重複ヲ厭ハス左ニ經過大略ヲ記述シ供御参考候

墨国各派領袖ニ宛テタル汎米會議ノ勸告書ニ対シ「カランサ」將軍ヨリハ回答容易ニ到ラズ終ニハ結局同將軍ハ該勸告無視ノ態度ヲ採ルノ意ナルニアラスヤトサヘ疑ハルルニ至リタル折柄九月十日憲政黨政府外交部長ハ在「ヴェラククルース」米國政府特派代表者「シリマン」氏ニ「カランサ」將軍ノ回答ナルモノヲ手交シタリ但シ形式ハ外交部長ヨリ汎米會議參列者一同ニ宛テタル書翰ノ体裁ニ依リ而シテ其回答要旨トスル所ハ勸告ヲ拒絕スルト同時ニ憲政黨政府承認ノ可否決定ヲ目的トスル會議ノ開催ヲ提議スルニ在リ先ツ墨国ノ内政ヲ外國政府ノ主動又ハ調停ニ依リ決スル如キハ到底同意シ得サル所ナリ若夫汎米會議參列者等ヨリ發セラレタル勸告ニ応セン乎是即チ自ラ墨国ノ主權ヲ損傷スルモノニシテ又墨国内政ノ決定ニ外國ノ干涉ヲ許スノ俑ヲ作

四〇〇 十二月三日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府ヲ英仏白伊各国ト同時承認ニ関
シ至急回訓方稟請ノ件

第六〇号

住電第五九号ニ関シ英仏白伊公使ト会谈ノ末同時ニ承認ノ公文ヲ發スルコトシ帝國政府ノ電訓アル迄見合ハスコトニ取計ヒタルニ付可成本月四日午前中ニ御回訓アル様致度公文ノ内容ハ無条件トシ協議ノ上決定スルコトセリ

四〇一 十二月三日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

墨国時局ニ関スル米國及中南米六國ノ會議ノ
經過並其決定ニ依ル墨国カランサ政府承認ニ
付報告ノ件

公第三六五号

(大正五年一月十二日接受)

大正四年十二月三日

在米特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

墨国時局ニ関スル当国國務長官及拉丁亞米利加六共和國駐

スモノナリ單ニ此根本義ノミニ依ルモ右勸告拒絕ノ理由充分ナリト述ヘ次ニ「カランサ」將軍カ「マデロ」ノ暗殺ニ際シ「コアウイラ」州知事トシテ天下ニ義ヲ唱ヘテ以来幾多腥慘ナル戦闘ヲ重ネ終ニ「ウエルタ」ヲ逐ヒ更ニ「ヴィーヤ」ノ反謀ニ遭ヒテ又之ヲ排撃シ今日ノ勝利ヲ贏チ得タル事歴及「カランサ」党現下ノ地位ノ鞏固ナル所以ヲ縷説シ此假自然ノ發展ニ任セハ遠カラスシテ平和克復サレ墨国民ノ渴望セル自由ヲ享受スルニ至ルヘシト結論シテ前掲根本義以外尚勸告拒絕ノ理由ヲ存スル所以ヲ指摘シタル後最後ニ一転シテ汎米會議參列者等又ハ其任命ニ係ル委員等ト「リオ格蘭ド」ニ沿ヘル國境ノ一地点ニ於テ会合ヲ催フシ國際見地ノミヨリシテ墨国問題ヲ商議セムコトヲ提議セリ但シ右会合商議ノ目的トシテ「カランサ」氏カ果シテ承認スルニ必要ナル総テノ資格ヲ具備セル事実上ノ政府ヲ設ケ居ルヤ否ヲ攻究シ若然リト認ムルニ於テハ汎米會議參列者等ハ各自本國政府ニ之カ承認ヲ勸奨セラレタシトノ趣旨ヲ掲ケ居リ畢竟憲政黨政府ノ承認要請ニ外ナラス(附屬第一号参照)九月十一日朝刊諸新聞紙ニ「ヴェラククルース」電報トシテ右「カランサ」將軍ノ回答ナルモノ掲載セラルルヤ在華府

「ヴィヤ」党代表者等ハ其翌十二日ノ諸新聞紙上ニ於テ汎米會議参列者等ニ対シ近々「カランサ」將軍回答中記載ノ諸点ヲ駁撃シタル通牒ヲ致スヘキ旨ト共ニ其通牒予想梗概ナルモノヲ公表セリ之ニ抛レハ其反駁要点ハ(一)「カランサ」党カ墨国ノ主要部分ヲ支配セリトノ点(二)「ヴィヤ」將軍ハ反動者等ニ依リ贈賄セラレ「カランサ」ニ叛シタル者ナリトノ点(三)「カランサ」將軍ニ依リ主宰セラレタル憲政党カ「ウエルタ」ヲ覆シタリトノ点及(四)「ヴィヤ」將軍ヲ以テ反動者ナリトセル点ニ関シ此等主張ヲ以テ無稽ヲ誣ヒントスルモノナリトナシ最後ニ「若「カランサ」ニシテ真ニ憲政ヲ回復セムト希望セル者ナラハ何故現ニ「カランサ」ノ支配ニ属スル地域ニ住居シ而シテ「マデロ」大統領内閣員中ノ先任者トシテ合法ノ墨国大統領タルヘキ「ターグル」氏ヲ直ニ大統領トシテ布告セスヤ」ト結論セリ今當時ノ「カランサ」党対「ヴィヤ」党ノ実力關係ヲ觀ルニ「ヴィヤ」党ノ軍勢ハ日ニ益々非ニシテ「ザパタ」將軍ニ就テハ殆ンド聞ク所ナク而シテ「ヴィヤ」軍ハ九月初頃「コアウイラ」州首都「サルチヨ」(Gatillo)ヲ失ヒ次デ「デウラン」(Durango)ヲ奪ハレ更ニ九月九日当府國務省ニ

達セル情報ニヨレハ「ヴィヤ」軍ニ取り北部第一ノ要害ト看做サレタル「トロン」(Torreon)ヲモ終ニ捨テ「バシムバ」(Bachimba)方面ニ退却セリトノ事ナリ尙當時國務省其他ノ筋ニ達セル情報ハ頻リニ「ヴィヤ」軍配下ニ在ル北部墨国ノ動搖不穩ヲ報セリ

九月中葉頃諸新聞紙ハ多ク將ニ紐育ニテ開催サルヘキ汎米會議ニテ「カランサ」党政府ヲ承認シ若ハ之ニ有利ナル決定ヲ見ルヘシトノ予測ヲ伝ヘタルガ九月十六日ノ或新聞紙ハ米國國務省ヨリ「デウランゴ」「ソノラ」及「チワワ」諸州ニ駐在セル米國領事官ニ対シテ同地方ニ在ル総ヘテノ米人ニ迅速引揚ノ警告ヲ与ヘタル上ニテ領事官自身等モ引揚クヘシトノ訓令ヲ發シタル事実ヲ發見セル旨ヲ報スルト同時ニ右國務省ノ措置ニ対シ在華府「ヴィヤ」党代表者ヨリ抗議セリトノ記事ヲ掲ケタリ更ニ國務省ハ一面九月十五日附ヲ以テ墨国國境地方動搖セルノ事実ニ顧ミ従前勸告シ来リタル通り米國民ハ当分ノ内米墨國境米國內ニ留マラムコトヲ重ネテ勸告スル旨ヲ告示セリ其後諸新聞紙ノ發表シタル所ニヨレバ「デウランゴ」其他二州ヨリ米國領事官及米國在留民引揚ニ関スル國務省ノ訓令ナルモノニ関シ「ヴ

ィヤ」党代表者カ抗議の試問ヲナシタルニ対シ國務長官ハ九月十七日附書翰ヲ以テ是當該地方不穩ノ実況ニ因ルモノニシテ千九百十四年四月以来カカル訓令ハ屢々發セラレ又在墨都米國代表者ハ実ハ爾来本件ニ関シテハ standing instructions ヲ有セル次第ニシテ今回ノ米人引揚勸告ノ如キ異トスルニ足ラス尚今回ノ措置ヲ執ルニ至リタル直接ノ原因ハ米國政府特派代表者「カローサース」(George C. Carothers) ヲリ「ヴィヤ」將軍ニ於テ其支配ノ下ニ在ル地域内ニ於ケル匪賊ノ行為ニ対シ責任ヲ負ハスト声言セル旨ノ電報ニ接シタルカ為メナリトノ趣旨ニテ回答セリ但同回答ハ単ニ米國民ノ引揚勸告ニ関スル点ノミニ弁明ヲ留

際シ當日「ヴィヤ」党代表者ハ前ニ記シタル「カランサ」將軍ノ回答ヲ反駁セル「ヴィヤ」党政府國務長官「ロムバルド」ヨリ在華府「ヴィヤ」党代表者「ロレンチ」ニ宛テタル電報ナルモノヲ公表セリ要スルニ「カランサ」將軍ノ回答ヲ各点ニ就キ悉ク駁撃シタルモノナルガ差シテ重要ナラサルニ付其要点摘録ハ之ヲ略ス但シ公表ニ係ル電文ナルモノハ茲ニ之ヲ添附ス(附屬第二号)

第四回汎米會議ハ紐育ニテ九月十八日愈々開催セラレタルガ其閉會後國務長官ニ隨行セシ書記官ヨリ左ノ通り公表セリ

八月十一日ノ會議ニ於テ(一)墨国各派妥協ノ上事実上ノ政府ヲ樹立セムコトノ勸告ヲ發スル事及若其結果樹立セラレタル事実上ノ政府ニシテ墨國人及外國人ノ生命財産ヲ保障スルニ於テハ更ニ其實質ニ就キ討究スルコトナクシテ之ヲ承認セムコトヲ各参列者ノ代表スル政府ニ勸奨スル事(二)但若右勸告ノ目的トスル如キ墨国各派ノ妥協不可能ナルトキハ墨國人及外國人ノ生命財産ヲ保護スルニ必要ナル實質上及道義上ノ能力ヲ有スル仮政府ヲ承認セムコトヲ各参列者ノ代表スル政府ニ勸奨スル事ヲ議決シタ

九月十八日紐育ニテ第四回汎米會議開催セラレントスルニ

リ然ルニ各派ノ妥協ニ基ク政府ノ出現不可能トナリタルニ付今次ノ會議ニ於テ前記議決ノ趣旨ニ則リ各参列者ハ各自ノ政府ニ向ツテ参列者等ノ所見ヲ以テスレハ今ヤ前記議決(ニ)依リ事実上ノ政府ヲ承認スルノ時機到達セリトノ上申ヲナスヘキコトニ議決シタリ曩ニ墨国各派領袖ニ對シ勸告ヲ發シタルハ蓋シ一国内乱ニ當リ事実上ノ政府ヲ承認セムトスルニ際シ予備手段ヲ執ルヘキ國際法上ノ權利ヲ事情ノ許ス限リ最モ穩当ナル方法ヲ以テ行使シタルニ過キス之ヲ以テ墨国内政ニ干渉シタルモノトナス可カラス内政干渉ノ如キハ本會議中曾ツテ考量ニ上リタルコトナシ抑モ墨国ノ鎮定ハ全然墨国人民ノミニ依リ決セラルヘキ問題ナリトノ事ハ終始本會議ノ精神トシタル所ナリ而シテ世界各国政府ニ依リ承認セラルヘキ政府ハ右ノ如キ結果ヲ齎ラシ墨国ノ福祉ヲ保障スルニ足ルヘキモノナラムコト本會議ノ敢ヘテ信セムトスル所ナリ

(附屬第三号参照)

右公表ヲ見ルヤ当方面ニテハ早クモ右ハ無論「カランサ」黨政府ノ承認決行ヲ意味スルモノナリト一般ニ觀察セラレ亦「カランサ」黨側ニ於テモ同様ノ觀察ヲナセルモノノ如

旨各自国政府ニ報告セリ

十月十八日第六回即チ最終ノ汎米會議ヲ華府國務省ニ於テ開催シ各参列者ノ代表セル政府ヨリノ回訓ニ基キ「カランサ」黨政府承認ノ日取及手續等ニ就キ協議シタル結果同日國務長官ヨリ左ノ通り公表セリ

(汎米會議) 参列者等ハ各自国政府ノ訓令ニ依リ明日「カランサ」將軍ヲ行府長官(Chief Executive)トセ

ル事実上ノ墨国政府ヲ承認スベシ

次テ其翌十九日ヲ以テ愈々米国政府及本會議参列拉丁亜米利加六国政府並ニ「コロンビア」「ニカラグワ」兩國政府ハ憲政黨政府ニ對シ事実上ノ墨国政府トシテノ承認ヲ行ヘリ前記十月九日ノ汎米會議ノ結果トシテ國務長官ヨリ公表ヲ行ヒタル際報道セラレタル如ク承認ハ右會議参列諸国各個別々ニ行フノ形式ニ依リタレトモ實際ニ於テハ相互ノ間ニ打合ヲ遂ケタルモノニシテ何レモ大体米国國務長官ヨリ在華府憲政黨政府代表者「アレドンド」(Arredondo)ニ宛テタル十月十九日附書翰ト同様ノ内容及形式ヲ採リタリ國務長官ノ書翰訳文左ノ如シ

ク爾來「カランサ」將軍始メ当方面ニ於ケル同黨代表者等ノ對米態度頗ニ一變シ盛ニ米国大統領乃至政府ノ對墨政策ヲ稱讃スルニ至レリ反之「ヴィヤ」黨ハ漸次米国ニ對シテ怨言ヲ連ネ惡声ヲ放チツツ一面極力「カランサ」黨ノ斷シテ斯ク実力ヲ有スルモノニアラサル所以ヲ吹聴スルニ努メタリ右ノ如ク九月十八日ノ汎米會議ノ決議ハ事實ニ於テ憲政黨政府ノ承認決行ヲ意味スルモノナリト一般ニ解セラレタルニ拘ラス米国國務省側ニ在ツアハ右ハ單ニ実力アル者ヲ承認スヘシトノ主義上ノ決定ニ止マリ必スシモ「カランサ」ヲ認メ「ヴィヤ」ヲ排スルノ趣旨ニアラス要ハ愈々承認決行ノ際認メテ以テ実力ヲ有ストセラルル最優者ナルニ在リトノ弁明ニ努メタリ而シテ九月末頃ヨリ十月初ニ掛ケ國務長官ハ「カランサ」黨及「ヴィヤ」黨代表者及特派員等ヲ引見シテ彼等双方ノ主張ヲ聴取シ十月九日ニ至リ第五回汎米會議ヲ催シ其結果トシテ同日夕左ノ通り國務長官ヨリ公表セリ

事實ニ就キ慎重ナル討究ヲ行ヒタル後(汎米會議)参列者等ハ「カランサ」黨ヲ以テ事実上ノ墨国政府トシテ承認スルニ足ル要素ヲ具備スル唯一ノ党派ナリト認定シ其

擇啓陳者合衆国大統領ニ於テ此機會ヲ以テ「ヴェヌスチアノ、カランサ」ヲ行政長官トセル事実上ノ墨国政府ニ對シ承認ヲ行ハレ候義茲ニ貴下ニ致通告候事本官ノ欣快トスル処ニ候尚合衆国政府ハ「カランサ」將軍ニ於テ其任命ヲ決セラレ次第事実上ノ政府ノ外交代表者ヲ正式ニ華府ニ迎ヘムコトヲ欲スルト同時ニ之ト相互のニ大統領ニ於テ其選任ヲ行ハレ次第外交代表者ヲ事実上ノ政府ヘ信任派遣スヘク候

右ノ趣速カニ「カランサ」將軍ニ御通報相成候様致度此段得貴意候敬具(附屬第四号参照)

同日「アレドンド」氏ハ國務長官ト会谈ヲ遂ケタル後左ノ趣旨ノ公表ヲ行ヘリ

「カランサ」政府ノ承認ハ汎米政策ノ勝利ニシテ早晚墨国ニ於テ平和ト常態トヲ回復セシムルニ至ルヘキコト疑ヲ容レス(中略)外人ハ國際友誼ニ基キ國際法上並ニ現存条約上其当然受クヘキ保護ハ現ニ之ヲ受ケ居リ又將來繼續シテ之ヲ受クヘシ外国資本ハ之ヲ歡迎ス又内乱ニ依リ国外ニ出テタル墨国人ニシテ其婦墨カ墨国政府ノ安固ニ對シテ重大ナル脅嚇トナラサル者ニハ其婦国ヲ許可

スヘキ特赦令ヲ発セラルヘク「カランサ」氏ハ同令用意
中ナリ鉄道及電信機關ハ今ヤ迅速回復セラレツツアリ
(中略)「マデロ」ノ顛覆以來三ヶ年合衆國ハ終始革命
ノ恒友タリ又自由主義ニ同情ヲ有スルモノタルコトヲ示
セリ吾人ハ今日當ニ此事(原文「之」)トアリ意義不明ナ
ルモ承認ヲ指スモノナラン)ヲ賀スルノミナラス実ニ之
ヲ以テ汎米政策ノ勝利トシテ祝スル者也(附屬第五号參
照)

右墨國政府ノ承認ヲ行ヒタル日附ヲ以テ一面米國大統領ハ
千九百十二年三月十四日ノ中央上下兩院協同決議ニ依リ大
統領ニ委任セラレタル權限ニ基キ墨國ヘノ兵器彈藥及軍需
品ノ輸出禁止令ヲ發布スルト同時ニ他面大藏長官ニ宛テタ
ル指令ニ依リ承諾シタル事実上ノ墨國政府又ハ其実力支配
ノ下ニ在ル地域内ニ於ケル商工業ノ用ニ供スヘキ軍需品ハ
右禁止令ニ對スル除外例ヲナスモノトシテ墨國ヘノ輸出ヲ
許可スヘキ旨大藏長官ヨリ各地稅關長及當該官憲ニ訓達ス
ヘシト命シタリ而シテ右指令中示セル処ニ依レハ「チワワ」
「ソノラ」二州ト合衆國トノ境上及下「カリフォルニア」
州沿岸諸港ニハ未タ有効ニ「カランサ」黨政府ノ支配權及

之ヲ賠償スヘシ但シ右ハ追ツテ定メラルヘキ方法ニ依
リ評定サルヘキモノトス政府ハ尚適法ナル財政上ノ義
務ニ就キ責任ヲ負フベシ

二、墨國ノ住民ヲシテ其内外人ノ區別ヲ問ハズ總ヘテ眞
正ナル正義ノ恩惠ニ浴シ且革命ニヨリ起リタル政府ノ
支持ニ協力セシメムカ為メ法律ト秩序ノ軌道ヲ逸セサ
ル範圍内ニ於テ平和ヲ克復スヘキ事ハ第一ニ憲政黨政
府ノ念トスル処ナリ普通犯罪ハ之ヲ処罰スヘシ又適當
ノ時機ニ於テ國情形勢ノ必要ニ応ジ大赦令ヲ發布スヘ
シ但シ同令ハ之ニ依リ赦免サルヘキ者ノ民法上ノ責任
ヲ免除スルモノニアラス

三、政教ノ分離ヲ立テ且公安ヲ害スルコトナキ範圍内ニ
於テ自己ノ良心ニ基ケル各人信教ノ自由ヲ保障シタル
所謂改正法ナル墨國根本法ハ之ヲ嚴守スベシ以是何人
ト雖其宗教上ノ信仰ノ故ヲ以テ生命自由及財産ヲ侵害
セラルルコトナシ

寺院ハ現行法律ニ基キ国有財産トシテ存続セラルベク
而シテ憲政黨政府ハ礼拝ノ目的ノ為ニ必要ト認メラル
ル諸寺院ノ讓与ヲナスコトニ同意スベシ

ハザルモノト認メ此等ノ地方ニ對シテハ右禁止令即時施行
サルヘキモノナリトナセリ(附屬第六号及第七号參照)

今回ノ承認ヲ得ルニ付「カランサ」黨政府ヨリ汎米會議ニ
提出シタル條件ナルモノニ就テハ十月九日「カランサ」黨
承認決定ノ公表ヲ行ヒタル際米國國務長官ヨリ口頭ヲ以テ
宗教団体ニ關係ヲ有スル何人ニテモ墨國ニ歸ルコトヲ得ヘ
シ而シテ曾テ政治ニ関与シタルコトナク亦將來關係セサル
シタル外當國政府筋乃至汎米會議參列者等ニ於テ一切公表
ヲ避ケタルカ十月十一日ノ華府新聞紙上ニハ右承認決定ニ
達スルニ先チ「カランサ」將軍ヨリ外國人ノ保護、損害要
償ニ對スル保証、政治犯ニ對スル特赦及僧侶ノ待遇ニ関シ
明確ナル保障ヲ与ヘタル事ヲ探知セリト記シ汎米會議ニ
「カランサ」將軍側ヨリ提出シタル黨書中ニ掲記セル条項
拔萃ナルモノ左ノ通り列記セリ

一、憲政黨政府ハ墨國ニ在スル外國人ニ對シ墨國國法
ノ下ニ当然享有スヘキ一切ノ保障ヲ与フヘク又其生命
自由及財産權ハ之ヲ充分ニ保護スヘシ尚革命ニ依リ生
シタル外國人ノ損害ハ正當ト認メララル範圍内ニ於テ

四、農地整理問題ノ決定ニ際シ沒收処分ヲ行フコトナシ
本問題ハ政府ノ猶領有セル土地ノ公平ナル分配、個人
又ハ団体ヨリ不法ニ取上ケタル地所ノ還付及若シ必要
ノ場合ニハ廣大ナル地所ノ買収及徵發其他國法ノ許容
スル總ヘテノ土地取得ニ依リ解決サルベシ

墨國憲法ハ特權ノ設定ヲ禁ス故ニ其所有者ノ何人タル
ト又其經營サレ居ルト否トヲ問ハス有ユル種類ノ財産
ニ對シ將來ハ公平ナル評価ニ從ヒ之ニ比例スル額ノ租
稅ヲ課スベシ

五、個人又ハ合法ノ政府 (Legal Governments) ヨリ
適法ニ獲得シタル財産ニシテ特權又ハ独占權ヲ構成セ
サルモノハ一切之ヲ尊重スベシ

六、凡ソ一國ノ安寧ハ懸リテ各自其市民ノ本分ヲ明瞭ニ
理解スルニ在リ依ツテ政府ハ一般國民教育ノ發達ニ努
ムベシ而シテ該目的遂行ノ為ニハ善意ニ提供セラルル
總ヘテノ協力ヲ利用スヘク私立學校ノ設立ノ如キ國法
ノ規定スル所ニ遵ヒ之ヲ許可スベシ

右列挙以外ノ条項ハ合憲的政府ノ設立方法ニ関ス之ニ依レ
ハ第一ニ市會次ニ中央議會組織ニ関スル選舉ヲ行ヒ首長

(First Chief) 即チ「カランサ」將軍ヲ指ス)ハ中央議會ヲシテ從來發シタル命令ヲ法律トナスカ將又否決スルカニ就キ議決セシムカ為ニ議會ニ對シテ既往ニ於ケル行政權ノ行使ニ関シ報告スルノ順序トナリ居リ又議會ハ国内ヲ通シテ大統領及副大統領ノ選舉ヲ命シ右結了次第首長ヨリ當選シタル大統領ニ行政權ノ引渡ヲ行フヘキコトノ約定ヲモ存セリ(附屬第八号参照)

註 右ハ英訳文ニ依レルモノナル処原文ハ西文ナリ大体ハ在墨臨時代理公使ヨリ外務大臣宛十月三十日附公第八七号記載「翻譯ノ内容ト一致セルモ尚二三差異ヲ留ム尚在華府憲政黨政府特派代表者「アレドンド」ハ最近右当方新聞紙掲載各項ハ大体正確ナル旨言明セリ

尚右六条項保障ナルモノ諸新聞紙ニ掲載ノ翌日即チ十月十二日ノ華府郵報ハ十月七日附ヲ以テ「アレドンド」ヨリ汎米會議主宰者タル米國國務長官ニ宛テタル書翰ナルモノヲ發表セリ六条項ヲ記載セル覚書ナルモノハ即チ之カ附屬書タルモノト認メラルルニ付右書翰ヲ附屬第九号トシテ茲ニ添付シ置ク

尚前記ノ如ク十月九日國務長官カ特ニ宗教団体關係者ノ墨國復帰ニ関シ言明ヲ行ヒタル所以ハ由來墨國動乱ヲ通シテ常ニ問題トナリタルハ「カトリック」宗派ニシテ現ニ汎米

會議ニ於テ「カランサ」黨政府承認ニ決セリトノ報道伝ハリテヨリ以來「ニュー、オルレアンス」市ニ根拠ヲ有セル在墨「カトリック」宗派關係者ヲ始メ市俄古市方面ノ「カトリック」宗派団体ハ盛ニ之ニ反對シ米國大統領ノ政策ヲ非難セルカ為ナリ米國政府当局者ニ在ツテモ「カトリック」宗派問題ハ到底無視シ得サルモノト認メタルモノノ如ク現ニ十月十二日当方新聞紙上ニテ發表セラレタル処ニ依レハ「ランシング」氏ハ承認問題決定ニ先チ在華府「カランサ」黨政府代表者「アレドンド」ニ對シテ特ニ該問題ニ對スル「カランサ」黨政府ノ態度ニ就キ問合ヲナシ之ニ對シ「アレドンド」ハ十月八日附ヲ以テ信仰ノ自由ハ誠實ニ保障スヘク各人ノ生命財産及宗教上ノ信仰ハ墨國憲法及現行法規ニ依レル公安ノ維持及墨國ノ制度保存以外ニ何等ノ制限ヲ附セスシテ之ヲ尊重スヘキ旨ノ声明ヲ載セタル回答ヲ致セリ(附屬第十号参照)「カトリック」宗派側ニ在リテハ其後漸次反對運動ノ氣勢ヲ抑ヘ鋒鋲ヲ慎ミタレトモ猶憲政黨政府此後ノ態度ニ就テハ少カラス不安ノ念ヲ抱ケルモノノ如シ尚革命遂行將來ノ予測外外人損害賠償國債償還等ニ関スル「カランサ」將軍ノ意見ヲ載セタル Bernard Gal-

lantノ「カランサ」將軍會見記事ニシテ九月二十六日ノ当地日曜「スター」(The Sunday Star)ニ掲載セラレタルモノハ「アレドンド」ニ於テモ確實ナルモノナルコトヲ言明セル次第ナルヲ以テ右切抜附屬第十一号トシテ茲ニ添附シ置クベシ但シ「ガラント」ナル者ハ実ハ「カランサ」黨政府ノ「パブリシチー」事務ニ關係セル者ナリ

兎モ角右ノ如クニシテ千九百十年十一月「フランシスコ、マデロ」革命ヲ起シテヨリ五年千九百十三年二月「マデロ」暗殺セラレテヨリ約三年茲ニ漸ク墨國動乱ニ一段落ヲ劃シタリ少クトモ米國政府ノ對墨政策上ニハ一段落ヲ告ケタリ而シテ米國言論界ノ之ニ對スル論調ヲ觀ルニ多クハ米墨間終ニ事ヲ構フルニ至ラスシテ兎モ角モ一段落ヲ告ケタルヲ慶シテ安堵ノ色ヲ呈シ「ウキルソン」派民主黨新聞雜誌等

ノ内ニ於テ之ヲ以テ大統領ノ所謂戒心時節到來主義ノ勝利ナリトシテ特ニ吹聴ニ努メタル者ノ外ハ從來ノ對墨政策ニ就テハ此際是非共ニ多クヲ論セス若夫「カランサ」將軍カ果シテ能ク国内平定ノ大業ニ堪フヘキ見込アリヤ又或時機ニ於テ「オブレゴン」將軍其他カ墨國ニ有勝チナル例ニ倣ヒ反噬スル如キコトナカルヘキ乎等ノ点ニ至リテハ一部ニ

頗ル懷疑乃至悲觀ヲ抱ケル者ナキニアラサレトモ多数ハ何等確タル予測ヲ試ミサルナリ蓋シ当方面ニ於テ今日迄一般ニ認メラレ居ル処ハ其性情ノ剛腹ナルト正直ナルトノ二点ヲ除ク外ハ大任ニ堪フヘキ資格「カランサ」將軍ニ於テ殆ント欠如セリト云フ事ニシテ或ハ此剛腹正直ノ資格こそ墨國ノ如キ國情ニ在ツテハ軀カテ平定ノ業ヲ全フセシムル所以ナラサルヘキ乎ト論スル者モアリ

在華府憲政黨政府特派代表者「アレドンド」ハ十月十九日ノ國務長官其他ヨリノ承認ニ関スル書翰ヲ携ヘ直チニ当地ヲ出發歸墨シタルカ其後当地ニ歸來セリ然ルニ今猶合衆國始メ南中米諸國政府ト墨國政府トノ間ニ代表者ノ交換行ハレスは一ニ「カランサ」將軍現ニ猶北墨各地歴訪巡撫中ニシテ他ヲ顧ミルノ暇ナキカ為ナリト云ヘリ

最後ニ「ヴィヤ」軍ノ形勢如何ヲ觀ルニ近來当方面ニ達スル新聞電報等ニシテ大体ニ於テ真ヲ伝フルモノナリトセハ漸次「ヘルモシヨ」(Hermosillo)以北墨國西北部合衆國境上方面ニ追ハレ勢威益々振ハス所謂會議黨(Conventionist)政府ナル組織モ漸次崩潰シツツアリトノ事ナルカ現ニ華府ニ於テ從來「ヴィヤ」黨劃策ニ密接ナル關係ヲ有

セル一人ノ如キモ最早形勢挽回ノ望ナシト称シ居レリ
本件ニ関スル前回郵報中記シ置キタル關係モアリ序ニ米墨
境上ノ警報ニ就キ附記センニ其後所謂米人側關係ノ陰謀ナ
ルモノニ就テハ米国政府取調ノ結果ニ関シ何等発表ヲ見ス
又当局者ニ於テ何等措置シタル形跡ハ少クトモ表面觀察ニ
テハ之ヲ認メス隨時警報ハ依然トシテ到リ中ニモ著シク世
間ノ注意ヲ惹キタルハ彼ノ精悍ヲ以テ聞エタル「オロヅコ」
(General Pascual Orozco) 將軍カ八月末米国領土内ノ農
家ヲ襲ヒ却テ米国側手勢ニ追撃セラレ終ニ「シーラ、ブラ
ンカ」(Sierra Blanca) 附近ニ於テ斃レタル事實ナリトス
尚最近ニ至リ辺境防備司令官「フアンストン」將軍ヨリ当
地陸軍省ニ寄セタル報告ナリトテ諸新聞紙ノ掲クル処ニ掬
レハ「ヴィヤ」將軍ハ其今日ノ窮況ハ一ニ米国政府ノ誘致
シタルモノナリト憤慨シ之カ報復ノ手段トシテ米国境上地
方ヲ襲撃スヘシト揚言シ居レル由ナリ固ヨリ俄カニ信ハ置
キ難キモ聞込ミノ仮報告ストノ事ナリ「カランサ」黨政府
承認決定ノ風聞行ハレテ以来「ヴィヤ」將軍ニ於テ米国政
府ヲ敵視シ右ニ類スル暴言ヲナセル由ハ屢々報セラレタル
処ニシテヨシ俄カニ信ハ置キ難シトスルモ其同將軍ノ性格

以上貴電第五九号及第六〇号ト共ニ在米大使ニ転電アレ

四〇三 十二月五日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国ノ「パン・アメリカン」諸国ニ与ヘタル

保障及聯合各国承認ノ公文提出ニ関スル件

第六一号

貴電第四一号中御問合セノ保障トハ外人ノ生命財産利権保
護革命ニ依リテ蒙ムリタル損亡並ニ信教ノ自由等ヲ指スモ
ノナリ(十月三十日公信第八七号拙信参照)然ルニ伊国公
使ハ過日右保障附承認ノ意ヲ外務大臣代理ニ洩ラシタルニ
外務大臣代理ハ墨西哥国政府ハ米国ノ承認ハ無条件ニテ前
記ノ保障ヲ与ヘタルコトナケレハ条件附承認ハ之レヲ受ケ
サル旨答ヘタル由ニテ夫カ為メ聯合國代表者ハ承認ノ公文
ヲ發スルニ当リ単ニ六月中「ヴェラクルス」ニ於テ「カラ
ンサ」カ為シタルト同様ノ保障ニ信用ヲ措ク云々ノ文句ヲ
用ユルコトニ止メタリ帝國政府承認延引ノ次第ハ直チニ聯
合国代表者ニ伝ヘタル所仏国公使ハ本国政府ヨリ聯合國ト
同一ノ歩調ヲ取ルヘキ旨電訓ニ接シ居ルヲ以テ帝國政府ノ
電訓アル迄公文提出ヲ見合スコトヲ提議シ伊白モ亦略ホ之

ニ顧ミ当方面ニ於テ幾分之ニ関シ不安ノ念ヲ抱ケルハ事實
ナリト觀察セラル
右統報申進候 敬具

追ツテ在墨岩崎代理公使ニ写送付致置候也
註 附屬書省略

四〇二 十二月四日

石井外務大臣ヨリ
在墨国岩崎臨時代理公使宛(電報)

日本ノカランサ政府承認ハ諸国ト同時タルヲ

要セザル件

第四一号

貴電第五九号第六〇号ニ関シ帝國政府ガ墨国政府承認ヲ決
定スルニハ閣議ヲ経上奏御裁可ヲ請フ等所要ノ手続ニ時日
ヲ要スヘク之等ノ手続ハ在墨国英仏其他ノ代表者ノ各本國
政府ヨリ受ケ居ル訓令ノ実行ヲ猶予セシメ居ル間ニ取運ブ
コトハ不可能ナルニヨリ他国代表者ニシテ至急承認訓令ヲ
実行セントスルニ於テハ強キテ此等諸国ヲシテ猶予セシム
ルノ必要ナキニ付右ニ御合アリタシ尚貴電第五九号墨国政
府ガ「パン、アメリカン」諸国ニ与ヘタル保障トハ如何ナ
ルモノナリヤ電報アリタシ

レニ同意ノ色アリシモ独リ英國代理公使ハ当国政府ト至急
交渉スヘキ重大ナル事件アル趣ニテ延引ニハ断然同意シ難
キヲ述ヘ之レカ為メ前記諸国ハ十二月四日ヲ以テ公文ヲ提
出スルコトナレリ

在米大使済

尚往電第五九号及第六〇号ハ当館ニ於テ在米大使ニ転電セ
リ

四〇四 十二月五日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本ノカランサ政府承認ノ形式ニ関スル件

第六二号

英伊露伊白ノ承認ハ十二月五日發表セラレタリ帝國政府承
認ノ形式ニ付テハ本邦人ノ損害ハ他国人ニ比シ極メテ少額
ニシテ昨電報ノ通「カランサ」ノ宣言モアリ又客年九月二
十八日公信第一三二拙信ノ保障モアリ損害ハ当然仕払ヲ受
クヘキモノニ有之旁々他国ヨリ遅レ居ル此際ナレバ聯合側
ノ如ク「カランサ」宣言ニ言及セス独逸國政府ノ如ク公文
ニハ單ニ承認ヲ声明スルニ止ムル方可然カト存ス
右御参考迄ニ申進ス

四〇五 十二月六日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

事實上ノ墨国政府承認ニ関スル件

機密第八五号

(大正五年一月六日接受)

大正四年十二月六日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

右ニ関シテハ不取敢往電第二七一号及同電別電第二七二号ヲ以テ及御回報置候処実ハ本月四月英國大使ヲ往訪シ内談ヲ遂ケタル際本使ハ在墨英國代理公使ハ已ニ承認決行ノ事ニ定メ居レル趣在墨岩崎代理公使來電ノ次第ヲ語リ先般英國大使ノ本使ニ内談セラレタル趣旨ト聊カ相違セル廉アリト告ケ其辺ノ事情ニ就キ聞糺シタル処英國大使ハ実ハ在墨代理公使ニ於テ聯合國側同時承認ノ趣旨ニ依リ実地ノ狀況ニ照ラシ可成速カニ之ヲ実行スベキ旨ノ訓令ヲ帶ヒ居タルモ嚮日内談ノ際同代理公使ハ猶「ヴェラクルス」ニ在リ何時墨都ニ帰任シ得ルヤ不明ナリシ為無論急速承認ヲ行フ如キ見込ナク旁同代理帰任報告ノ上ニテ承認ヲ実行スベキ

旨内話シタル次第ナリ然ルニ其後同人モ存外早ク帰任スルヲ得タルト同時ニ又一面独逸側カ近ク墨国ニテ大ニ活躍ヲ試ミムトスルノ形跡モアリトノ事ニテ頓カニ方針一變英國政府ヨリ在墨英國代理公使ニ對シテ墨国ニ於ケル独逸側ノ劃策形勢如何ニ依リテハ至急承認ヲ決行スルモ差支ナキ旨電訓ニ及ヒタル次第ナリ然ルニ當時恰カモ本使紐育ニ出張中ナリシ為右ノ次第内報洩トナリシ訳ナリ云々致説明候右説明ハ聊カ首肯シ難キ点モアレドモ別ニ追求詮索ヲ行フヘキ必要モ無之候ニ付更ニ相談ノ結果別紙写ノ如キ電報ヲ英國大使ヨリ本國政府ニ發シ同時ニ之ヲ在墨英國代理公使ニ転電シ置クコトニ決シタル次第ニ有之候尚右往電第二七二号中援用シタル新聞報道ナルモノハ本省ニテ現ニ当地華府郵報御購読相成居リ致分明候義ト信スレドモ現ニ当館ニテ譯書及附属書類調製中ナル墨国時局會議並憲政黨承認ニ関スル統報(右ハ主トシテ後日記録ノ為ニ作リタルモノニシテ材料ノ蒐集撰採等ニ隙取りタル次第ナリ)ニモ網羅セラレ居候得共為念右新聞記事写三種茲ニ致添付置候但十月十一日ノ華府郵報ニ掲載セラレタル六条項保障ナルモノハ其翌十二日ノ同紙ニ載セタル所謂十月七日附「アレドンド」

四〇六 十二月八日 石井外務大臣ヨリ
在墨國岩崎臨時代理公使宛(電報)

英仏等五國ニ依ルカランサ政府承認公文ノ文

言電報方並カランサノ保障ニ付問合ノ件

附 記 上奏案(墨國ノ事實上ノ政府承認ニ関スル件)

第四二号

貴電第六二二号ニ関シ帝國政府ニ於テモ「カランサ」政府ヲ承認スルコトトナルヘキ処右貴電所載英仏等五國カ承認ニ用ヒタル文句全文ヲ承知シタキニ付在貴地右五國公使ニ就キ御確メノ上回電アリタシ若シ同文ニアラサレハ重ナルモノノ全文及其他ハ差違ノ点ヲ挙ケラルルノミニテ可ナリ尚ホ貴電第六一號聯合國代表者承認ノ文句中六月中「ヴェラクルス」ニ於ケル「カランサ」ノ保障ナルモノハ当地ニ於テ承知セサルニ付要領電報アリタシ

(附 記)

上奏案

客年七月「ウエルタ」大統領辭職ノ後「カランサ」、「ヴィーヤ」等互ニ墨西哥國ノ政權ヲ争ヒ兵乱常ニ絶ユルコトナカリシカ本年七八月ノ交ニ至リ「カランサ」軍頓ニ勢ヲ加

ヨリ汎米會議ノ主宰者トシテノ國務長官宛書翰ノ附属タル覺書拔萃ト認メラレ候処一昨日ノ會談ニ於テ國務長官ハ右新聞掲載條項一読ノ上其正確ナル報道ナル事ヲ確言スルト同時ニ十月十二日ノ華府郵報掲載ニ係ル信教殊ニ加持力教會問題ニ関スル十月八日附「アレドンド」書翰ヲ存スルノ事實ヲモ指摘シ且右以外ニハ何モノモナキ旨附言セラレ(此点本使ヨリ念ヲ押シタリ)候尚右六條項保障ニ関スル新聞記事ニ就テハ実ハ爾來「アレドンド」ニ間接ノ方法ヲ以テ確カメ方試ミ居タル処今日迄ノ処唯同人ハ右新聞報道ハ大体正確ナリト言明シタルノミニテ其原文タル西文ニ就キ正確ナル英訳文ヲ作製シ貰ルル事(直接當館ニ對シテニハアラス唯仲間ニ立チテ聞合ハセ居ル米人ニ對シテ)ヲ約セル俟今猶其約ヲ果サザル次第ニ有之候

往電第二七一第二二二号、補説旁此段申進候 敬具

本信写送付先

在英井上大使

在墨岩崎代理公使

註 別紙省略

へ「ヴィーヤ」軍ハ北部地方ニ「サバタ」軍亦南部地方ニ僅カニ其命脈ヲ維持スルニ過キサルニ至リ「カランサ」ハ首都ヲ占領シテ事実上ノ政府ヲ樹立セルニ付北米合衆国並南米及中米諸国ハ本年十月十九日「カランサ」政府ヲ墨西哥国ニ於ケル事実上ノ政府トシテ承認シ十一月二十八日西班牙国亦其承認ヲ与ヘタルカ続テ英、仏、露、伊、白五国亦同政府ヲ承認シ「カランサ」政府ハ本月五日此旨ヲ公表セルニ就テハ帝国亦此際同政府ヲ墨西哥国ニ於ケル事実上ノ政府トシテ承認スルハ事宜ヲ得タル措置ナリト認メ慎重熟議ノ上閣議決定致候

右上裁ヲ仰ク

大正四年十二月

外務大臣男爵 石井菊次郎

註 右ハ十二月八日上奏御裁可ヲ得タリ

四〇七 十二月九日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英露仏三国ニ依ル「カランサ」政府承認公文

ノ文言回電ノ件

第六三三号

United States Government as well as to the South American Representatives at Washington Conference, with respect to the protection of the lives, properties and interests of foreigners, and of consciousness of its international obligations and of over-capability to comply with the (脱) as also with respect to the satisfaction for damages caused by the revolution.

The Government of His Britannic Majesty will be pleased to receive formally at London a diplomatic representative of the de facto Government as soon as it shall suit Senior Carranza to nominate such a representative, and I have the honour to inform you further that I am directed to remain for the present in Mexico to represent His Majesty's Government in quality of their Chargé d'Affaires.

I avail myself of the occasion etc.

Iwasaki

以下公露、仏国公使、露国代表へ

J'ai l'honneur de notifier à Votre Excellence que le Gouvernement de la République Française a décidé de reconnaître comme Gouvernement de fait du Mexique celui dont le Général Venustiano Carranza est le chef.

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四〇七

貴電第四二号ニ関シ英露仏ノ公文左ノ如シ但シ住電第六一号「カランサ」保障ニ信用云々ト報告セシモ其ノ後聯合國代表者間ニ於テ変更セラレタリ尤「カランサ」ノ「ヴェラクルス」ニ於ケル保障宣言ハ其代表者カ米国ニ与ヘタル保障ト實質ニ於テ同一ナリ伊太利国公使本日不在ニ付明朝公文入手ノ上電報ス白耳義国ノ分ハ仏国ト略ホ同一ナルニ付略ス

I have the honour to inform Your Excellency, in accordance with instructions which I have received from His Britannic Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs, that His Majesty's Government who have already, for some time past, as you are aware, recognized the predominant position attained by Senior Carranza, have now decided to extend recognition to the de facto Government of Mexico of which Senior Venustiano Carranza is the chief executive.

I am instructed to inform you at the same time that His Majesty's Government have noted with satisfaction the assurances which the Representatives of Senior Carranza in Washington have given to the

Le Gouvernement Français m'a chargé de vous expliquer à cette occasion qu'il ne doute pas que dans l'intérêt commun de nos deux pays le Général Carranza réalisera les assurances qui ont été données par son Représentant au Gouvernement des Etats-Unis en ce qui concerne la vie et les biens des étrangers aussi bien que la réparation des dommages causés par la révolution, la sauvegarde d'intérêts existant et l'accomplissement d'engagements contractés selon les règles du droit international.

Le Gouvernement Français qui fait les vœux les plus sincères pour la prospérité du Mexique se plaît à espérer que les principes du droit et de la liberté dont s'inspirent la République des Etats-Unis du Mexique et la République Française ne recevront aucune atteinte dans les rapports qui unissent les deux pays et que les établissements et les intérêts des citoyens français au Mexique pourront librement s'y développer de même que les entreprises des citoyens Mexicains sont assurées de trouver en France l'accueil le plus hospitalier.

Désireux de mettre immédiatement en pratique ces dispositions amicales, le Gouvernement Français

六四四

sera heureux de recevoir à Paris le représentant diplomatique du Gouvernement de fait du Général Carranza et m'accréditer auprès de celui-ci en la même qualité comme Envoyé Extraordinaire et Ministre Plenipotentiaire.

Veillez agréer etc.

(註 以下露國公文ナリ、省略ス)

四〇八 十二月十三日

石井外務大臣ヨリ
在墨國岩崎臨時代理公使宛 (電報)

日本ハカランサ政府ノ事実上ノ承認ヲ決定シ
タル旨通告方訓令ノ件

別 電 石井外務大臣ヨリ在墨國岩崎臨時代理宛電報第
四六号
右通告案文

第四五号

帝國政府ハ事実上ノ墨國政府トシテ「カランザ」ノ政府ヲ承認スルコトニ決定シタルニ付貴官ハ別電第四六号ノ通同政府ニ申入レ通告済ノ上ハ其月日直ニ電報セラルヘシ
(別 電)

十二月十三日石井外務大臣岩崎臨時代理公使宛電
報第四六号
カランザ政府ノ事実上ノ承認通告案文

ment in the quality of their Chargé d'Affaires.
I avail myself of the occasion etc.

Ishii

四〇九 十二月十三日
在墨國岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府承認通告済ノ件

第六五号

十二月十三日承認ノ旨通告セリ

四一〇 十二月十五日
石井外務大臣ヨリ
大隈總理大臣宛

日本政府墨國カランサ政府ノ事実上ノ承認通

告済ニ付上奏方ノ件

附 記 一 十二月十六日附外務省告示第四十八号
二 墨國政府ノ事実上ノ承認經過摘要

政送第一七一号

「カランザ」將軍ノ政府ヲ事実上ノ墨國政府トシテ帝國政府ニ於テ承認スルコトハ予テ閣議決定相成居候処右決定ノ主旨ニ依リ右承認ノ旨ヲ「カランザ」將軍ニ通告スルト同時ニ「帝國政府ハ帝國臣民力同將軍ノ政府ノ下ニ於テ一切ノ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四〇九 四一〇

No. 46

In accordance with instructions which I have received from the Minister for Foreign Affairs of His Majesty the Emperor of Japan, I have the honour to inform Your Excellency that the Imperial Japanese Government have decided to recognize as the de facto government of Mexico the Government of which General Venustiano Carranza is the chief executive.

I am instructed to inform Your Excellency at the same time that the Imperial Japanese Government have no doubt that the Japanese subjects shall enjoy under your Government the treatment of the most favoured nation in all respects, especially with regard to the protection of their persons, properties and interests, as well as in the matter of the satisfaction for their damages caused by the revolution.

The Imperial Japanese Government will be pleased to receive formally at Tokyo a diplomatic representative of the de facto Government as soon as it shall suit General Carranza to nominate such a representative, and I have the honour to inform You further that I am directed to remain for the present in Mexico to represent the Imperial Japanese Govern-

事項就中身体財産及利益ノ保護並墨國革命中ニ其蒙リタル損害ノ補償ニ関シ最惠國待遇ヲ享クルコトヲ信シテ疑ハサル旨ヲモ併セテ通告方本月十三日在墨岩崎代理公使ニ電訓ニ及ヒ候処同日右ノ通告ヲ為シタル旨本月十四日同代理公使ヨリ電報有之候

右 上奏方可然御取斗相成度此段及照会候也

(附 記一)

外務省告示第四十八号
帝國政府ハ本月十三日ヲ以テ墨西哥ニ於ケル事実上ノ政府トシテ「カランザ」將軍ノ政府ヲ承認セリ
大正四年十二月十六日

外務大臣男爵 石井 菊次郎

註 右ハ十二月十六日附官報ニ掲載セラレタリ
(附 記二)

墨國政府ノ事実上ノ承認經過摘要

(十二月十六日政務局第二課調)

客年七月「ウエルタ」大統領辭職ノ後「カランザ」「ヴィーヤ」等互ニ墨西哥國ノ政權ヲ争ヒ兵乱常ニ絶ユルコトナカリシカ本年七八月ノ交ニ至リ「カランザ」軍頓ニ勢ヲ加

ヘ「ヴィーヤ」軍ハ北部地方ニ「サバタ」軍亦南部地方ニ僅カニ其命脈ヲ維持スルニ過ギザルニ至リ「カランザ」ハ首都ヲ占領シテ事実上ノ政府ヲ樹立セルニ付北米合衆国並南米及中米諸国ハ本年十月十九日「カランザ」政府ヲ墨西哥国ニ於ケル事実上ノ政府トシテ無条件ニテ承認シ併セテ汎米會議ニ在華盛頓「カランザ」政府代表者ヨリ提出シタル(一)外人保護損害賠償ニ対スル保証財政上ノ義務ニ対スル責任引受(二)平和克復犯罪処罰ノ特赦令發布(三)信仰ノ自由保障及寺院ノ財産ニ関スル件(四)農地整理(五)適法ニ取得シタル財産ノ尊重(六)教育ノ普及私立学校立許可ノ六条項ノ保障ヲ列記セル覚書(別紙参照)ニ信頼スルノ旨ヲ附言セリ其後西班牙国ハ十一月二十八日英仏露伊白ノ五国ハ十二月各「カランザ」ノ事実上ノ政府ヲ承認シ同政府ハ本月五日此旨ヲ公表セリ帝國政府亦此ノ際同政府ヲ墨西哥国ニ於ケル事実上ノ政府トシテ承認スルヲ以テ時宜ヲ得タルノ措置ナリト認め別紙写ノ通同政府ニ通告方在同国岩崎臨時代理公使ニ電訓セル処本月十三日以テ右承認ノ手續ヲ了シタル趣同臨時代理公使ヨリ回電アリタリ

(別紙)

ンシスコ、マデロ」及副大統領「ホセー、ピノ、スクレス」ヲ暗殺シ及直接之ニ關係シタル者ハ断シテ其恩恵ヲ受ケサルヘシ

三、国家ト宗教ノ分立及各人信仰ノ自由ヲ定メタル墨国憲法即チ所謂改正法(Leyes de Reforma)ニシテ公安ニ害ナキ以上ハ嚴密ニ之ヲ遵守スヘク随テ何人ト雖モ其信仰ノ故ヲ以テ生命身体及財産ニ対シ迫害ヲ受クルコトナカルヘシ又寺院ハ從來規定ノ法律ニ基キ依然国有タルヘキモ憲政軍政府ニ於テ礼拝執行上必要ト認ムルモノハ凡テ之ヲ讓与スヘシ

四、土地分割問題解決ノ為メニ何等没収ヲ行フコトナク右問題ハ政府ノ尚ホ所有ニ属スル土地ノ公平ナル分配多クノ個人若クハ団体ヨリ不正ニ取上ケタル土地ノ回收ト若シ必然ト認メタル場合ニハ広大ナル土地ヲ買上ケ及国法ニ違犯セサル所有手段ニ依リ之ヲ解決スルコトヲ得ヘシ墨国ノ憲法ハ特權ヲ禁セリ故ニ凡テ所有物件ハ其所有主ノ何人タルト現ニ營業セラレツツアルト否トヲ問ハス今後ハ公正ニ評定セラレタル租税ヲ納ムヘシ

五、個人若クハ正当ナル政府ヨリ正当ニ獲得シタル所有物

「カランザ」政府カ汎米會議ニ提出セル政綱「カランザ」政府カ其在華府特派代理官ヲ通シテ汎米會議ニ提出シタル書類ハ公ニ發表セラレサルモ去ル十月十日附在華府「アソシエーデッド、プレス」ヨリトシテ去ル二十三日当地「メキシカン、ヘラルド」新聞ニ發表セラレタルモノハ右書類ノ拔萃ナルモノノ由ニテ内外人ノ保護政事犯人ノ大赦信教及土地問題ニ関ス

一、憲政軍政府ハ墨国ニ在住スル外国人ニ対シ墨国々法上享クルノ權利ヲ有スル各保障ヲ確實ニ附与シ其生命財産ニ係ル權利ノ享有ヲ保障スヘシ尚革命ノ為ニ其財産ニ対シテ蒙リタル損害ノ要求ニシテ右調査委員ニ於テ正当ト認メタルモノハ之ヲ賠償シ且ツ憲政軍政府ハ財政上ノ義務ニ対シ責任ヲ負フヘシ

二、憲政軍政府ハ墨西哥共和国内ニ在スル内外国人ヲシテ正義ノ恩沢ニ浴セシメ且革命ニ依リテ起リタル政府ヲ協力援助セシメンカ為メ法律ト秩序ノ軌道ヲ脱スルコトナクシテ平和ヲ克復スルコトニ勉ムヘシ

普通犯罪法律ニ抛リ之ヲ処罰スヘク又適當ノ時機ニ於テ国家ノ必要ニ応シ大赦令ヲ発スヘクモ墨国大統領「フラ

件ニシテ特權又ハ專有權ヲ構成セサル限りハ之ヲ尊重侵スコトナカルヘシ

六、(未完)

四一 十二月十八日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ 石井外務大臣宛

墨国カランザ政府ノ事実上ノ承認ニ関スル件

機密公第八号

(大正五年二月一日接受)

大正四年十二月十八日

在墨国

臨時代理公使 岩崎 三雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

汎米諸国政府ガ「カランザ」ノ事実上ノ政府ヲ承認シテヨリ既ニ一ヶ月余ヲ經過シ帝國政府ノ未ダ御承認ナキハ聯合國政府殊ニ少クトモ英國政府ト同時ニ御承認セラルルニ在ラントハ私カニ推察致シ居リ候処珍田大使ヨリ閣下宛往電第二六八号ニヨリテ帝國政府ハ英國政府ニ同一ノ步調ヲ取ランコトヲ御申込ニ相成リタルコトヲ確メ又同時ニ英國大使ノ内話ニヨリテ英國政府ノ意向ヲモ承知致候ニヨリ在墨英國代理公使ノ帰任ヲ待チテ打合ヲナサント存居リ候処

(十一月廿九日日本官ハ英国公使館ヲ訪問シ事務代理英国領事「サーストン」氏ニ面会セシニ同代理公使ハ「ヴェラクルス」ニ到着セシモ鉄道不通ノ為メニ同地ニ滞在中ノ旨ヲ語レリ)十二月二日午前仏国公使来訪シ自分ハ本国政府ヨリ承認ノ訓令ヲ受取リタルモ聯合國相一致シテ同時ニ承認ヲナス方後日損害賠償ノ要求ヲ為ス上ニ於テモ頗ル有効ナリト信ズルガ帝國政府ノ意向如何ト問ハレタルニヨリ本官ハ右ハ無論帝國政府ニ於テモ賛同スル所ナルベシト答ヘタル処然ラバ承認ノ時日及形式等ニ付キ本日午後英白伊公使ト協議スル筈ナルニヨリ出席セラレタシトノコトナルニヨリ之ヲ諾シ而シテ其際英国代理公使ハ一昨夜(十一月三十日)帰任ノ由ヲ聞キタルニヨリ直チニ同代理公使ヲ訪問シ英国政府ノ訓令如何ヲ問合セタルニ同官ハ直チニ起草中ナリシ承認ノ公文ヲ示サレタリ之ニ対シ本官ハ珍田大使来電ノ趣旨ヲ語リ此ノ訓令ハ何時受領セラレ又何時公文ヲ發送セラルル積ナリヤト質問セシニ華府滞在中既ニ其訓令ヲ受ケタルモノニシテ本夕承認ノ公文ヲ發送スル考ナリトノ事ナリシカバ本官ハ之ニ対シ开ハ在華府貴国大使ノ珍田大使ニ述ベラレタル処ト甚ダシキ差異アリ帝國政府ニ於テハ貴

国大使ノ言ヲ信ジ貴国政府ハ貴官帰任後ノ報告ヲ俟ツテ承認ノ訓令ヲ發セラルルモノト思考ス抑モ帝國政府ハ墨国ニ対シテハ其利害關係貴国等ノ如ク重大ナラズ併モ今日迄其承認ヲ延引セルハ畢竟貴国政府等ト行動ヲ共ニセントスル趣旨ニ外ナラズ加之ナラズ現ニ在英大使ヲ通シテ其提議ヲナシツアルニ何等ノ通告モナク承認セラルルハ余リノ仕打ナラズヤト詰問セシニ否ナ本日午後貴官ヲ訪問スル積リナリト答ヘラレタルニヨリ本官ハ本夕公文ヲ發セラルルニ本日午後本官ニ通告セラルルモ已ニ遅ク之レ同一ノ歩調ヲ取ル趣旨ニ反セズヤト再ビ詰リタル所否一日二日遅ルルモ同一ノ歩調タル意味ニ於テハ格別差支ナカルベシトノ言ナルニヨリ本官ハ先ンジテ承認スル者ニ於テハ差支ナカルベキモ遅ルル者ニ取リテハ然ラス(当国政府ハ帝國政府ノ承認ヲ最モ期待シ居レリ)假令貴官ノ説ノ如ク一兩日ノ差異ハ差支ナシトスルモ此レ日英兩國政府協議上一方ノ都合ニテ遅ルルナラバ致方ナキモ何等ノ通告モナク先ンジテ承認セラルルハ決シテ同一ノ行動ヲ取ルモノト言フベカラズト反言シタル末本官ガ帝國政府ヨリ訓電ヲ受領スル迄即チ仮リニ四日迄トシ公文發送見合方ヲ要求シ之ヲ承諾セシメタ

ルニ然ラバ明日外務大臣代理ニ面会シ英国政府承認ノ内意ヲ伝フルモ差支ナカルベシト云ヒタルニヨリ之ニ対シ本官ハ異存ナシト述ベ帰館後直チニ電報シタル次第ニシテ午後仏国公使館ニ於テ仏、英、伊、白ノ代表者ト会合セシニ仏国公使ハ同一ノ歩調ヲ取り同時ニ承認スルコトハ聯合國ノ利益ナルヲ切言シ他三国公使ノ同意ヲ得テ帝國政府ノ訓電ヲ俟ツコトニ決シ且ツ四日正午再ビ会合シ承認ノ公文ヲ討議シ同一ノ趣旨ニテ發送センコトヲ申合セタリ超ヘテ四日午前十一時貴電第四一號接受致セシニヨリ直チニ公使會議ニ出席シ帝國政府ガ承認ヲ与フルニハ尚ホ多少ノ日子ヲ要スル旨ヲ語リタルニ仏国公使ハ再ビ帝國政府ノ承認アル迄延期說ヲ唱ヘ伊白ノ公使モ稍同意ノ色アリシガ英国代理公使ハ断然「否」ノ一語ヲ以テ拒絶シタルニヨリ遂ニ同四日午後英、仏、伊、白、露(仏国公使代理ス)ノ諸国ハ承認ノ公文ヲ發送スルコト、ナレリ依テ本官ハ退散後直チニ英国代理公使ヲ訪問シ日英同盟ノ關係上ヨリ又本件ニ関スル兩國ノ行懸リヨリ本官ハ貴官ガ我政府ノ為メニ先ツ延期說ヲ主張セラル、ナラント予期セリ然ルニ仏国公使ノ提議ニ対シ貴官ガ独リ反对セラレタルハ頗ル怪訝ニ堪ヘザル次

第ナリ、今春「オブレゴン」占領中ノ如ク外人ニ危害圧迫ヲ感ゼシムル時ニアリテハ無論一日モ緩フスベカラズト雖モ昨今稍靜穩外人ニ危險ヲ及ボス虞ナキ今日特ニ米國ノ承認アリテヨリ既ニ一ヶ月半ヲ經過シタル今日ニ於テハ数日ヲ遅ルルモ何等ノ差支ナカルベシト思考ス依テ本国政府ヘ報告ノ都合モアリ貴官ノ意見承知致シタシト述べタルニ同官ノ答ニハ外人ニ対スル圧迫ハ今尚ホアリ現ニ在「ユカタ」英國領事ハ退去ノ命ニ接セリ余ハ鉄道不通ノ為メ「ヴェラクルス」ニ一週間滞在シ去ル十一月三十日帰任直チニ承認ヲナサントセシモ遂ニ去ル二日マテ延引シ居リタルニ貴官ノ請求ニヨリテ又モ今日迄延期シ既ニ二週間遅レタル次第ナリ来ル月曜日(六日)ヨリ至急交渉スベキ重大事件アルニヨリ乍遺憾最早延期スル能ハズトノコトニテ相別レ申候要スルニ在華府英国大使ノ言ト英国代理公使トノ間ニハ非常ナル差違アルヲ認メ申候承認ノ形式ニ就テハ第五九号拙電ノ通り最初「カランサ」代表者ノ汎米會議ニ与ヘタル保障ヲ引用スル意ナリシガ伊国公使ハ外務大臣代理ト内談ノ顛末ヲ語り外務大臣代理ハ「カランサ」政府ハ汎米會議ニ保障ヲ与ヘタルコトヲ否認

シタル由ニテ此ノ保障ニ言及スルモ何等ノ効果ナカルベシトノ意見ニテ本年六月十二日「ヴェラクルス」ニ於テナシタル「カランザ」ノ宣言(「カランザ」代表者ハ汎米會議ニ此ノ宣言ヲ繰返シタルニ過ギズ)ニ言及スルコトニ決シ仏國公使ノ草稿中ニハ明ニ此ノ宣言ノ保障ヲ引用セシガ遂ニ提出ノ際再ビ原案ヲ採用シ独リ伊國公使ハ承認ノ旨ヲ通告スルト同時ニ外交官派遣及接受及兩國民ノ保護方ニ付テ附言セリ

右及報告候 敬具

公信写送付先 在英大使

在米大使

四二二 十二月二十二日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

在華府カランザ代表者ヨリ汎米會議ニ提出ノ

書翰及附屬書写送付ノ件

機密第九二号

(大正五年一月二十一日接受)

大正四年十二月二十二日

在米特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

右ニ関シ貴電第一五四号御訓令ノ趣致敬承候茲ニ在華府「カランザ」党代表者「アレドンド」ヨリ汎米會議ニ提出シタル千九百十五年十月七日附書翰及同附屬書類中所謂六条項保障ナルモノヲ記載セル千九百十五年六月十一日「ヴェラクルス」ニテ発シタル「カランザ」將軍ノ宣言書英訳文並ニ他ノ附屬書類ノ摘要一括左記ノ通及御送付候ニ付御查收相成度尚右御電訓ニハ覚書及關係文書全文写ト有之ニ拘ラス重要ト認メラルル文書以外ハ前記ノ如ク唯要点書付ニ留マルヲ以テ何等カ御都合モアルヘシト存シ不取敢本日往電第二八二号ノ通回電旁為念申添ヘ置キタル次第ニ有之候

迭次ノ報告ニ依リ御承知ノ通素汎米會議ハ秘密會議ニ屬シ隨時國務長官乃至國務省ヨリ簡短ナル公表ヲ行ヒタル外ハ同會議參列者等ハ何レモ嚴シク口ヲ緘シテ一切語ラス本月三日附公第三六五号及同六日附機密第八五号拙信中ニモ記シ置キタル通「アレドンド」ニ対シ間接ノ方法ヲ以テ書類入手方疾クヨリ試ミ居レトモ今以テ成功セス然ルニ一面右二拙信ニ添附御送付ニ及ヒタル新聞紙掲載ノモノハ「アレドンド」及國務長官ニ於テモ大体正確ナリト認メ居ル次第ニテ

モアレハ此等新聞切抜写ヲ送付スルコトニ止メ置キタル次第ナル処右貴電御訓令ノ次第モアリ國務省墨國課ニ就キ相当事情ヲ述ヘテ其入手方ヲ試ミタルニ同課長ニ於テ我申出ヲ諒トシ我ニ於テ之ヲ機密取扱トナスヘシトノ条件ノ下ニ「アレドンド」ノ書翰及其附屬書類中重要ト認メラルル所謂六条項保障ナルモノヲ記載セル分丈ノ写ヲ取ラセ呉レ其他ハ松岡書記官ニ一覽ヲ許シタルノミニ有之而カモ附屬電報写ヲ除ク外ハ長文ノモノニシテ単ニ走り読ニ依リ記憶ニ留メタル処ニ基キ摘要ヲ作リタルモノナレハ其御含ニ願ヒ度尚松岡書記官一読ノ結果ニ依ルモ全文写茲ニ添附シアル文書以外ノモノハ墨國政府承認問題ニ関シ我ニ取リ差シテ參考トモナラサルモノト認メラレタルノミナラス其内容ハ兎モ角トシテ元來本件文書ノ機密取扱トナリ居ル事實ト國務省ニ於テ「アレドンド」署名ニ係ル原文シカ存セサル事ト又墨國課長其折ノ態度トニ願ミ頗ル長文ナル全部書類ノ写ヲ國務省ニテ我カ為ニ調整方乃至ハ原文全部ノ一時貸与持出方要請モ致シ兼テ唯其内是非入用ナリト思ハルル前記二文書ノ写ヲ自ラ取り他ハ一読ニ止メタル訳ナリトノ事ニ有之候前掲公第三六五号拙信中六条項保障訳文ノ後ニ附記シタル

通本年六月十一日ノ「カランザ」ノ宣言自体ノ西文ナリシ事ハ勿論ナレトモ國務長官ニ宛テタル本件文書ハ其原文何レモ英文ニ有之墨國課長ハ米國政府ノ関スル限り Plan of Guadalupe 並ニ千九百十四年十二月十二日及千九百十五年六月十一日ノ「カランザ」ノ宣言英訳文ハ何レモ「カランザ」政府ノ公訳文 (Authorized translation) ト看做スヘク又此等文書ハ疾ク已ニ墨國ニ於テ公表セラレタルモノノ翻譯ト云フニ止マリ實質ニ於テ機密ノ性質ヲ帶ヘルモノニハアラサルモノヲ汎米會議ノ關係ニ於テ國務長官ニ差出シタリトノ点ハ之ニ機密ノ性質ヲ帶ヒサセ又米墨兩國政府ノ関スル限り本件文書ノ存在ニ依リ一種ノ拘束力ヲ生セルモノナリト内話シタル趣ニ候乍序本件文書ハ何レモ英文ナルニ拘ハラス本月六日附機密第八五号末段ニ記セル如ク「アレドンド」カ中間ニ立チ本件文書入手方ヲ試ミタル米人ニ対シ其原文タル西文ニ就キ正確ナル英訳文ヲ作製スヘシトテ幾回督促ヲ重ヌルモ今ニ遷延要領ヲ得サルハ全ク一時逃カレノ口実ニ過キサルコト明カニ候
尚 Plan of Guadalupe 外ニ宣言ハ前陳ノ通已ニ疾ク公表シタルモノナレハ若是非共御入用ノ義ナラハ其原文在墨公

使館ニテ入手ノ事容易ナルヘシト存候

右入手文書等送付旁申進候 敬具

追ッテ千九百十五年十月七日附「アレドンド」書翰ハ本文前掲二拙信附屬ノ十月十二日華府ポスト切抜写ト対照スルニ第二項ニ於テ前者ハ has afforded guarantees ト名詞複数トナリ居レル一点丈ノ差アルノミニ有之又別紙写中誤文又ハ誤字ト思ハルル点往々アレトモ右ハ原文其假ニシテ取写ノ際ノ誤記ニハ無之右為念申添候也

附屬文書目錄

一、千九百十五年十月七日附 Arredondo ヨリ米國國務

長官宛書翰全文写

一、Resumé of the Mexican Constitutionalist Revolution and its Progress. 摘要

一、Plan of Guadalupe signed by Sixty Four Officers of the Troops of the State of Coahuila, on the 26 of March 1913. 摘要

一、Declaration of Carranza, December 12, 1914. 摘要

一、Declaration to the nation by the First Chief

of the Constitutionalist Government of Mexico and Depository of the Executive Power of the Republic. 全文写

一、千九百十五年十月五日附「カランザ」ヨリ「アレドンド」宛電信摘要

一、千九百十五年十月六日附「カランザ」ヨリ「アレドンド」宛電信摘要

本信写送付先

在墨 岩崎代理公使

註 右附屬書類省略

四一三 十二月二十三日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本政府ノ承認ニ対シ墨国政府感謝ノ件

第六六号

墨国政府ハ十二月二十一日附公文ヲ以テ帝國政府ノ承認ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ尚左ノ通り附記セリ追テ右ハ英仏兩國ニ対シテモ同文ナリ仏国ハ未タ受取ラス内聞セル所ニ拠レハ墨国政府ハ仏国ノ行動ニ満足ナル由ナリ

The Constitutionalist Government are not disposed

to accept conditions of any kind which are previous compromise for the said recognition, and the Japanese subjects residing in this country can not enjoy greater guarantees than those enjoyed by the Mexicans.

四一四 十二月二十九日

石井外務大臣ヨリ
在墨国岩崎臨時代理公使宛(電報)

墨国政府ノ回答ニ関シ英國政府ノ措置振調査

方ノ件

第四八号

貴電第六六号ニ関シ英國政府ノ墨国政府承認文言ハ「カランザ」ノ代表者カ汎米會議等ニテ与ヘタル保障ニ満足スル旨ヲ具体的ニ記載シタルモノナルニ付「カランザ」政府カ右ノ回答トシテ国民待遇以上ニ及ハサル旨申越セルモノカトモ思ハルレドモ帝國政府ノ承認文言ハ之ト異ナリ帝國臣民カ「カランザ」政府ヨリ最惠国民ノ待遇ヲ享受スヘキヲ疑ハスト謂フニ在リテ兩者ノ間ニ區別アルニ付墨国側ヨリ帝國ニ対スル回答ニ英國政府ニ対スルト一律ニ国民待遇以上ノ保障ヲ与フルヲ得ストアルハ条理一貫セス加之右回答ノ文言ハ将来ニ於テモ帝國臣民ニ最惠国待遇ヲ拒ミ得ルモ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四一四 四一五

ノト墨国側ヨリ主張シ得ル根拠トモナルヘキ虞アル処右文言ニ対スル英國政府ノ措置振在貴地英國代理公使ニ御確メノ上電報アリタシ

四一五 十二月三十日

在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国政府ノ諸國ニ対スル回答ハ同文ナルモ尙

念ヲ押スベキヤ請訓ノ件

第六七号

貴電第四七号ニ関シ墨西哥國政府ノ聯合諸國ニ対スル回答ハ皆同文ナリ伊國政府ノ公文ノ如キハ保証又ハ待遇ニ付何等記載ナキニ失張同文ナルヲ見レハ「カランザ」カ此機会ニ乘シ外國人待遇ニ付キ将来ノ方針ヲ声明シタルモノナルヘシトハ一同ノ批評ナリ英國代理公使ハ格別重キヲ措カス回答文ヲ本國政府ニ郵送シ何等措置ヲ執ラス又汎亜米利加諸國ヘノ保証モアレハ必要ナシト云ヘルモ仏國公使ハ之ト反対ノ意見ニテ本國政府ニ電報シ何等カ措置ヲ執ルノ要アリト語レリ要スルニ右回答ハ無差別的ニ發セラレタルモノニシテ将来帝國臣民ノ待遇ニ付テハ他國臣民トノ間ニ差別ヲ設ケラルルトハ思ハレサルモ為念墨西哥國政府ニ対シ最

日本外交文書 大正四年第一冊 終

附 録 日本外交文書 大正四年第一冊 日附索引